

中学の標準時数の変遷に関する調査

—結果と提言—

2024年11月30日

東京学芸大学大森直樹研究室

はじめに

10年ほど前に所沢市にある学童保育の指導員がつぶやいていた。「近頃は子どもたちがなかなか学校から学童に来ない」「やっと学童に来てもぐったりしている」「放課後の遊びをつうじて子どもは育ってきたのに」。これらの言葉に接してから、学校の時数が増えていることについて研究するようになった。

義務教育諸学校の授業時数は国が定める標準時数にもとづいているが、標準時数は学習指導要領とあわせて改訂されてきた。学習指導要領の改訂にむけた議論が始まっているが、標準時数の改訂にむけた議論についても同時に進めていくことが、「子どもに相応しい教育課程の視点」から重要と思われる。

いま多くの義務教育諸学校では小学4年生から中学3年生まで1日に6時間の授業をしているけれども、それは子どもの生活に合っているのか。小学校については、1日に6時間は、子どもの生活に合わないこと、学習のあり方にも影を落としてることが、教育史研究と教員調査から見てきた(大森直樹『標準時数の変遷に関する調査－結果と提言』2024年6月、大森直樹編著・永田守・水本王典・水野佐知子著『学校の時数をどうするか－現場からのカリキュラム・オーバーロード論』明石書店2024年8月)。カリキュラム・オーバーロード(※)の解消が急務になっている。

中学についてはどうなのか。そうした問題意識から、標準時数の変遷について公立中学校等教員の見解を把握して、標準時数の改善に活かすための調査を2024年6月から9月にかけて行った。本報告書は、その結果と提言をまとめたものである。本報告書を手がかりの一つとして議論が起こり、中学生の生活と学習に合った授業時数のあり方が見えてくることを期待している。

大森直樹

※ カリキュラム・オーバーロードの語義

著者公表年		内容過多	時数過多	教育課程基準
白井2020	一般に、カリキュラムにおいて、学校や教師、生徒に過大な負担がかかっている状態			
白井2021	一般に、カリキュラムの内容が過多になっていて、学校や教師、生徒に過大な負担がかかっている状態	○		
奈須2021	カリキュラム・オーバーロードとは、授業時数との関係において、教育内容なり学習活動が過剰になっている状態	○		
大森2024	国の教育課程基準にもとづき学校が定めた教育課程の時数と内容が過多になっていて、子どもに過大な負担がかかっている状態	○	○	○

文献の詳細は12頁

目次

はじめに	1頁
I. 調査概要	3頁
II. 中学の標準時数の改善に向けた提言 — 教育史研究と本調査から	4頁
III. 調査前提 — 教育史研究から	8頁
IV. 調査結果1 — 図表 1～16から	13頁
図表1 5期経験271人の回答	
図表2 4期経験251人の回答	
図表3 3期経験379人の回答	
図表4 2期経験517人の回答	
図表5 1期経験193人の回答	
図表6 5・4期経験の国語担当72人の回答	
図表7 5・4期経験の社会担当77人の回答	
図表8 5・4期経験の数学担当77人の回答	
図表9 5・4期経験の理科担当79人の回答	
図表10 5・4期経験の音楽担当33人の回答	
図表11 5・4期経験の美術担当16人の回答	
図表12 5・4期経験の保健・体育担当31人の回答	
図表13 5・4期経験の技術・家庭担当36人の回答	
図表14 5・4期経験の外国語担当81人の回答	
図表15 5・4期経験のその他担当20人の回答	
図表16 5・4期経験522人の回答	
V. 調査結果2 — 自由記述から	38頁
VI. 自由記述一覧	44頁
1. 標準時数を下回る編成を恐れる傾向 25件	
2. 標準時数の量 46件	
3. 内容量と時数の関係 53件	
4. 標準時数の中に35で割り切れないものがあること 9件	
5. 特別活動の標準時数が35しかないこと 9件	
6. 時数編成の工夫 34件	
7. 要望や提案 73件	
8. 不登校との関係 16件	
9. 変遷の評価等 106件	
調査用紙(依頼書及び質問書)	68頁

I. 調査概要

調査者	東京学芸大学大森直樹研究室
調査目的／調査項目	標準時数の変遷について公立中学校等教員の見解を把握し標準時数の改善に活かす／各期の標準時数下の教育課程への評価
調査対象	1977・1989・1998・2008・2017標準時数下で勤務した公立中学校等教員
調査協力	一般財団法人教育文化総合研究所
調査協力／実施方法	一般財団法人教育文化総合研究所が配布した調査票のQRコードを回答者が読み取りインターネット画面から回答（2024年6月24日～9月30日）
回答者(有効票)	1,654人

回答者 1,654 人の標準時数の勤務経験別内訳

1977 標準時数下で勤務 283人	1989標準時数下で勤務 541人	1998標準時数下で勤務 930人	2008標準時数下で勤務 1,449人	2017標準時数下で勤務 1,625人		
○	○	○	○	○	○印全てで勤務 5期経験	271人
	○	○	○	○	○印全てで勤務 4期経験	251人
		○	○	○	○印全てで勤務 3期経験	379人
			○	○	○印全てで勤務 2期経験	517人
				○	○印全てで勤務 1期経験	193人
小計						(1,611人)
以上の他の○印の組み合わせによる勤務						43人
計						1,654人

回答者の勤務校所在地は、回答数が多い順に兵庫、岡山、山梨、福岡、北海道(100人以上)、大分、滋賀、山形、大阪、三重、神奈川、岩手、広島、新潟、千葉、静岡、石川、鹿児島、秋田、東京(10人以上)、その他 20 県で計 40 都道府県。

回答者小計 1,611 人の教科担当別内訳

	5期経験	4期経験	小計	3期経験	2期経験	1期経験	計
国語	40人	32人	(72人)	42人	64人	21人	199人
社会	42人	35人	(77人)	47人	84人	43人	251人
数学	37人	40人	(77人)	97人	83人	24人	281人
理科	39人	40人	(79人)	59人	75人	21人	234人
音楽	21人	12人	(33人)	14人	24人	6人	77人
美術	9人	7人	(15人)	6人	23人	5人	50人
保健・体育	13人	18人	(31人)	28人	69人	23人	151人
技術・家庭	22人	14人	(36人)	15人	24人	15人	90人
外国語	36人	45人	(81人)	61人	60人	21人	223人
その他	12人	8人	(20人)	10人	11人	14人	55人
計	271人	251人	(522人)	379人	517人	193人	1,611人

Ⅱ. 中学の標準時数の改善に向けた提言 ― 教育史研究と本調査から

1. 現状把握

1) 時数が過多で子どもの生活に合っていない

2017標準時数期間の教育課程(以下、2017標準時数下)は子どもの生活に合っていない。そのように多くの中学校等教員が考えていることがわかった。2017標準時数下について、子どもの生活に「やや合っていない」「合っていない」と回答したのは、標準時数を5期経験した教員(以下、5期経験)271人中186人(69%)、4期経験251人中173人(69%)だった。5期経験の自由記述。「午前4コマ・午後2コマでは昼食が13時頃になったり部活動の開始時刻が遅くなったりと、よいことはありません。」【13・16・39頁】

5期経験と4期経験は教歴において3タイプの標準時数を経験している。1つ目は平日1日時数が5.4時間の「第1次ゆとり標準時数」で1977と1989の標準時数が該当。2つ目は同5.8時間の「第2次ゆとり標準時数」で1998標準時数が該当。3つ目は同6時間の「肥大型標準時数」で2008と2017の標準時数が該当する。2017標準時数下の教育課程についてのきびしい評価は、これらの比較によるものだった。【11頁】

2) 歴代の中で2008と2017の標準時数下の評価がもっとも低い

5期経験と4期経験を合わせた522人による、子どもの生活に「合っていた」「やや合っていた」とする回答は、1989標準時数下について375人(72%)、1998標準時数下について237人(45%)、2008標準時数下について152人(29%)、2017標準時数下について162人(31%)だった。「第1次ゆとり標準時数」をプラス評価、「第2次ゆとり標準時数」をややマイナス評価、「肥大型標準時数」をマイナス評価の傾向が見られた。【37頁】

3期経験379人は、「第2次ゆとり標準時数」をプラス評価、「肥大型標準時数」をややマイナス評価。2タイプ以上を経験した教員は、いずれも、2008と2017の標準時数をもっとも低く評価する傾向が見られた。【19頁】

3) 時数が過多で子どもの学習も損なっている

2017標準時数下では子どもの学習も損なわれている。そのように多くの中学校等教員が考えていることもわかった。2017標準時数下について、子どもの学習が「やや充実していなかった」「充実していなかった」と回答したのは、5期経験175人(65%)、4期経験145人(58%)だった。3期経験の自由記述。「時間も内容も詰め込みすぎだ。とにかく教科書通り「行った」という事実を積み上げれば良いと上の方は考えているように思う」「子どもを主体とした授業などまやかしとなり」「疲れてドロップアウトする子どもがかなり増えている。」【14・17・41頁】

4) 平日1日時数増が授業準備の時間を少なくしている

各期の標準時数が子どもにとってどうだったのか。この中心課題を明らかにするため、標準時数の変遷が教員に与えた影響も調査した。「平日1日の標準時数の増加が影響していると思われる事項」を選んでもらった。5期経験223人(82%)と4期経験190人(76%)が、「授業準備をする時間が少なくなった」を選択している。【15・18頁】

5) 平日1日時数増が放課後の教員と生徒の会話も少なくしている

同じ設問に対して、5期経験の191人(70%)と4期経験の163人(65%)が、「放課後に生徒と話すことが少なくなった」を選択している。【15・18頁】

6) 平日1日時数増と不登校増

「平日1日の標準時数の増加が不登校生徒の増加と関係していると思うか」も尋ねた。「どちらかという関係していると思う」「関係していると思う」との回答は、5期経験148人(55%)、4期経験33人(53%)。4期経験の自由記述。「水曜日が5時間であるが、欠席者が減ることが多いし、ノ一部活の日も休みが減る。」【15・18・41頁】

7) 平日1日時数増と教職員病休者増

「平日1日の標準時数の増加が教職員の病休者の増加と関係していると思うか」も尋ねた。「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は、5期経験218人(81%)、4期経験193人(77%)。 【15・18頁】

2. 中学時数ガイドラインの提案

時数の過多は、「国が定めた標準時数それ自体の過多」と「学校における標準時数をこえた時数の積み増し」の総和により生じており(表1)、それぞれへの対処が必要である。まず前者へ対処案を5項からなる「中学校時数ガイドライン」として提案したい。

1) 時数の過多の見直し(その1)－週5日のうち6時間授業は2日までに

教育課程基準についての議論は「内容」から始めるのではなく、中学生の生活と学習に合った「時数」を見きわめることから始める必要がある。おとなの側から、あれも教えたい、これも教えたいと考えるだけでは、内容が過多になり、それに応じて時数も過多となり、子どもに無理と我慢を強いることになる。標準時数を1日5.4時間(週5日のうち6時間授業は2日)とすることを提案したい。その理由は以下である。

- ・平日1日時数が5.4時間だった1977と1989の標準時数に対して、5期経験と4期経験の教員の多くが、相対的にプラス評価をしていること。
- ・平日1日時数の増加が授業準備の時間を少なくして、「充実した授業準備」→「充実した授業」→「生徒も授業が楽しい」→「教員も授業が楽しい」という好循環を損なっていること。

1日5.4時間は、週27時間、年945時間となる。この枠内で、学習指導要領についての議論を進めるべきである。地球沸騰化と災害多発下の標準時数という観点も重要になる。高温多湿の通学や教室でも、子どもに我慢をさせて、毎日6コマ授業を受けさせる光景が全国化している。これを改める必要がある。

2) 時数の過多の見直し(その2)－50分授業を45分に

中学の標準時数は1単位時間を50分としているが、これを45分とすることも提案したい。その理由は以下である。

- ・平日1日時数が5.4時間だった1977と1989の標準時数は、今教員から相対的にプラスに評価されているが、当時生徒からは次の声もあった。「学校で、やめてほしいこと」は「50分授業」と「6時間目」(矢定2011:271)。
- ・制度史には40分の前例もある。現行の中学1・2年に対応する国民学校高等科1・2年においては、「一時ノ授業時間ハ之を四十分ス」とされて(米田俊彦2009:296)、1941～46年度に実施されていた。
- ・1994年には「中学校45分を基本」とする提案が現場の側からあり(北教組学校5日制検討推進委員会1994:40)、授業の一部を45分とすることは現在でも広く行われている。本調査の自由記述欄にも1単位時間を45分とする提案が多く寄せられた。 【41頁】

表1 年間総授業時数の実績 中学 全国平均

	標準時数 ①	実績	生徒会活動・学校 行事の時数	実績 B ②	積み増し ③ -①
2017 年度実績全国調査(悉皆) 中1	1015	1061.3	53.4	1114.7	99.7
2021 年度実績全国調査(抽出) 中2	1015	1058.5	44.4	1102.9	87.9

実績:各教科・道徳・総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動のみ)に充てた時数。

実績 B:文科省が年間総授業時数の実績として公表している値には「生徒会活動・学校行事」に充てた時数が含まれていないのでそれを加えたもの。

文部科学省(2019)、文部科学省(2023)より作成

表2 特別活動の実績 中学 全国平均

	標準時数内	標準時数外		計
	学級活動	生徒会活動	学校行事	
2017年度実績全国調査(悉皆) 中1	41.8	11.9	41.5	95.2
2021年度実績全国調査(抽出) 中2	41.7	10.4	34.0	86.1

文部科学省(2019)、文部科学省(2023)より作成

表3 「学習指導要領の特別活動の内容○」と「標準時数の特別活動の時数◎」(1学年あたり)

学習指導要領の特別活動の内容	1969標準 時数	1977標準 時数	1989標準 時数	1998標準 時数	2008標準 時数	2017標準 時数
学級活動(1977まで学級会活動)	○○	○○	○○	○○	○○	○○
生徒会活動	○	○	○	○	○	○
クラブ活動(1969・1977・1989まで)	○○	○○	○○			
学校行事	○	○	○	○	○	○
学級指導(1969・1977まで)	○○	○○				
◎の時数の計	50	70	35-70	35	35	35

表4 標準時数の中の35で割り切れない数

中学 1年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	外語	道徳	選択	総合	特活	総数
1969標準時数							125						50	
1977標準時数														
1989標準時数														
1998標準時数					45	45	90				0-30	70-100		
2008標準時数					45	45						50		
2017標準時数					45	45						50		

3)特別活動の時数は70時間に－生徒会等の時間をゆたかに

2017標準時数には、時数の過多以外にも不合理な諸点がある。その1つが、特別活動の時数が少なすぎることだ。どの学年も、学級活動に充てる35時間が配当されているが、生徒会活動と学校行事に充てる時数は配当されていない。「学習指導要領の特別活動の内容」と「標準時数の特別活動の時数」が不一致になっている(表2・3)。標準時数の積み増しを抑制する通知が文科から出されてからは、標準時数の位置づけの弱い特別活動が主な削減の対象とされてきた。3期経験の自由記述。「行事に当てる時間も無くなり、生徒同士が協働したりぶつかったりしながら、心豊かに成長する場面はなくなってきた」。まずは各学年の特別活動を70時間にして、時間割に学級活動と生徒会活動を書き込みやすくすることを提案したい。今、標準時数内と標準時数外の特別活動の時数は二重帳簿で把握しなければならず、煩雑であり、時数の正確な把握にもとづく議論を困難にしている弊害も緩和できる。【40頁】

4)教科・領域の時数は35の倍数に－時間割はわかりやすく

標準時数の中の不合理には、目立たないけれど、無視できないものがある。教科・領域の時数に35で割り切れないものがあると、1枚の時間割で1年を過ごすことができなくなる。年時数で示される標準時数は35で割ることで

週時数が求められるからだ。35で割り切れない教科・時数は、1998標準時数で増えた(表4)。その多くが2008標準時数で解消されたが、2017標準時数では1年の2教科1領域が35で割り切れないままだ。5期経験の自由記述。「年間を通じて一つの時間割で行えない状態は、負担を増やしている。時間割を複数回作成しなければならないことは勿論、今週は美術なのか音楽なのか確認したり」「日々の小さな手間の積み重ねは、小さくない負担」。【40頁】

5)当事者による自己決定の重要性

近年の国際法と国内法で大切にされている当事者による自己決定も重要だ。学校の時数や内容に、どれだけ子どもと教職員の意見が反映されているのか。当事者を決定から締め出すことが続いていることを改める必要がある。

3. 積み増しへの対処－現場に努力を求める前にやるべきこと

時数の過多を改めるためには、「国が定めた標準時数それ自体の過多」を改めることと合わせて、「学校における標準時数をこえた時数の積み増し」にも対処が必要だ。積み増しを助長する3つの要因の解消が急務である。

1)標準は上回っても下回ってもよいことの再確認

積み増しを助長する1つ目の要因は、2003年の文科通知(文科初923号)が「授業時数の実績の管理」を厳格化し、あわせて、「標準を上回る適切な指導時間を確保」の文言をひとり歩きさせて、標準の解釈の実質的変更をもたらしてきたことだ。必要以上に時数を積み増しする風潮が現場を覆うようになった。【8頁】

その弊害を除去するためには、①「実績の管理」を、行政による時数統制ではなく、現場による標準時数制度の検証のためのものとする、②制度の基本に立ち返り「標準は上回っても下回っても良い」を再確認して、「標準を上回る適切な指導時間を確保」の文言をひとり歩きさせないことが必要。まず国と教育委員会に求めたい。

2)学習内容の削減

積み増しを助長する2つ目の要因は、学習内容の過多だ。国と教育委員会が求める「時数確保」と合わせて、教科書を終わらせるための「時数確保」が現場からも求められている。学習内容の増加は、学習指導要領の中に思考力・判断力・表現力等の文言が多く書き込まれたことに応じたものだ。これらの見直しを、まず中教審に求めたい。

3)全国学力調査を抽出調査に

積み増しを助長する3つ目の要因は、悉皆調査の全国学力調査が続いており、「時数を減らしたら学力調査の点数が下がる」という強迫観念が現場を覆っていることだ。全国学力調査の目的は、抽出調査で達成できる。これには誰も異論をはさめないだろう。国には、学校間・地域間の競争を促す悉皆調査を抽出調査に改めることを求めたい。

4. カリキュラム・オーバーロード解消の道筋

2017小中学習指導要領は思考力・判断力・表現力等を重視したが、減らした内容基準は皆無だった。カリキュラム・オーバーロード論には論者により違いもあるが、子どもへの過大な負担を問題視し、その解消を必要とする点では一致している(1頁)。解消の道筋とは、子どもの生活と学習に合った(思考等も阻害しない)標準時数を定めて、その枠内で内容基準を定めること。2期経験の言葉。「授業時数の確保のために、夏休みは短縮され、土曜授業が増え、終業式やテストの日まで授業がある。働き方改革の名の下に子どもたちが発散するはずの行事はカットされ授業ばかりの毎日」「唯一カットされないのは本来存在しないはずの全国学テのためのプレテストや問題演習の時間」「勉強や点数、宿題のことばかり先生から言われ、息抜きの行事はなくなっていくのだから不登校の子どもたちが増えるのは当然であろう」。今、標準時数と学習指導要領の不合理の解消こそが急務ではないか。【42頁】

Ⅲ. 調査前提 — 教育史研究から

1. 国が標準時数を定めて中学が授業時数を定める制度は1969年から

週時数の国定

国民学校高等科について1941省令(国民学校令施行規則)が週時数 33～35(1 時数40分)時間を国定。

国定の廃止

1947省令(学校教育法施行規則)により省令で週時数を国定した制度は廃止。

年最低時数の国定

1958同省令改正により年最低時数を国定する制度へ(1 単位時間 50 分)。÷35 で週時数。道徳の時間特設が背景(大森2018)。

年標準時数の国定

1969 同省令改正により年標準時数を国定する制度へ。実施は 1972年度から。

標準の解釈の実質的変更

2003文科通知(15 文科初923号)が「教育課程を適切に実施するために必要な指導時間の確保」に関して 2 点を求める(下線は大森)。

ア 各学校においては、学年や学期、月ごと等に授業時数の実績の管理や学習の状況の把握を行うなど、教育課程の実施状況等について自ら点検及び評価を行い、教育課程を適切に実施するために必要な指導時間を確保するよう努める必要があること。また、年間の行事予定や各教科の年間指導計画等について、保護者や地域住民等に対して積極的に情報提供を進める必要があること。

イ 指導内容の確実な定着を図るため必要がある場合には、指導方法・指導体制の工夫改善を図りながら、学校教育法施行規則に定める各教科等の年間授業時数の標準を上回る適切な指導時間を確保するよう配慮すること。

「ア」が「授業時数の実績の管理」を厳格化し、あわせて、「イ」における「標準を上回る適切な指導時間を確保」の文言がひとり歩きをして、標準(上回っても下回ってもよい)の解釈の実質的変更が全国で進んだ。

2. 中学の標準時数の変遷 35の倍数でないもの太字

中学 1年	国語	社会	算数	理科	音楽	美術	保体	技家	外語	道徳	選択	総合	特活	総時数
1969 標準時数	175	140	140	140	70	70	125	105		35	140		50	1190
1977 標準時数	175	140	105	105	70	70	105	70		35	105		70	1050
1989 標準時数	175	140	105	105	70	70	105	70		35	105-140		35-70	1050
1998 標準時数	140	105	105	105	45	45	90	70	105	35	0-30	70-100	35	980
2008 標準時数	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35		50	35	1015
2017 標準時数	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35		50	35	1015

中学 2年	国語	社会	算数	理科	音楽	美術	保体	技家	外語	道徳	選択	総合	特活	総時数
1969 標準時数	175	140	140	140	70	70	125	105		35	140		50	1190
1977 標準時数	140	140	140	105	70	70	105	70		35	105		70	1050

1989 標準時数	140	140	140	105	35-70	35-70	105	70		35	105-210		35-70	1050
1998 標準時数	105	105	105	105	35	35	90	70	105	35	50-85	70-105	35	980
2008 標準時数	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35		70	35	1015
2017 標準時数	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35		70	35	1015

中学 3 年	国語	社会	算数	理科	音楽	美術	保体	技家	外語	道徳	選択	総合	特活	総時数
1969 標準時数	175	175	140	140	35	35	125	105		35	140		50	1155
1977 標準時数	140	105	140	140	35	35	105	105		35	140		70	1050
1989 標準時数	140	70-105	140	105-140	35	35	105-140	70-105		35	105-280		35-70	1050
1998 標準時数	105	85	105	80	35	35	90	35	105	35	105-165	70- 130	35	980
2008 標準時数	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35		70	35	1015
2017 標準時数	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35		70	35	1015

1)標準時数は35の倍数が基本だった。年時数を35で割ると週時数に。1年間1枚の時間割で済む。

2)1998標準時数から多くの教科・領域が35の倍数でなくなる。頻繁な時間割変更。時数管理が煩雑に。

3. 文科省は標準時数の変遷をどうとらえているか

	1969 標準時数	1977標準時数	1989 標準時数	1998標準時数	2008標準時数	2017 標準時数
中学全学年の標準時数	3535	3150	3150	2940	3045	3045
標準時数中の特活の時数	150	210	105-210	105	105	105

文部科学調査室(2023:8)より作成

1)全学年の標準時数の合計に着目 → 各学年の週時数と平日1日時数にも着目しないと子どもへの影響が不明

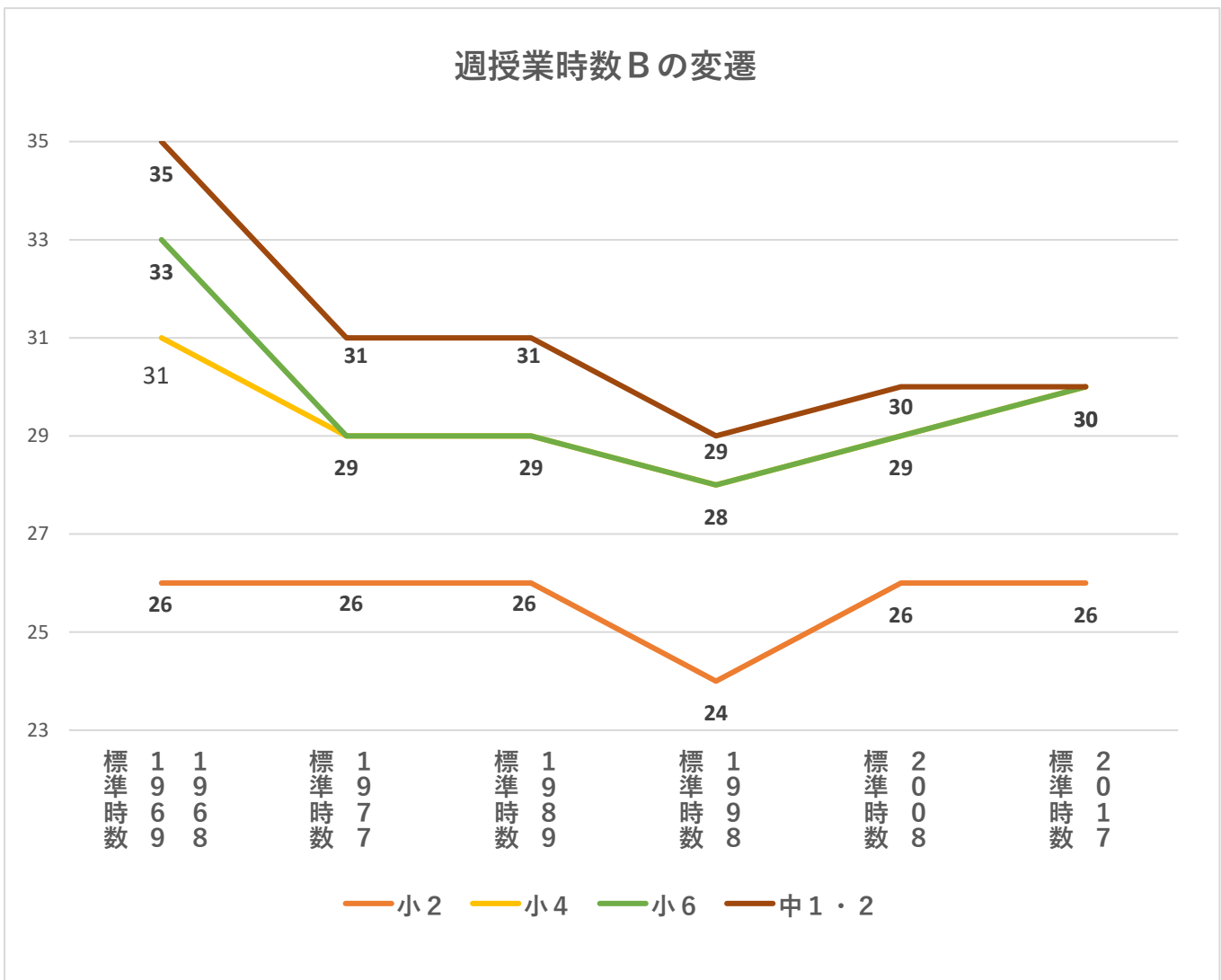
2)標準時数中の特別活動の時数と実績の差が大きい → 学校の時数を実際より小さく印象付けてしまう

4. 標準時数の変遷をとらえるには特別活動の時数の補正が必要(中学1・2年)

略称	総授業時数(特別活動)	総授業時数 B(特別活動)①	週授業時数 B② ① ÷35週	平日1日時数 ~1989は(②-4)÷5日
1969 標準時数	1190(50)	1225(85)	35	6.2
1977 標準時数	1050(70)	1085(105)	31	5.4
1989 標準時数	1050(35-70)	1085(105)	31	5.4
1998 標準時数	980(35)	1015(70)	29	5.8
2008 標準時数	1015(35)	1050(70)	30	6
2017 標準時数	1015(35)	1050(70)	30	6

総授業時数 B は本調査者が考案。各期において特別活動の一部(生徒会活動と学校行事)の時数が標準時数外になっているので、両者に対応する時数として35時間を一律に加える補正を行い、実際の時数に近づけたもの。

5. 週授業時数 B の変遷

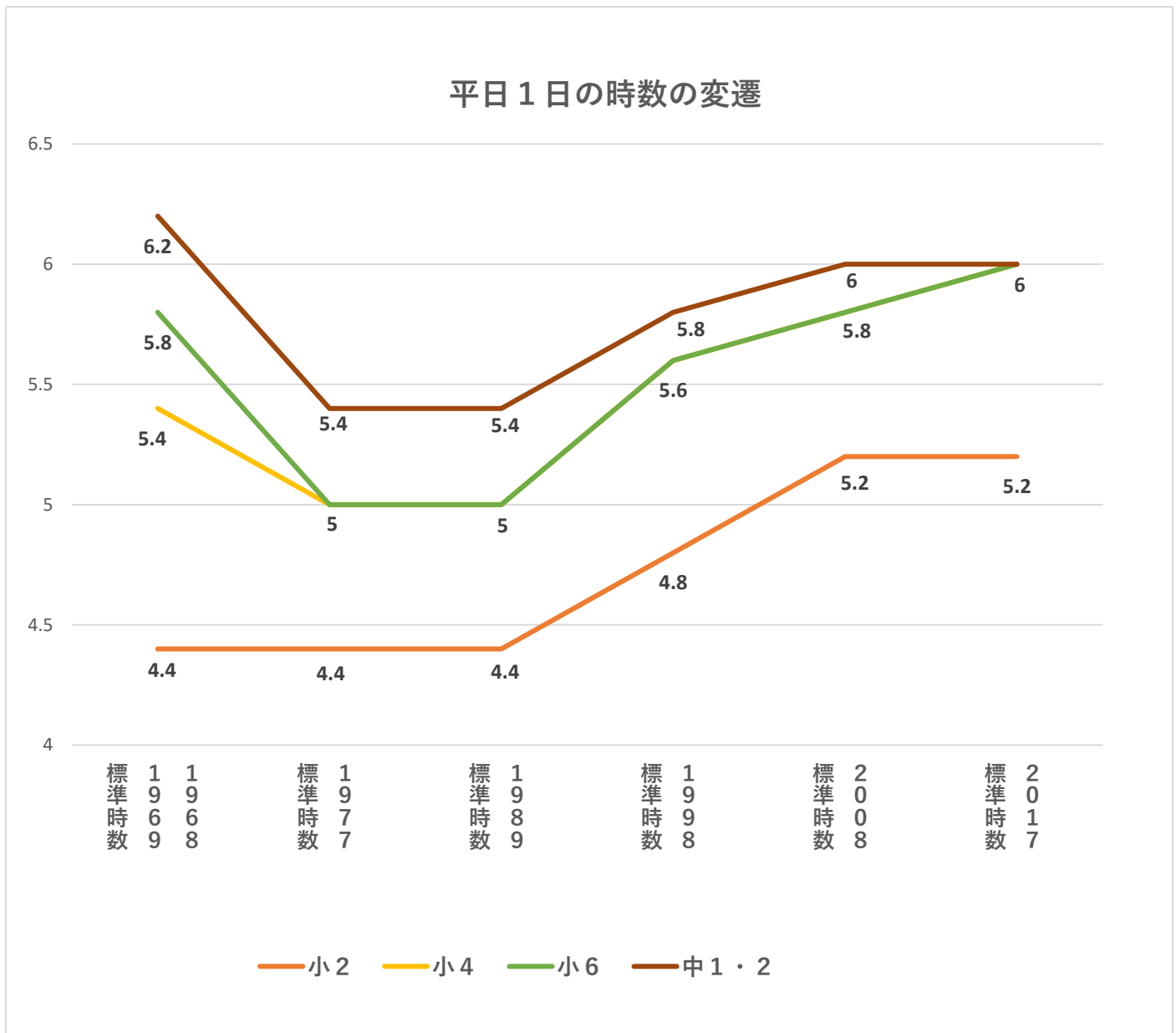


大森(2024:28)ほかより作成

総授業時数 B を 35 で割ると週授業時数 B が求められる。中学1・2年生の週授業時数 B を概観してみたい。

- 1) 1969 標準時数のとき 35 時間。「肥大なカリキュラム」(遠山啓 1966)を招いたことが、国と現場と研究者の共通認識。これを「肥大型標準時数」と呼びたい。
- 2) 1977 標準時数のとき 4 時間減り 31 時間になった。これを「第 1 次ゆとり標準時数」と呼びたい。公立中数学教員の矢定洋一郎(1949-2017)の 1977 年の言葉。「確かに、授業時間を減らしたことについては、よくできたなあ、と思わないこともない」(矢定 2011:31)
- 3) 1989 標準時数のときも 31 時間。「第 1 次ゆとり標準時数」の踏襲。今と比べて「ゆとり」のあった時期だが、矢定が茅ヶ崎市立浜須賀中の生徒(1996 年度卒)に学校に対する要望等を自由に書いてもらおうと、「学校で、やめてほしいこと」に以下があった。「50分授業」「6時間目」(矢定 2011:271)。
- 4) 1998 標準時数のとき 29 時間。これを一応「第 2 次ゆとり標準時数」と呼びたい。ただし、2 時間しか減らさずに 5 日制へ入った。矢定の 2011 年の言葉。「2002 年に入ってきた新学習指導要領が、ボクらの忙しさの質も量も大きく変えたことは確かなことだ。この年あたりから、ボクらはホント様々な「仕事」という名の「雑用」に追まわられることになった。今、教員に、「愉快にやってるかあ?」と聞いたら、「もちろん!!」という答えはかなり少ないと思う。忙しく、余裕がない。そんな状態で、いくら、なんか意味ありげなことをやったとしても、のびのびとした気持ちでできない! なんかつらい感じで、ため息とともに日々を送っている仲間が多かった」(矢定 2011:308)
- 5) 2008 標準時数のとき 30 時間になり、それが 2017 標準時数でも続いている。

6. 平日 1 日時数の変遷



大森(2024:28)ほかより作成

平日 1 日時数も本調査者が考案。1989標準時数下の中学の週標準時数 B は31時間で、2008標準時数下のそれは週30時間であるが、6 日制と 5 日制(1998標準時数～)では子どもへの負担が異なる。そこで、6 日制の週標準時数 B については土曜の授業時数 4 を引いた値を平日数5で割ることで、5 日制の週授業時数 B についてはそのまま平日数5で割ることで、それぞれ平日 1 日時数を算出。中学1・2年生の平日 1 日時数を概観してみたい。

- 1)「肥大なカリキュラム」の1969 標準時数のとき 6.2時間だった。「肥大型標準時数」である。
- 2)1977標準時数のとき 5.4時間になった。「第1次ゆとり標準時数」である。
- 3)1989標準時数のときも 5.4時間。「第1次ゆとり標準時数」が踏襲された。
- 4)1998標準時数のとき 5.8 時間にふえる。この数字が、「第 2 次ゆとり標準時数」の実際を把握するため重要。
- 5)2008標準時数のとき6時間になった。この数字については、1969標準時数のときの6. 2時間に近づいていることもふまえ、「肥大型標準時数」の再来と押さえておきたい。
- 6)2017標準時数のときも6時間。「肥大型標準時数」が踏襲された。

7. 中学の教員の調査の必要性

- 1)働き方改革の視点から授業時数(主に教員の持ちコマ数)の見直しについての議論が官民で行われていることは重要。
- 2)しかし、子どもの生活と学習にとってどのような授業時数が良いのかという視点が欠けている。
- 3)経験する授業時数が1学年1つ限りの子どもが、各期の標準時数下の授業時数を比較して評価はできない。
- 4)これに対して、教歴を重ねた教員は、各期の標準時数下の授業時数を比較して評価することができる。
- 5)小学校の教員の調査を進めることにより、2017標準時数による小学校の教育課程の不合理は明確になりつつある。①1日6間が子どもに多すぎる。②標準時数に35で割り切れないものがあり時間割が組みにくい。③特別活動の標準時数が35しかなく実施を圧迫している等。
- 6)中学校はどうなっているか。①1日6時間(小学校より1期早い2008標準時数から)をどう評価するか。②標準時数に35で割り切れないものがあること(1年の2教科1領域)どう評価するか。③特別活動の標準時数が35時間をどう評価するか等。

□文部科学省「義務教育に関する意識に係る調査 概要・集計結果」(調査期間2023年1から2月)の中に以下の内容がある。

適当たりの授業時間について中学校教員の52%が「ちょうどいい」(小学教員は39%)、43%が「多すぎる」「やや多い」(小学教員は59%)と回答。

適当たりの授業時間について中学2年生の54%が「ちょうどいい」(小学5年生の61%)、44%が「多すぎる」「やや多い」(小学生の36.3%)と回答。

中学教員と中学2年生の回答において、「ちょうどいい」が5割をこえているのは、授業時間の変遷についての比較をふまえずに回答するのが難しかった(評価が難しいから、「ちょうどいい」を選ぶ)からと思われる。

II・IIIの参考・引用文献

大森直樹(2018)『道徳教育と愛国心ー「道徳」の教科化にどう向き合うか』岩波書店

大森直樹(2019)「知識詰め込み型」からの転換なのか?ー改訂「学習指導要領」が子どもにもたらすもの』『世界』11月号、岩波書店

大森直樹(2024)『標準時数の変遷に関する調査ー結果と提言』大森直樹研究室

大森直樹研究室 HP(<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~omoriken/>)に掲載

大森直樹[編著]永田守・水本王典・水野佐知子[著](2024)『学校の時数をどうするかー現場からのカリキュラム・オーバーロード論』明石書店

白井俊(2020)『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来』ミネルヴァ

白井俊(2021)「カリキュラム・オーバーロードをめぐる国際的な動向」奈須正裕編著『「少ない時数で豊かに学ぶ」授業のつくり方ー脱「カリキュラム・オーバーロード」への処方箋』ぎょうせい

奈須正裕(2021)「あとがき」『同上書』

遠山啓(1966)「教育内容の対置」『教育』6月(『遠山啓著作集 教育論シリーズ2 教育の自由と統制』太郎次郎社 1989 に改題所収)

北教組学校5日制検討推進委員会(1994)『完全学校5日制をすすめるために 第1次報告』

矢定洋一郎(2011)『学校ぎらいのヤサ先生 連載連笑ーホントに愉快的ことは、これからサ?!』績文堂

米田俊彦監修(2009)『近代日本教育関係法令体系』港の人

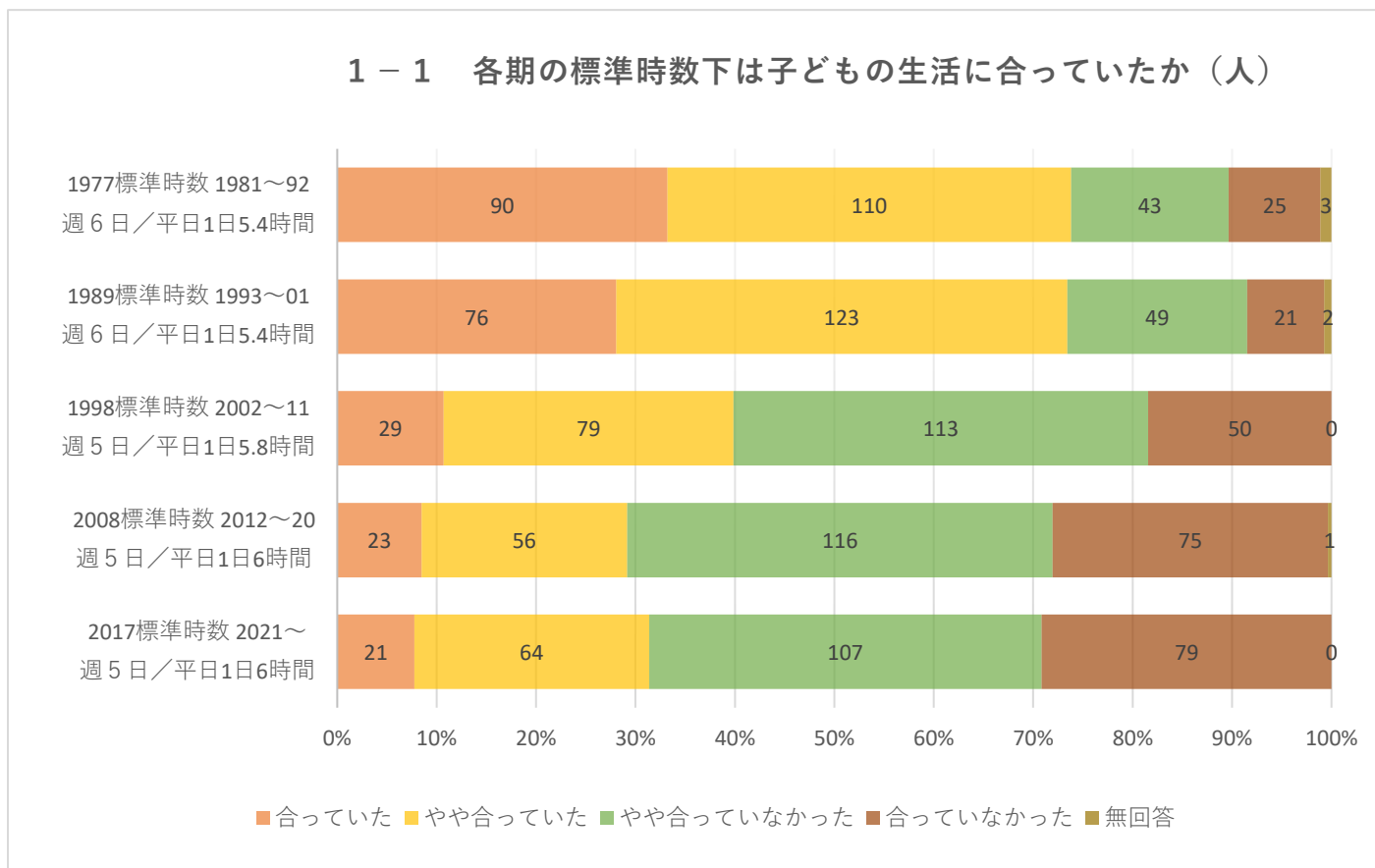
文部科学省(2019)「平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査 調査結果」

文部科学省(2023)「令和4年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査 調査結果」

文部科学調査室(2023)『文部科学関係 最近のニュース 臨時増刊号』9月

IV. 調査結果1 — 図表1～16から

図表1 5期経験271人の回答

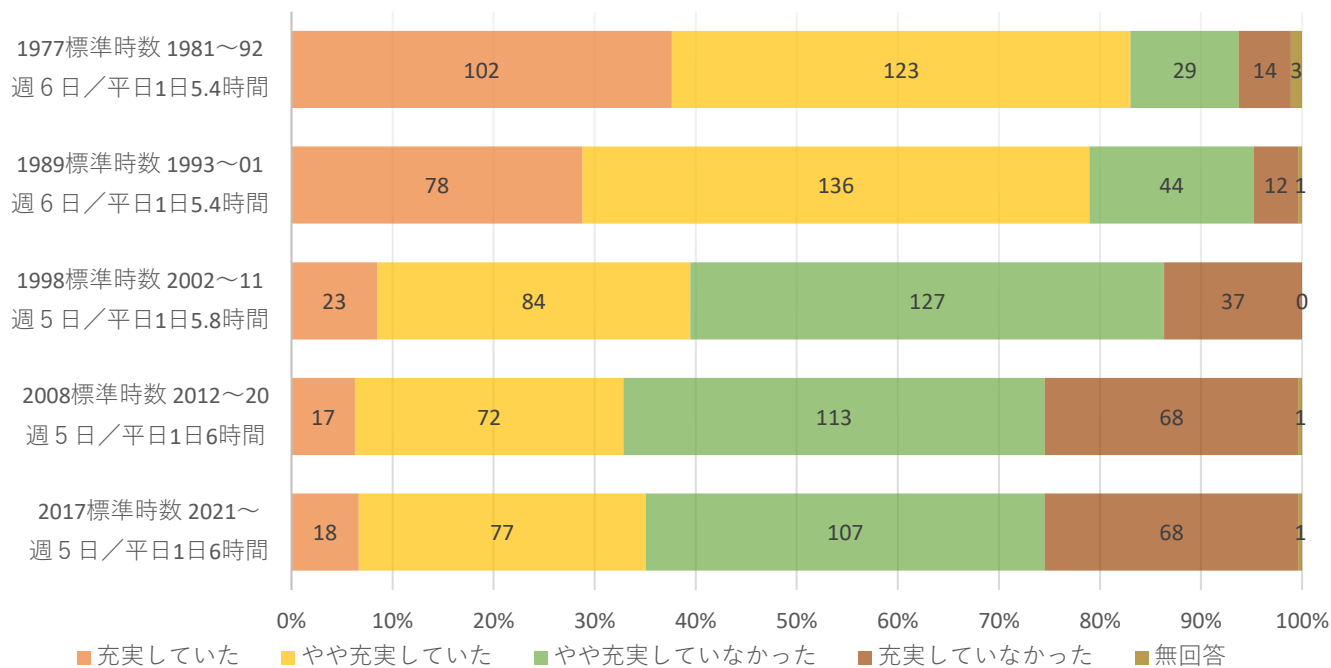


子どもの生活に合っていたか	合っていた	やや合っていた	やや合っていなかった	合っていなかった	無回答
1977標準時数 1981～92 週6日／平日1日5.4時間	33.2%	40.6%	15.9%	9.2%	1.1%
1989標準時数 1993～01 週6日／平日1日5.4時間	28.0%	45.4%	18.1%	7.7%	0.7%
1998標準時数 2002～11 週5日／平日1日5.8時間	10.7%	29.2%	41.7%	18.5%	0.0%
2008標準時数 2012～20 週5日／平日1日6時間	8.5%	20.7%	42.8%	27.7%	0.4%
2017標準時数 2021～ 週5日／平日1日6時間	7.7%	23.6%	39.5%	29.2%	0.0%

□ 「やや合っていなかった」「合っていなかった」は1977標準時数期間の教育課程(以下、1977標準時数下)が68人(25%)で最小、2008標準時数が191人(70%)で最大

■ 5期経験は、1977と1989の標準時数下をプラス評価、2008と2017の標準時数下をマイナス評価

1-2 各期の標準時数下で子どもの学習は充実していたか（人）

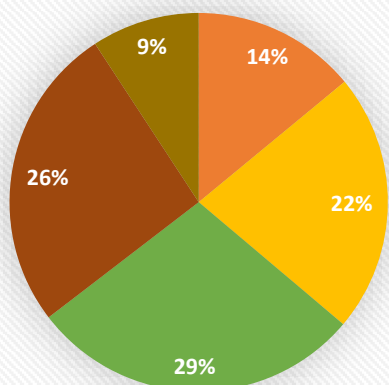


子どもの学習は 充実していたか	充実して いた	やや充実 していた	やや充実 していな かった	充実して いなかっ た	無回答
1977 標準時数 1981~92 週6日 / 平日1日5.4時間	37.6%	45.4%	10.7%	5.2%	1.1%
1989 標準時数 1993~01 週6日 / 平日1日5.4時間	28.8%	50.2%	16.2%	4.4%	0.4%
1998 標準時数 2002~11 週5日 / 平日1日5.8時間	8.5%	31.0%	46.9%	13.7%	0.0%
2008 標準時数 2012~20 週5日 / 平日1日6時間	6.3%	26.6%	41.7%	25.1%	0.4%
2017 標準時数 2021~ 週5日 / 平日1日6時間	6.6%	28.4%	39.5%	25.1%	0.4%

□ 「やや充実していなかった」「充実していなかった」は1977標準時数下が43人(16%)で最小、2008標準時数下が181人(70%)で最大

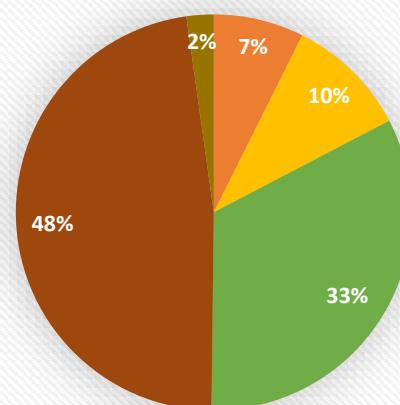
■ 5期経験は、1977と1989の標準時数下をプラス評価、2008と2017の標準時数下をマイナス評価

1-3 平日1日の標準時数の増加が、不登校生徒の増加と関係していると思うか



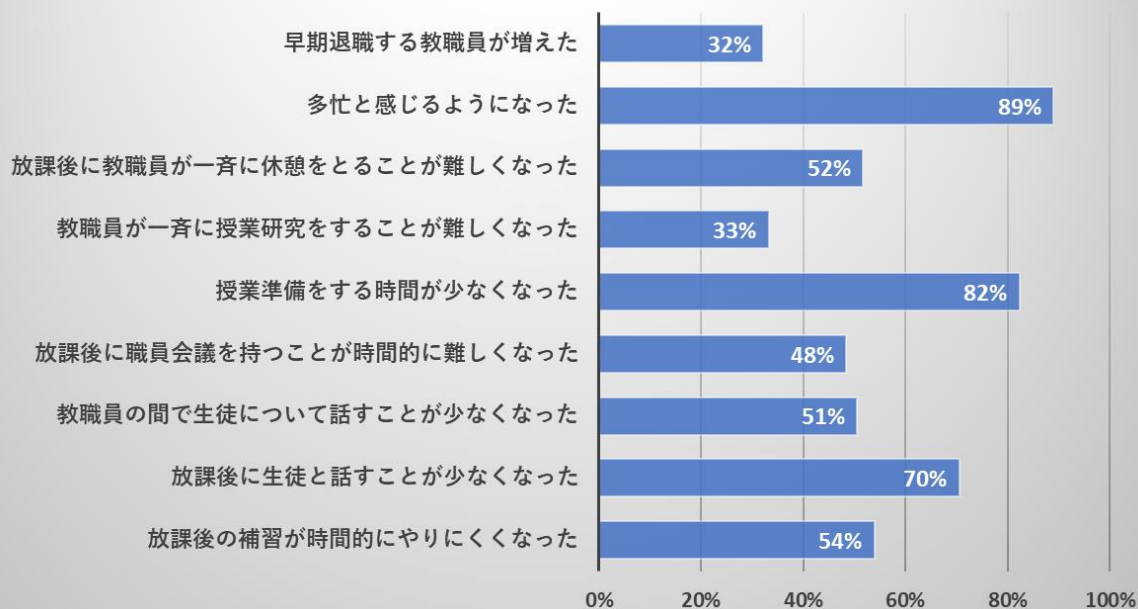
- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

1-4 平日1日の標準時数の増加が、教職員の病休者の増加と関係していると思うか



- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

1-5 平日1日の標準時数の増加が影響していると思われる事柄



□1-3について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は98人(36%)、「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は148人(55%)

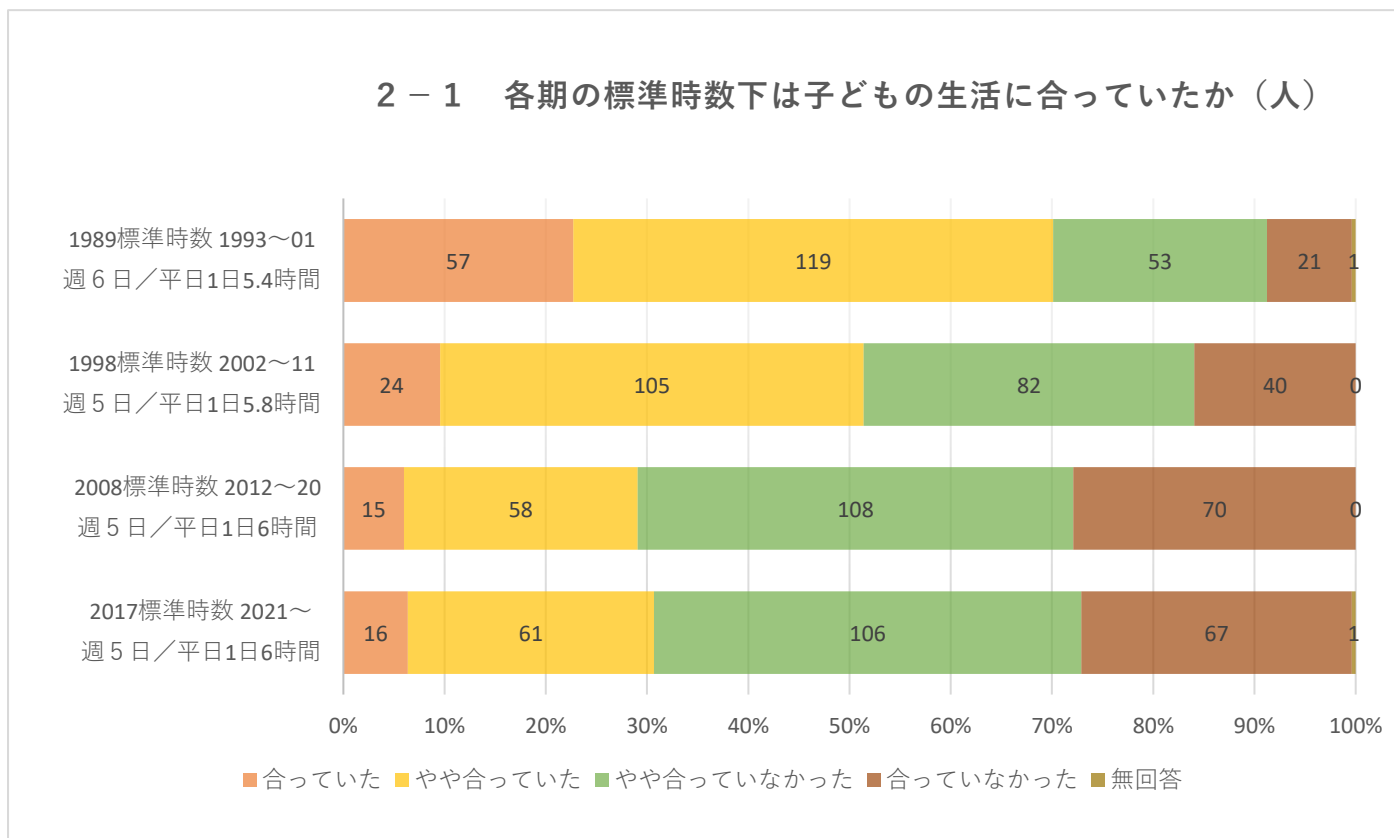
■5期経験は不登校生徒増加との相関をある程度認める傾向

□1-4について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は47人(17%)、「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は218人(81%)

■5期経験は教職員病休者増加との相関をかなり認める傾向

□1-5について、80%以上が影響していると回答したのが「多忙とを感じるようになった」「授業準備をする時間が少なくなった」で、70%以上が「放課後に生徒と話すことが少なくなった」で、50%以上が「放課後の補習が時間的にやりにくくなった」「放課後に教職員が一斉に休憩をとることが難しくなった」「放課後に生徒と話すことが少なくなった」だった。

図表2 4期経験251人の回答

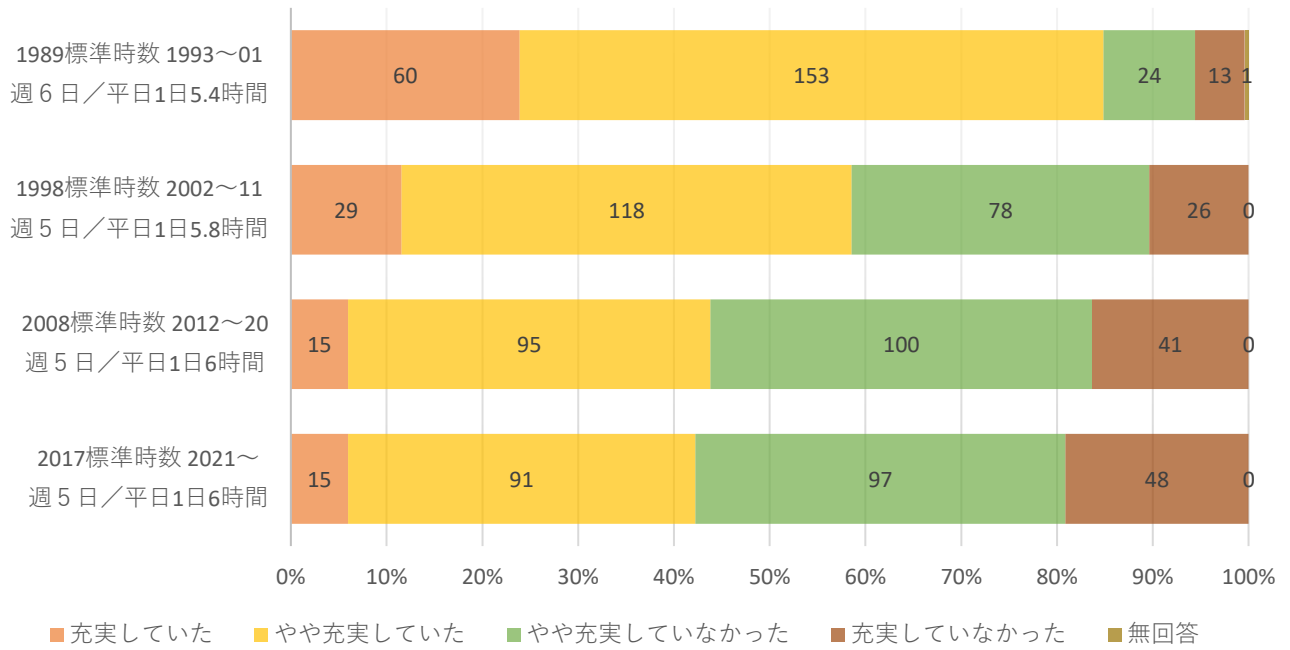


子どもの生活に合っていたか	合っていた	やや合っていた	やや合っていない	合っていない	無回答
1989標準時数 1993~01 週6日 / 平日1日5.4時間	22.7%	47.4%	21.1%	8.4%	0.4%
1998標準時数 2002~11 週5日 / 平日1日5.8時間	9.6%	41.8%	32.7%	15.9%	0.0%
2008標準時数 2012~20 週5日 / 平日1日6時間	6.0%	23.1%	43.0%	27.9%	0.0%
2017標準時数 2021~ 週5日 / 平日1日6時間	6.4%	24.3%	42.2%	26.7%	0.4%

□「やや合っていない」「合っていない」は1989標準時数下が74人(29%)で最小、2008標準時数下が178人(71%)で最大

■4期経験は、1989標準時数下をプラス評価、2008と2017の標準時数下をマイナス評価

2-2 各期の標準時数下で子どもの学習は充実していたか（人）

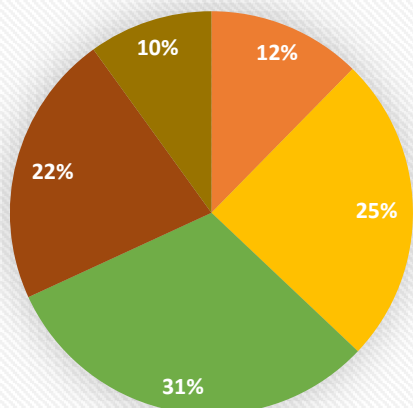


子どもの学習は 充実していたか	充実して いた	やや充実 していた	やや充実 していな かった	充実して いなかっ た	無回答
1989標準時数 1993~01 週6日 / 平日1日5.4時間	23.9%	61.0%	9.6%	5.2%	0.4%
1998標準時数 2002~11 週5日 / 平日1日5.8時間	11.6%	47.0%	31.1%	10.4%	0.0%
2008標準時数 2012~20 週5日 / 平日1日6時間	6.0%	37.8%	39.8%	16.3%	0.0%
2017標準時数 2021~ 週5日 / 平日1日6時間	6.0%	36.3%	38.6%	19.1%	0.0%

□ 「やや充実していなかった」「充実していなかった」は1989標準時数下が37人(15%)で最小、2017標準時数下が145人(58%)で最大

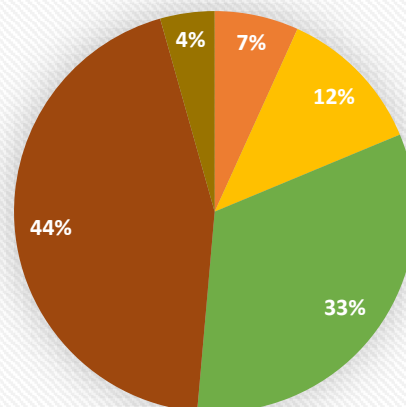
■ 4期経験は、1989標準時数下をプラス評価、2008と2017の標準時数下をマイナス評価

2-3 平日1日の標準時数の増加が、不登校生徒の増加と関係していると思うか



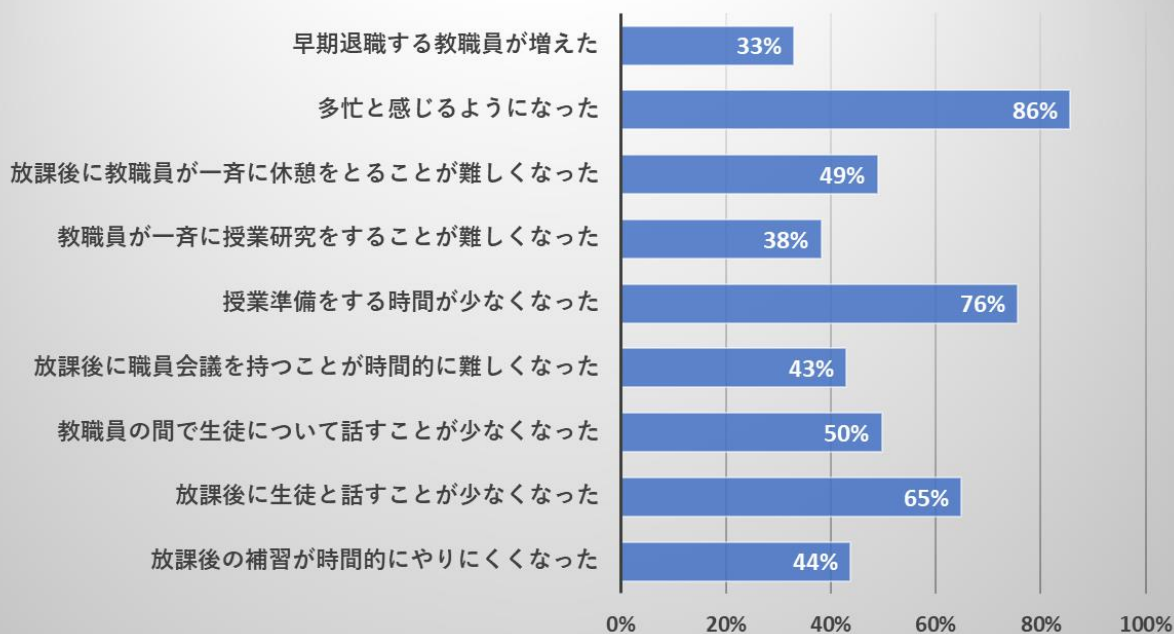
- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

2-4 平日1日の標準時数の増加が、教職員の病休者の増加と関係していると思うか



- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

2-5 平日1日の標準時数の増加が影響していると思われる事柄



□2-3について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は93人(37%)、「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は133人(53%)

■4期経験は不登校生徒増加との相関をある程度認める傾向

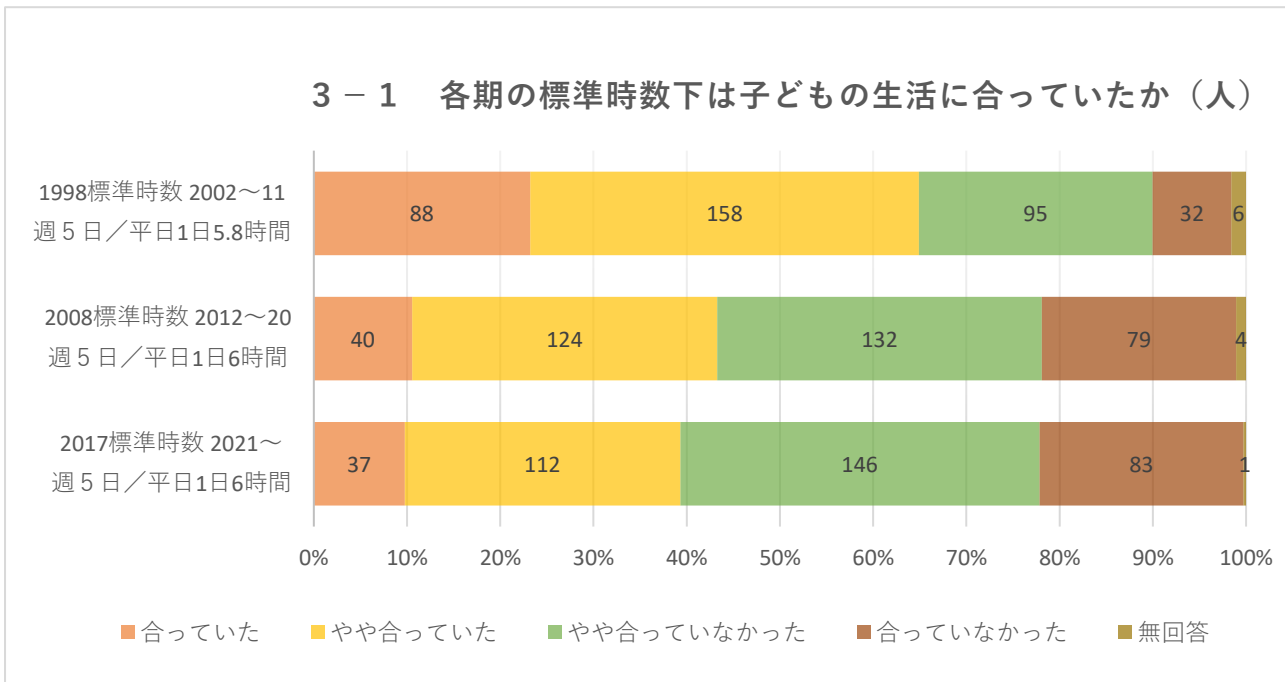
□2-4について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は47人(19%)、「どちらか

いうと関係していると思う」「関係していると思う」は193人(77%)

■4期経験は教職員病休者増加との相関をかなり認める傾向

□2-5について、80%以上が影響していると回答したのが「多忙と感じるようになった」で、70%以上が「授業準備をする時間が少なくなった」で、50%以上が「放課後に生徒と話すことが少なくなった」「教職員の間で生徒について話すことが少なくなった」だった。

図表3 3期経験379人の回答

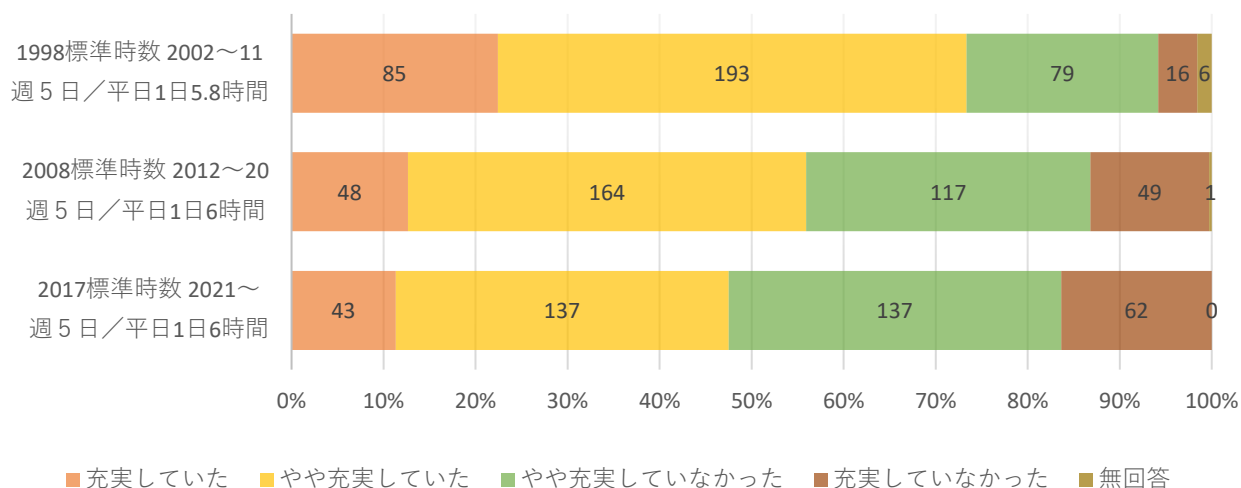


子どもの生活に合っていたか	合っていた	やや合っていた	やや合っていない	合っていない	無回答
1998 標準時数 2002~11 週5日 / 平日1日5.8時間	23.2%	41.7%	25.1%	8.4%	1.6%
2008 標準時数 2012~20 週5日 / 平日1日6時間	10.6%	32.7%	34.8%	20.8%	1.1%
2017 標準時数 2021~ 週5日 / 平日1日6時間	9.8%	29.6%	38.5%	21.9%	0.3%

□「やや合っていない」「合っていない」は1998標準時数下が127人(34%)で最小、2017標準時数下が229人(60%)で最大

■3期経験は、1998標準時数下をプラス評価、2008と2017の標準時数下をマイナス評価

3-2 各期の標準時数下で子どもの学習は充実していたか（人）

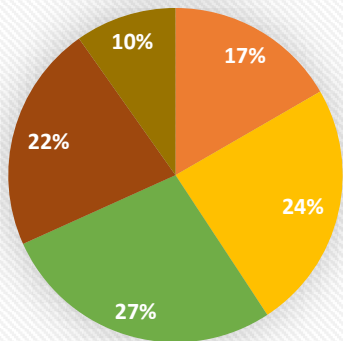


子どもの学習は 充実していたか	充実して いた	やや充実 していた	やや充実 していな かった	充実して いなかっ た	無回答
1998 標準時数 2002～11 週5日／平日1日5.8時間	22.4%	50.9%	20.8%	4.2%	1.6%
2008 標準時数 2012～20 週5日／平日1日6時間	12.7%	43.3%	30.9%	12.9%	0.3%
2017 標準時数 2021～ 週5日／平日1日6時間	11.3%	36.1%	36.1%	16.4%	0.0%

□ 「やや充実していなかった」「充実していなかった」は1998標準時数下が95人(25%)で最小、2017標準時数下が199人(53%)で最大

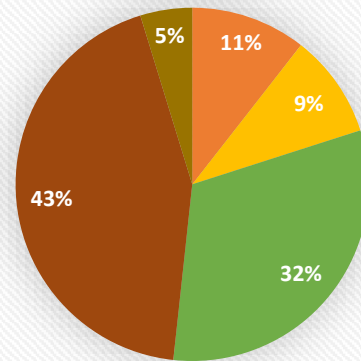
■ 3期経験は、1998標準時数下をプラス評価、2008と2017の標準時数下をマイナス評価

3-3 平日1日の標準時数の増加が、不登校生徒の増加と関係していると思うか



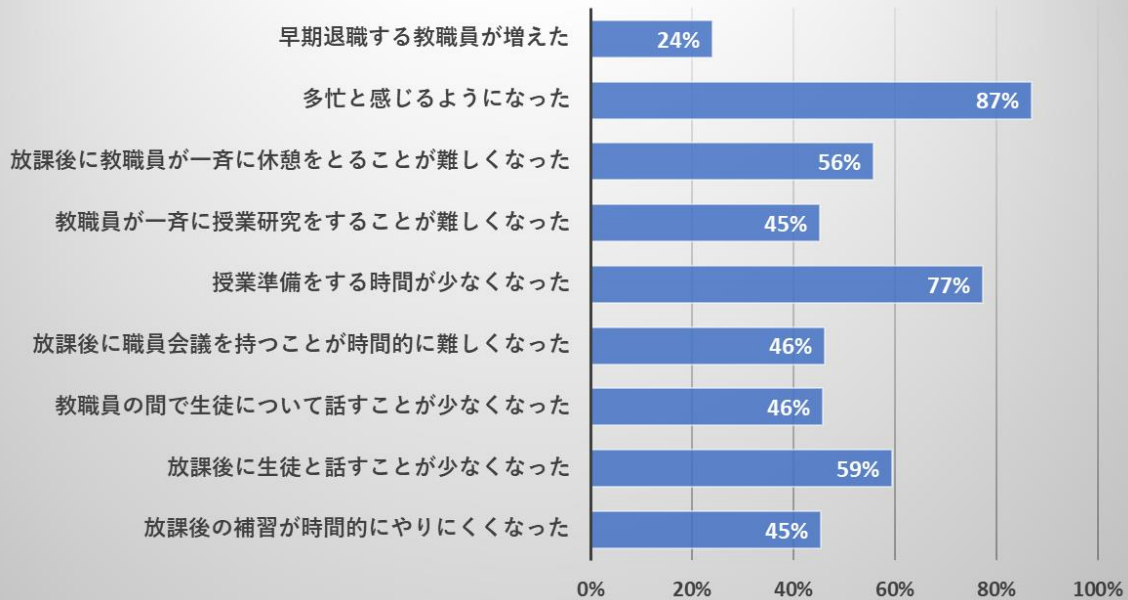
- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

3-4 平日1日の標準時数の増加が、教職員の病休者の増加と関係していると思うか



- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

3-5 平日1日の標準時数の増加が影響していると思われる事柄



□3-3について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は154人(41%)、「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は187人(49%)

■3期経験は不登校生徒増加との相関を認める認めないが拮抗

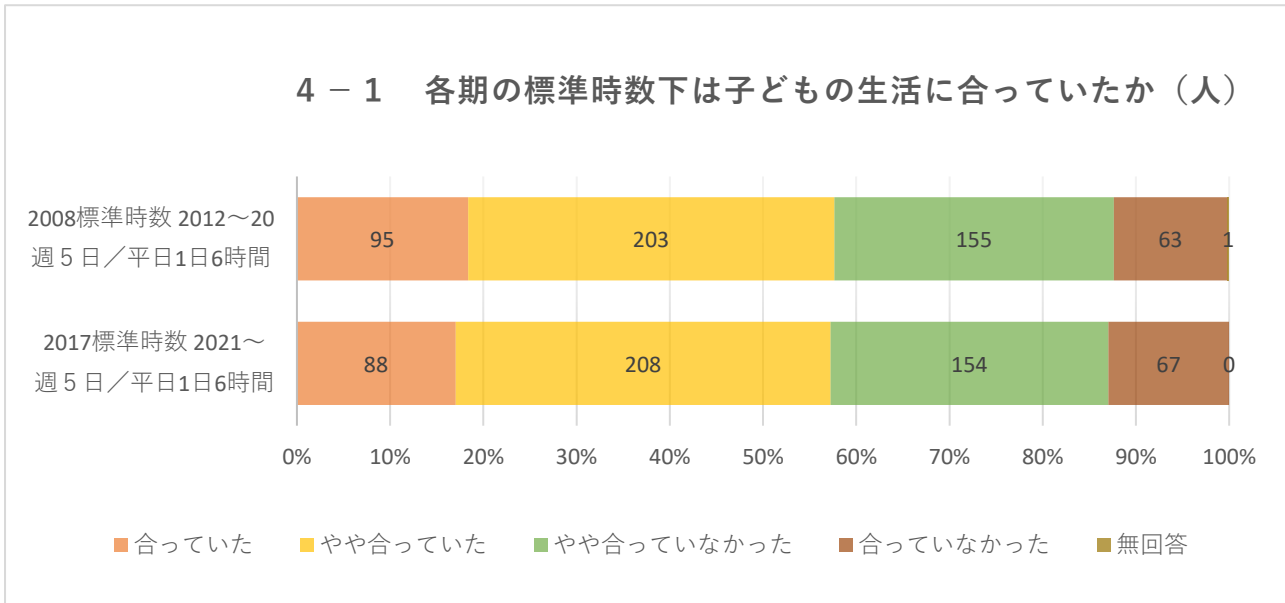
□3-4について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は76人(20%)、「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は285人(75%)

■3期経験は教職員病休者増加との相関をかなり認める傾向

□3-5について、80%以上が影響していると回答したのが「多忙とを感じるようになった」で、70%以上が「授業準備をする時間が少なくなった」で、50%以上が「放課後に生徒と話すことが少なくなった」「放課後に教職員が一斉に休憩をとるのが難しくなった」だった。

図表4 2期経験517人の回答

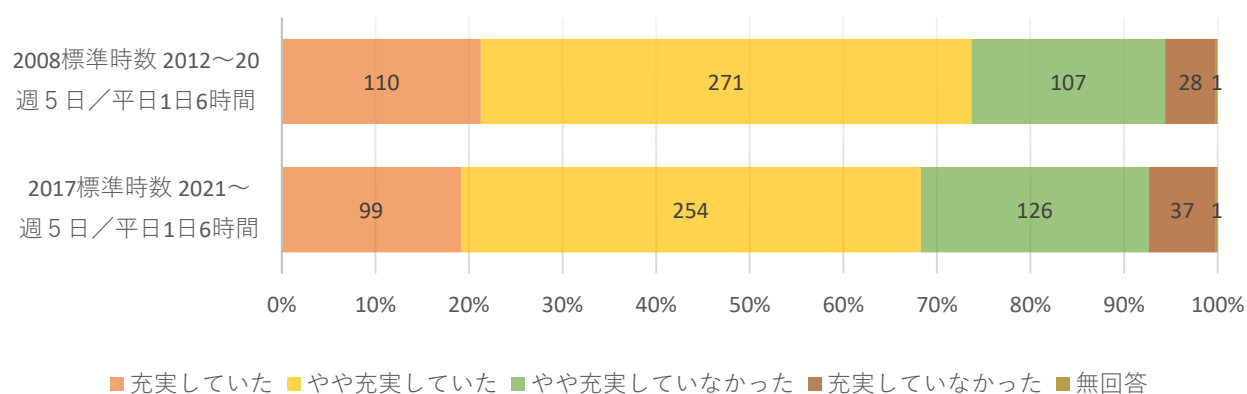
■2008標準時数と2017標準時数に変更はないので、2期経験は複数タイプの標準時数下を教歴においては経験していない。このことを図表4の読み取りに際してはふまえておく必要がある。



子どもの生活に合っていたか	合っていた	やや合っていた	やや合っていなかった	合っていなかった	無回答
2008 標準時数 2012～20 週5日／平日1日6時間	18.4%	39.3%	30.0%	12.2%	0.2%
2017 標準時数 2021～ 週5日／平日1日6時間	17.0%	40.2%	29.8%	13.0%	0.0%

□「やや合っていなかった」「合っていなかった」は2008標準時数下が218人(43%)、2017標準時数下は221人(43%)。

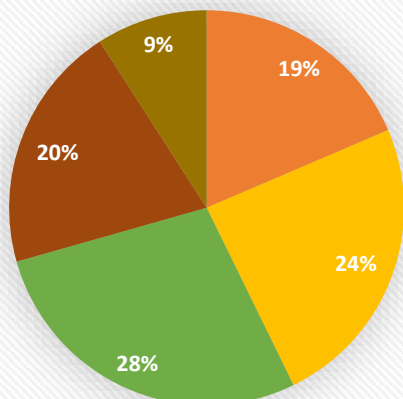
4-2 各期の標準時数下で子どもの学習は充実していたか（人）



子どもの学習は 充実していたか	充実して いた	やや充実 していた	やや充実 していな かった	充実して いなかっ た	無回答
2008 標準時数 2012~20 週5日/平日1日6時間	21.3%	52.4%	20.7%	5.4%	0.2%
2017 標準時数 2021~ 週5日/平日1日6時間	19.1%	49.1%	24.4%	7.2%	0.2%

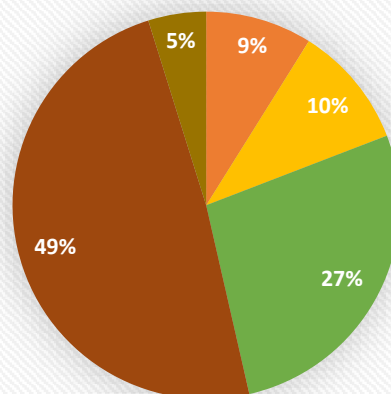
□ 「やや充実していなかった」「充実していなかった」は2008標準時数下が135人(26%)、2017標準時数下が163人(28%)

4-3 平日1日の標準時数の増加が、不登校生徒の増加と関係していると思うか



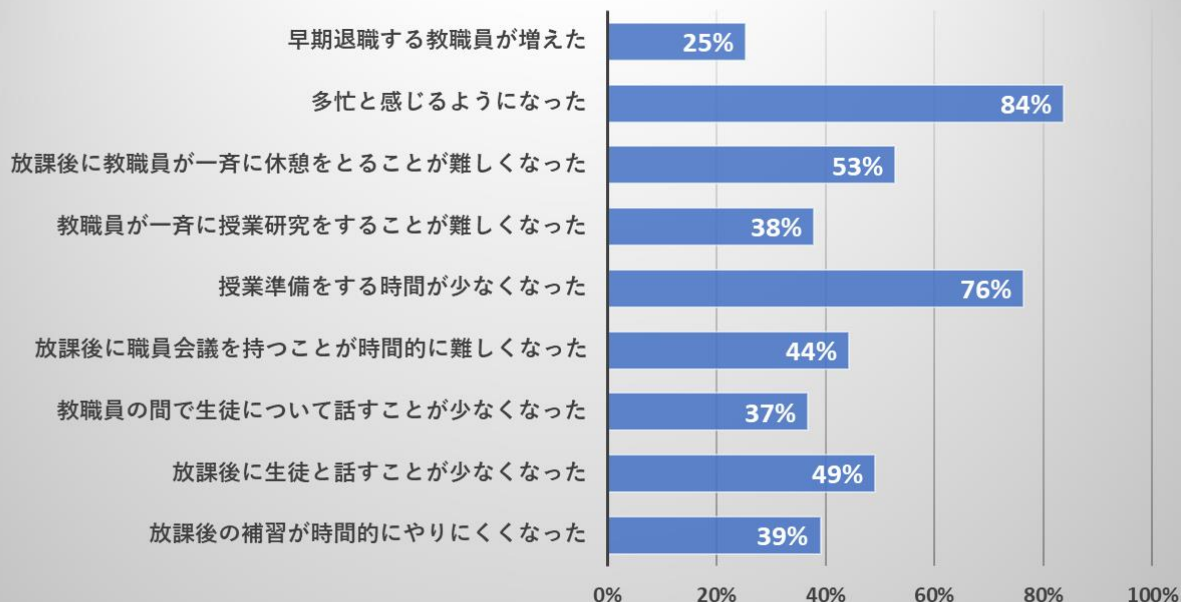
- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

4-4 平日1日の標準時数の増加が、教職員の病休者の増加と関係していると思うか



- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

4-5 平日1日の標準時数の増加が影響していると思われる事柄



□4-3について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は221人(43%)、「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は249人(48%)

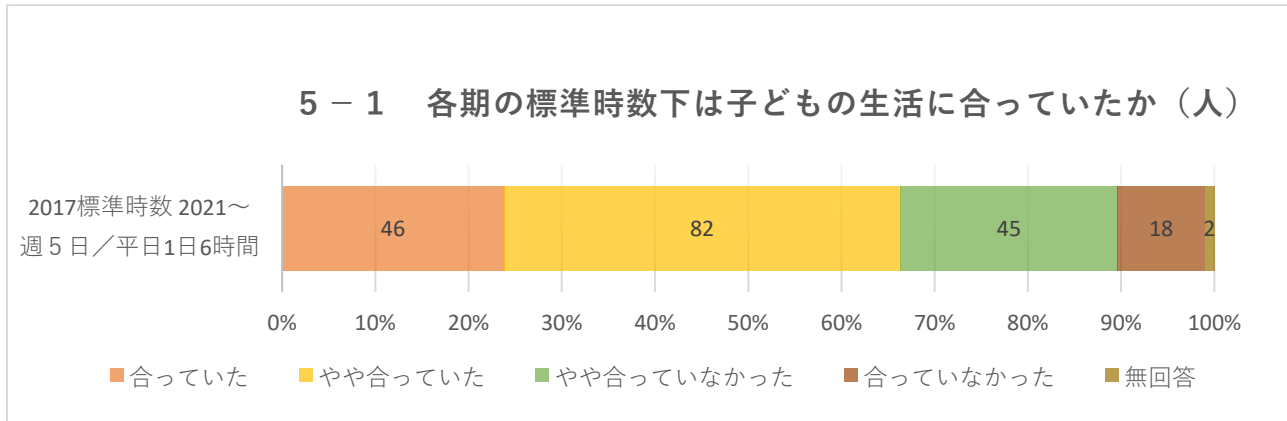
□4-4について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は99人(19%)、「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は393人(76%)

□4-5について、80%以上が影響していると回答したのが「多忙と感じるようになった」で、70%以上が「授業準備」

備をする時間が少なくなった」で、50%以上が「放課後に教職員が一斉に休憩をとることが難しくなった」だった。

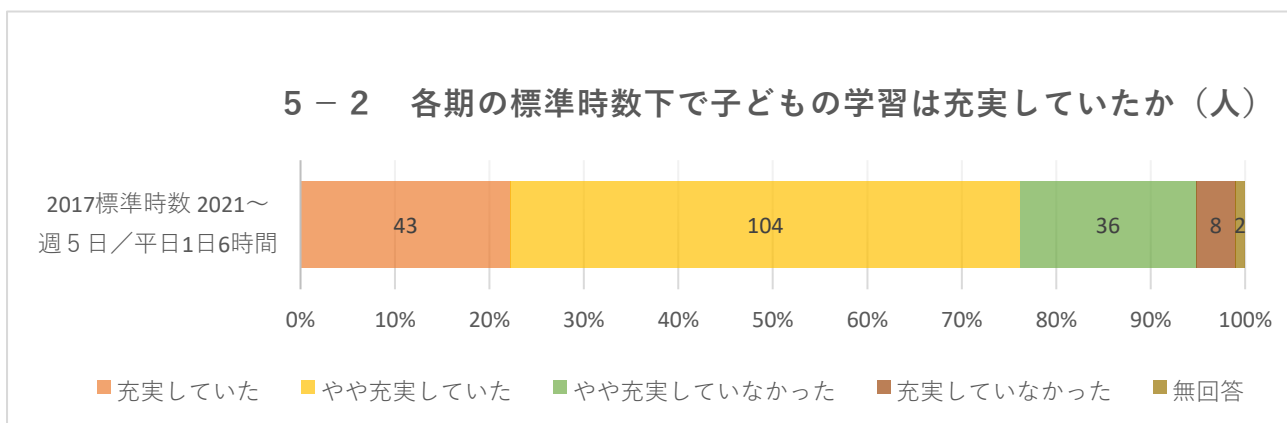
図表5 1期経験193人の回答

■1期経験は複数タイプの標準時数下を教歴においては経験していない。このことを図表5の読み取りに際してはふまえておく必要がある。



子どもの生活に合っていたか	合っていた	やや合っていた	やや合っていなかった	合っていなかった	無回答
2017標準時数	23.8%	42.5%	23.3%	9.3%	1.0%
2021~標準時数	23.8%	42.5%	23.3%	9.3%	1.0%

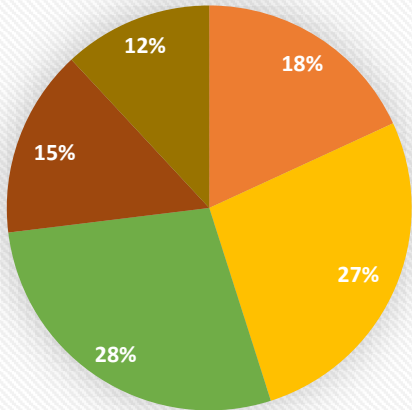
□「やや合っていなかった」「合っていなかった」は63人(33%)



子どもの学習は充実していたか	充実していた	やや充実していた	やや充実していなかった	充実していなかった	無回答
2017標準時数	22.3%	53.9%	18.7%	4.1%	1.0%
2021~標準時数	22.3%	53.9%	18.7%	4.1%	1.0%

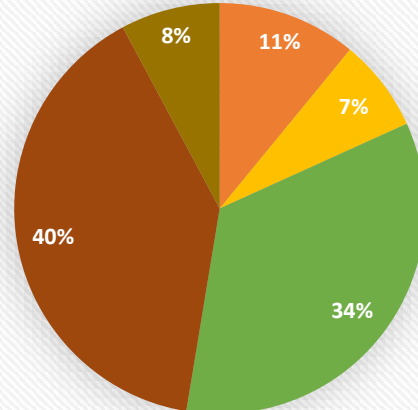
□「やや充実していなかった」「充実していなかった」は44人(23%)

5-3 平日1日の標準時数の増加が、不登校生徒の増加と関係していると思うか



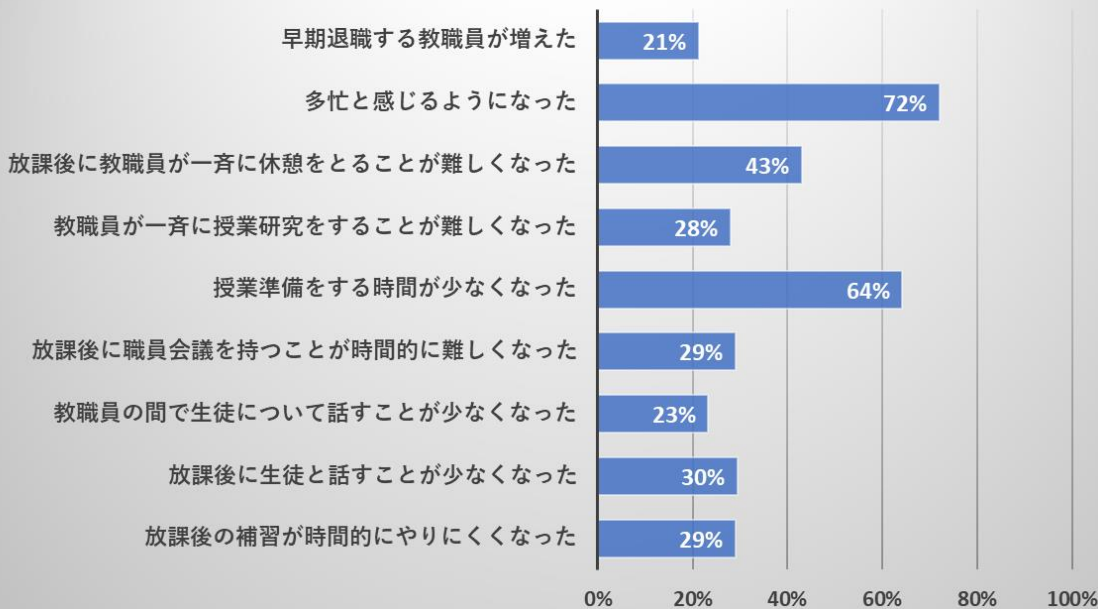
- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

5-4 平日1日の標準時数の増加が、教職員の病休者の増加と関係していると思うか



- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

5-5 平日1日の標準時数の増加が影響していると思われる事柄

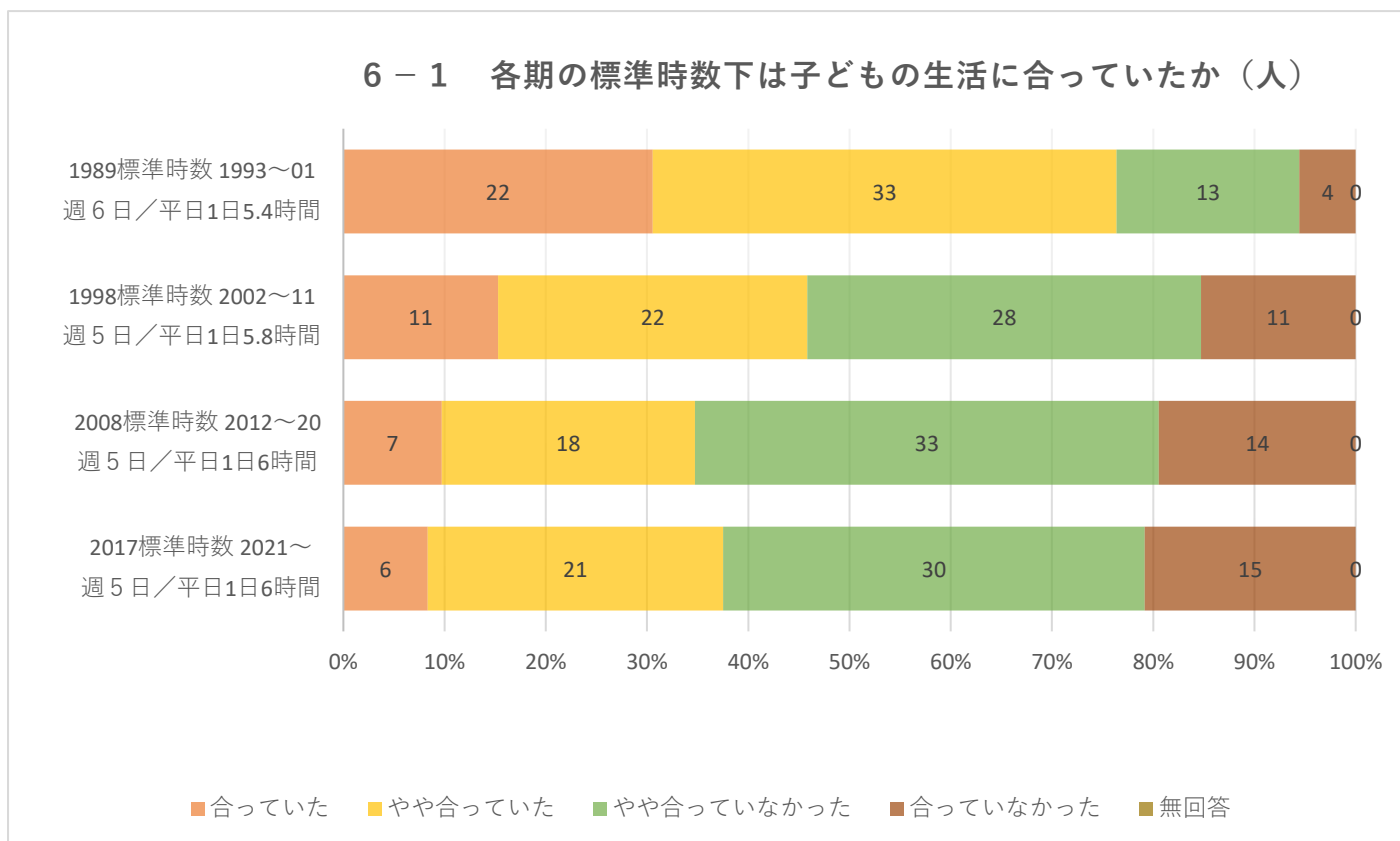


□5-3について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は87人(45%)、「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は83人(43%)

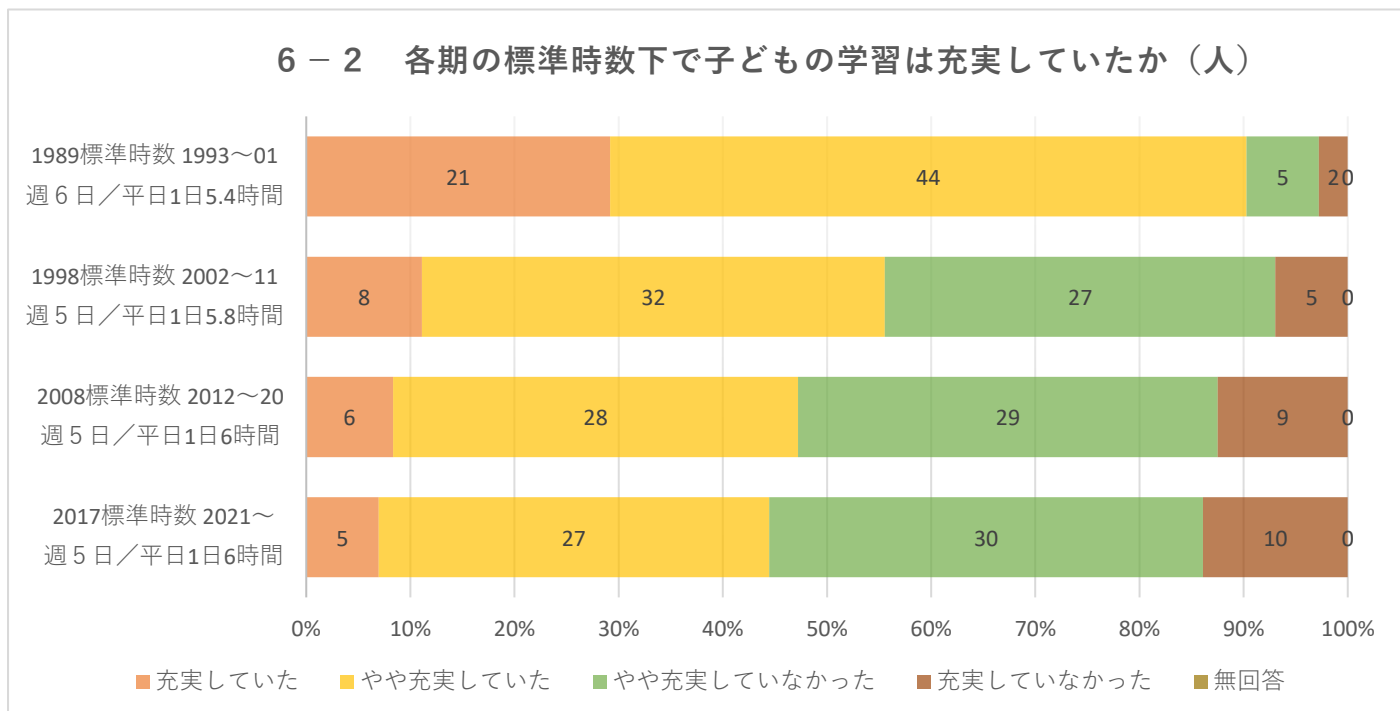
□5-4について「関係していないと思う」「どちらかというに関係していないと思う」は35人(18%)、「どちらかというに関係していると思う」「関係していると思う」は142人(74%)

□5-5について、70%以上が影響していると回答したのが「多忙と感じるようになった」で、50%以上が「授業準備をする時間が少なくなった」だった。

図表6 5・4期経験の国語担当72人の回答

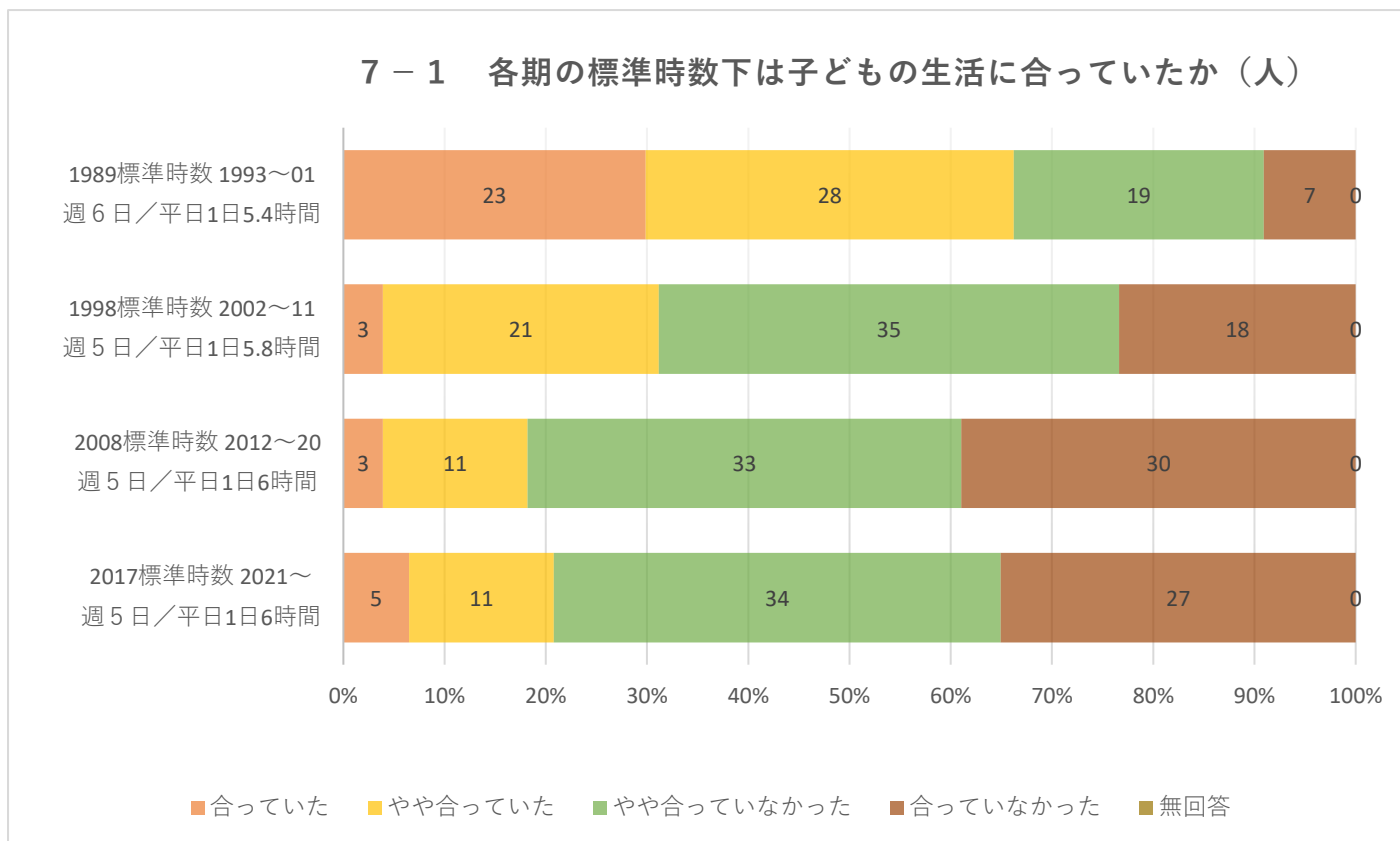


□ 「やや合っていなかった」「合っていなかった」は1989標準時数下が17人(24%)で最小、2008標準時数下が47人(65%)で最大

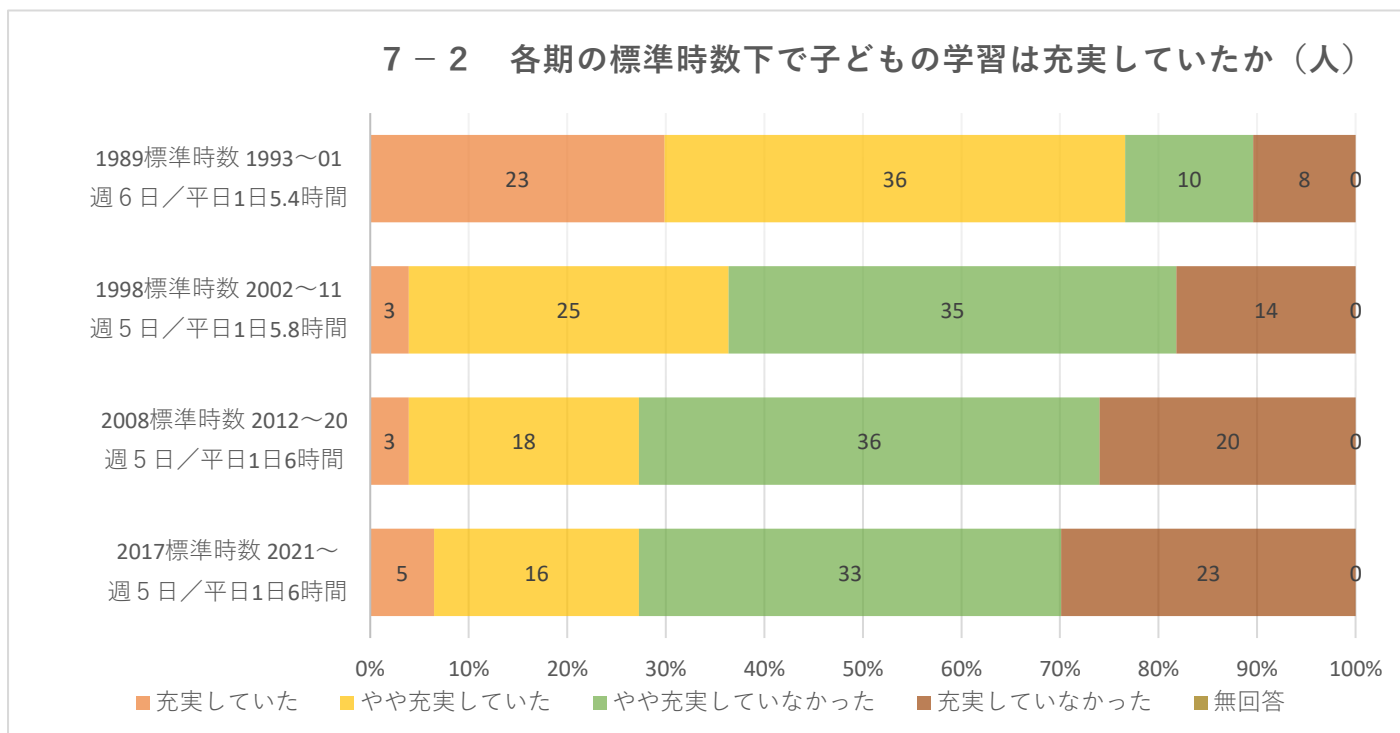


□ 「やや充実していなかった」「充実していなかった」は1989標準時数下が7人(10%)で最小、2017標準時数下が40人(56%)で最大

図表7 5・4期経験の社会担当77人の回答

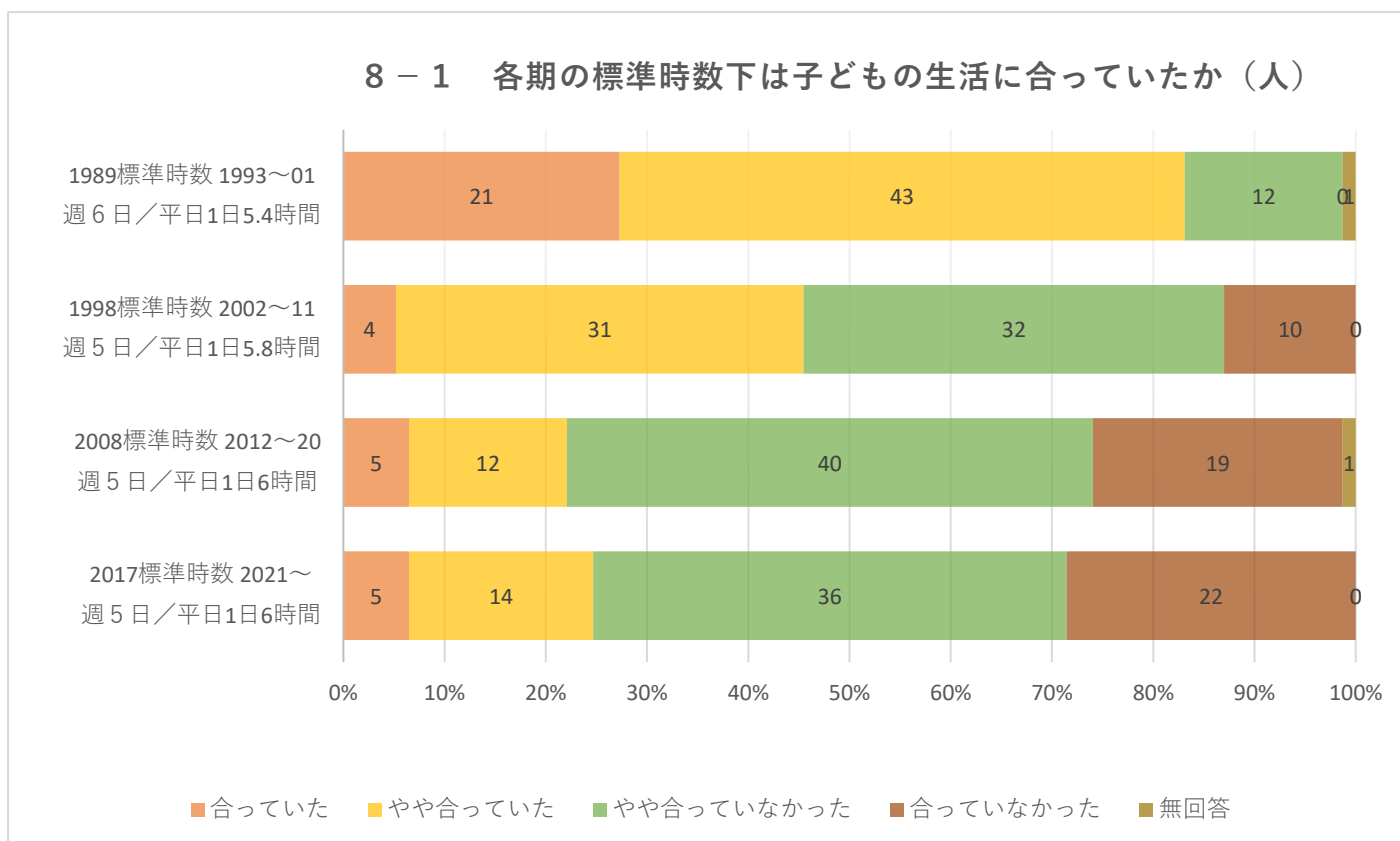


□ 「やや合っていないかった」「合っていないかった」は1989標準時数下が26人(34%)で最小、2008標準時数下が63人(82%)で最大

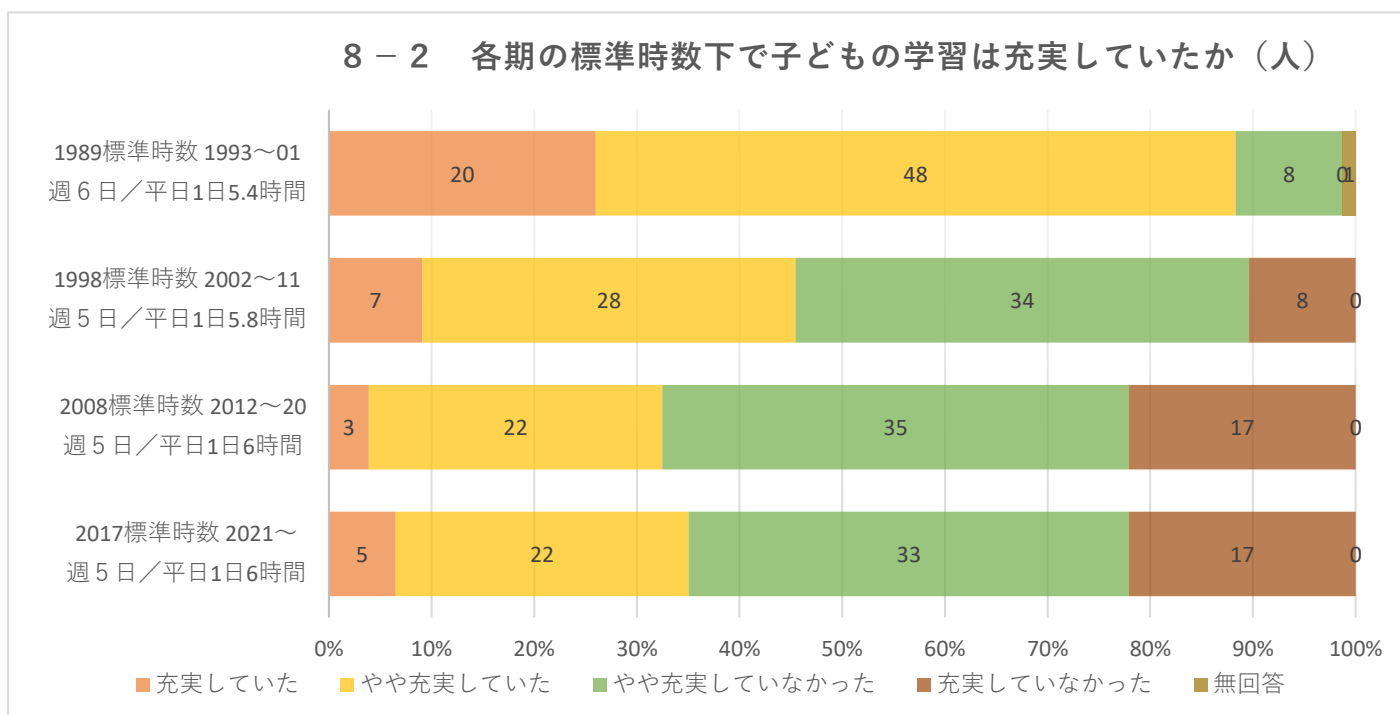


□ 「やや充実していないかった」「充実していないかった」は1989標準時数下が18人(23%)で最小、2008と2017の標準時数下がいずれも56人(73%)で最大

図表8 5・4期経験の数学担当77人の回答

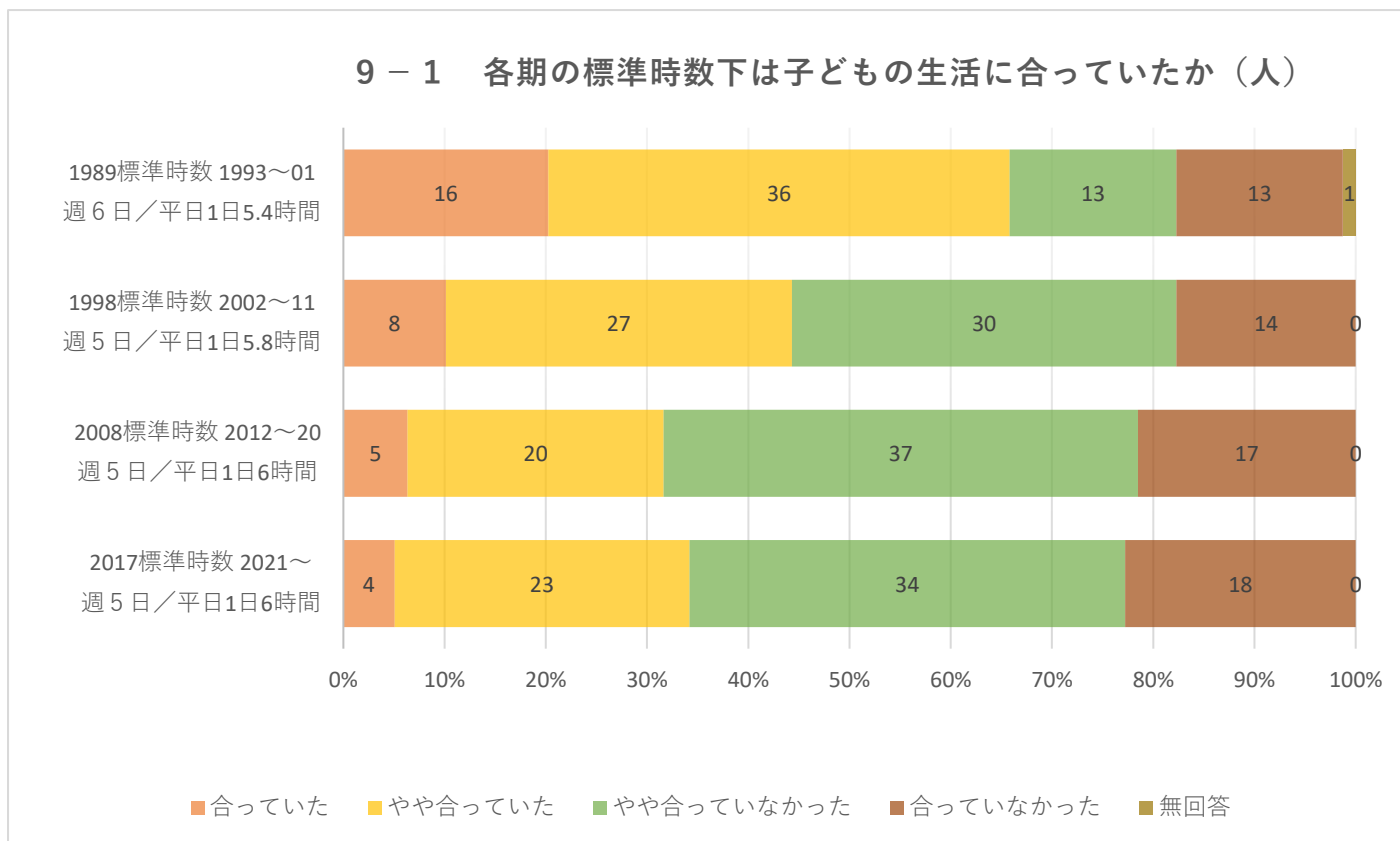


□ 「やや合っていないかった」「合っていないかった」は1989標準時数下が12人(16%)で最小、2008標準時数下が59人(77%)で最大

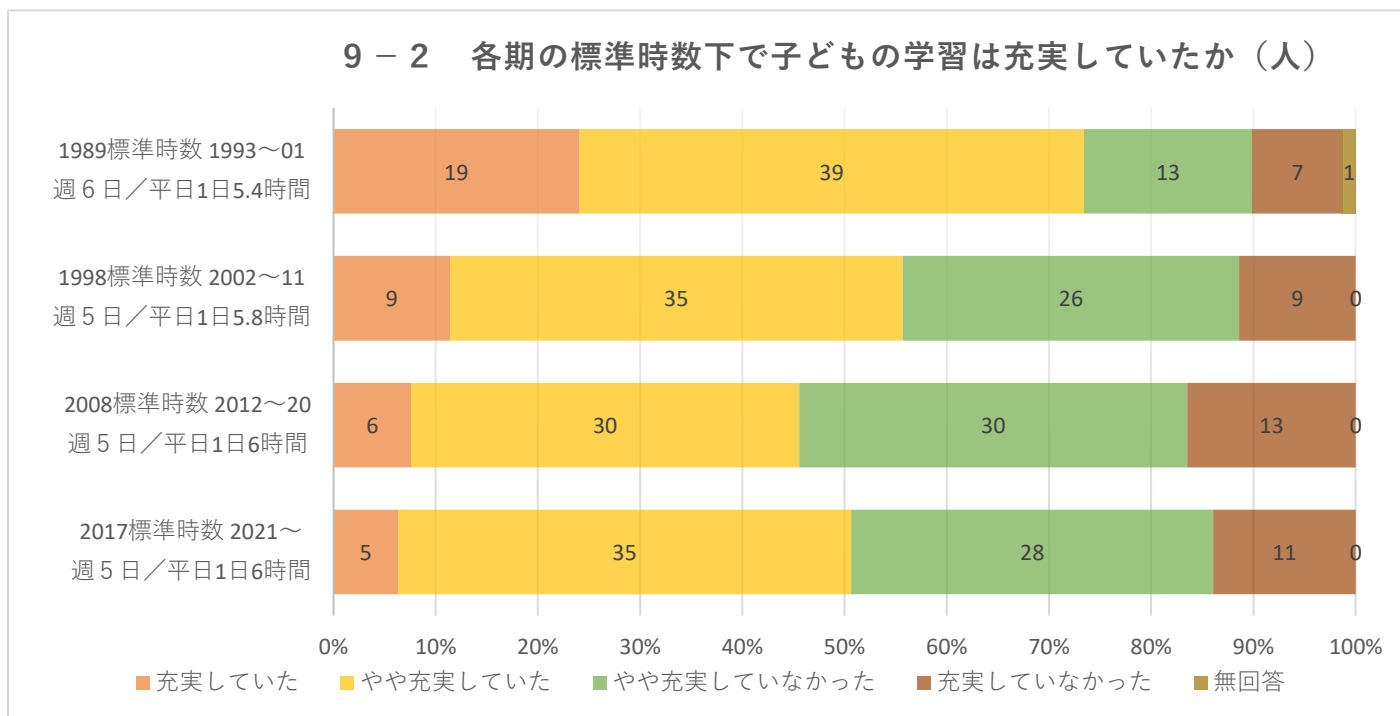


□ 「やや充実していないかった」「充実していないかった」は1989標準時数下が8人(10%)で最小、2008標準時数下が52人(68%)で最大

図表9 5・4期経験の理科担当79人の回答

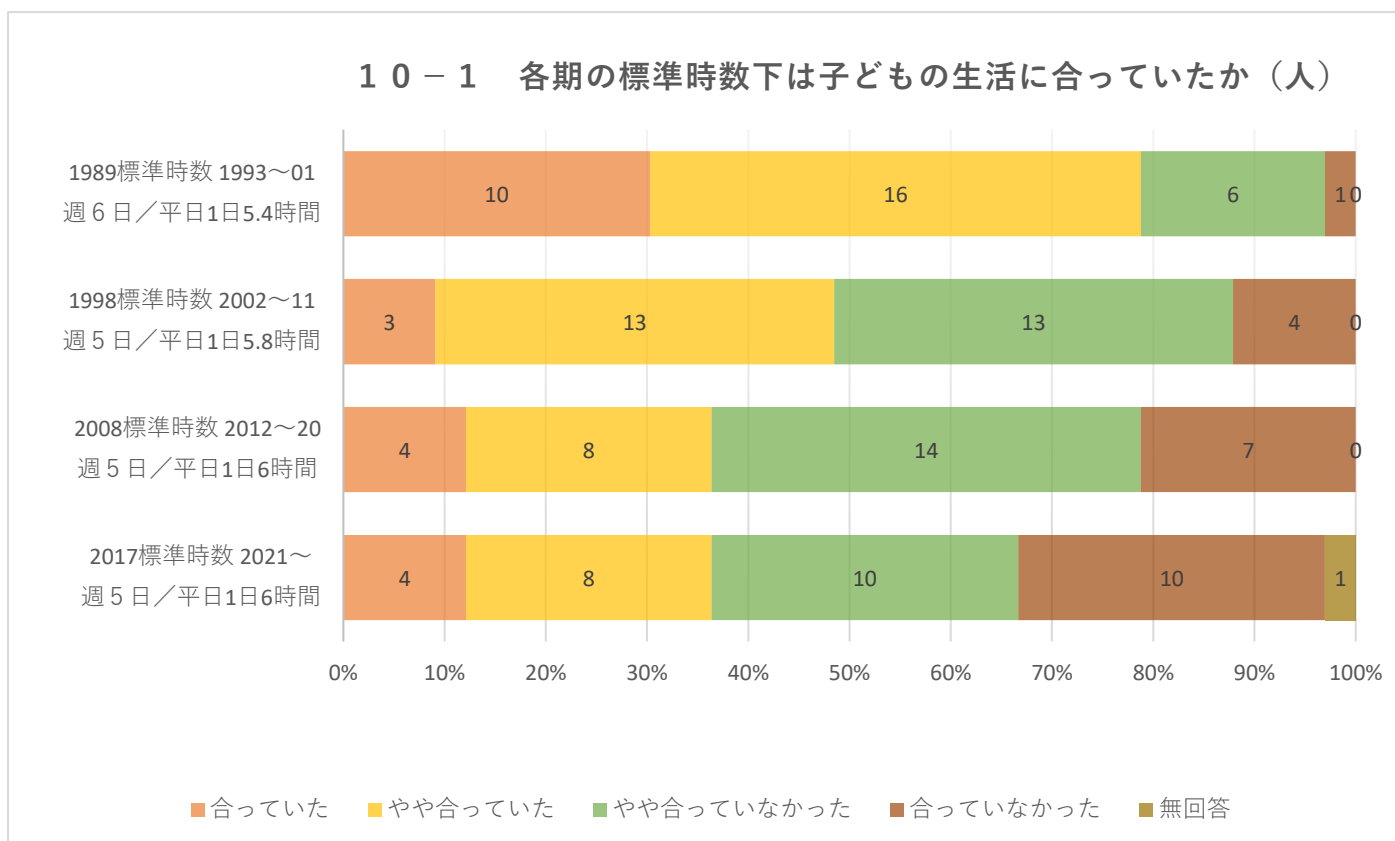


□ 「やや合っていなかった」「合っていなかった」は1989標準時数下が26人(33%)で最小、2008標準時数下が54人(68%)で最大

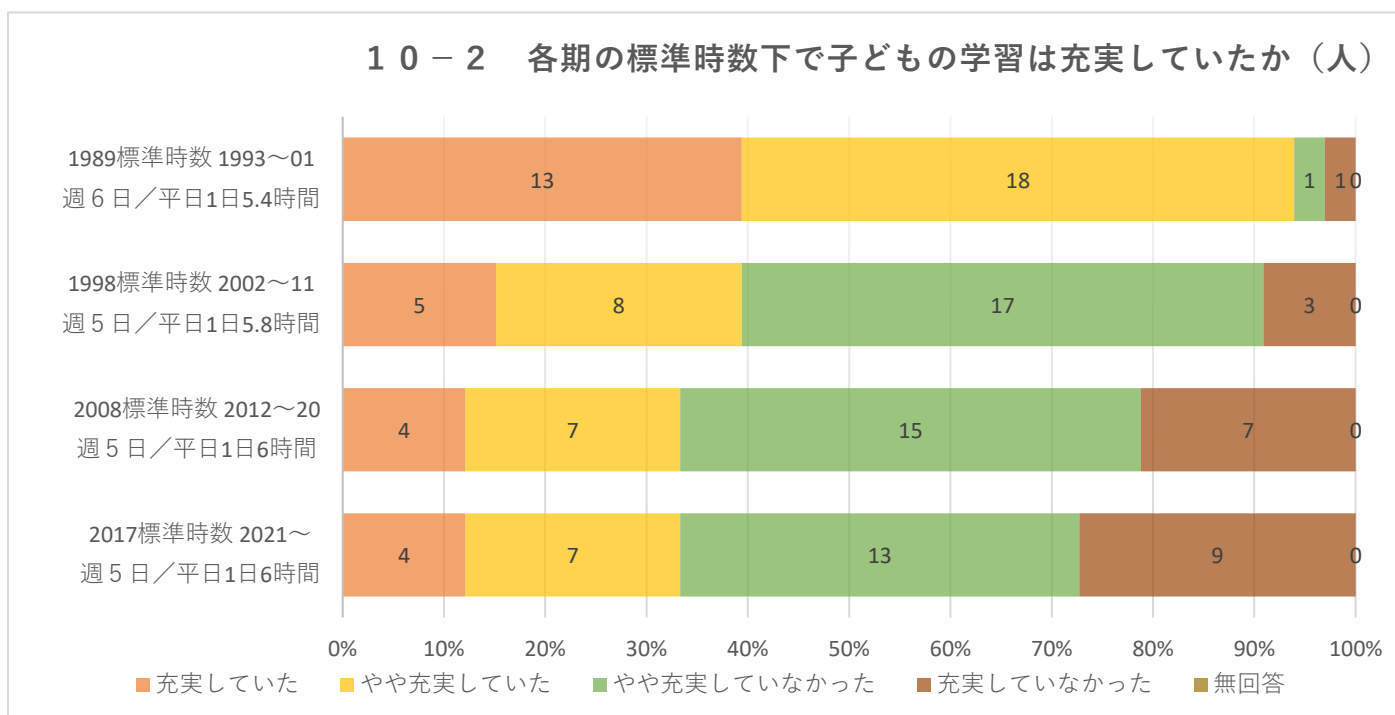


□ 「やや充実していなかった」「充実していなかった」は1989標準時数下が20人(25%)で最小、2008標準時数下が43人(54%)で最大

図表10 5・4期経験の音楽担当33人の回答

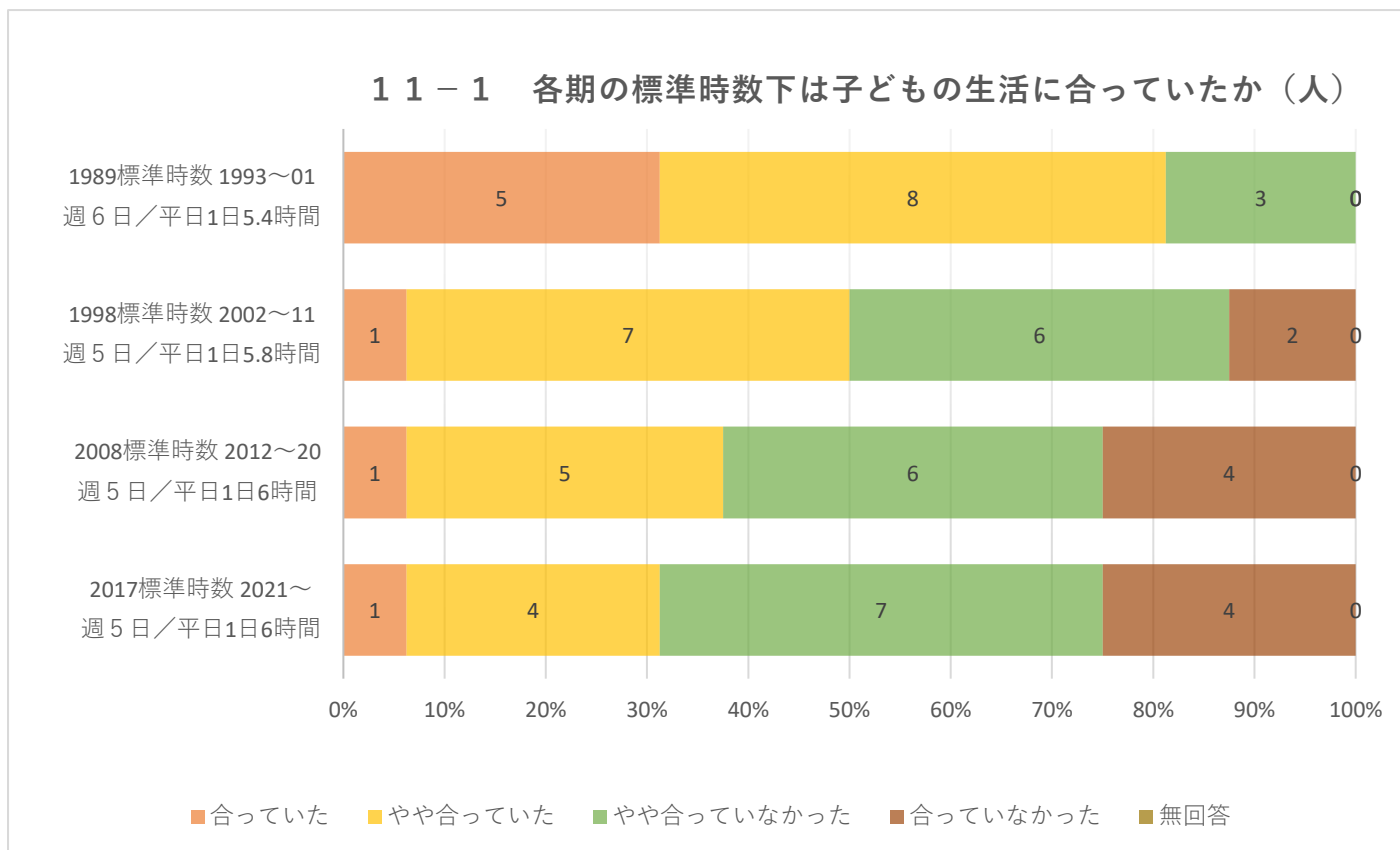


□ 「やや合っていないかった」「合っていないかった」は1989標準時数下が7人(21%)で最小、2008標準時数下が21人(64%)で最大

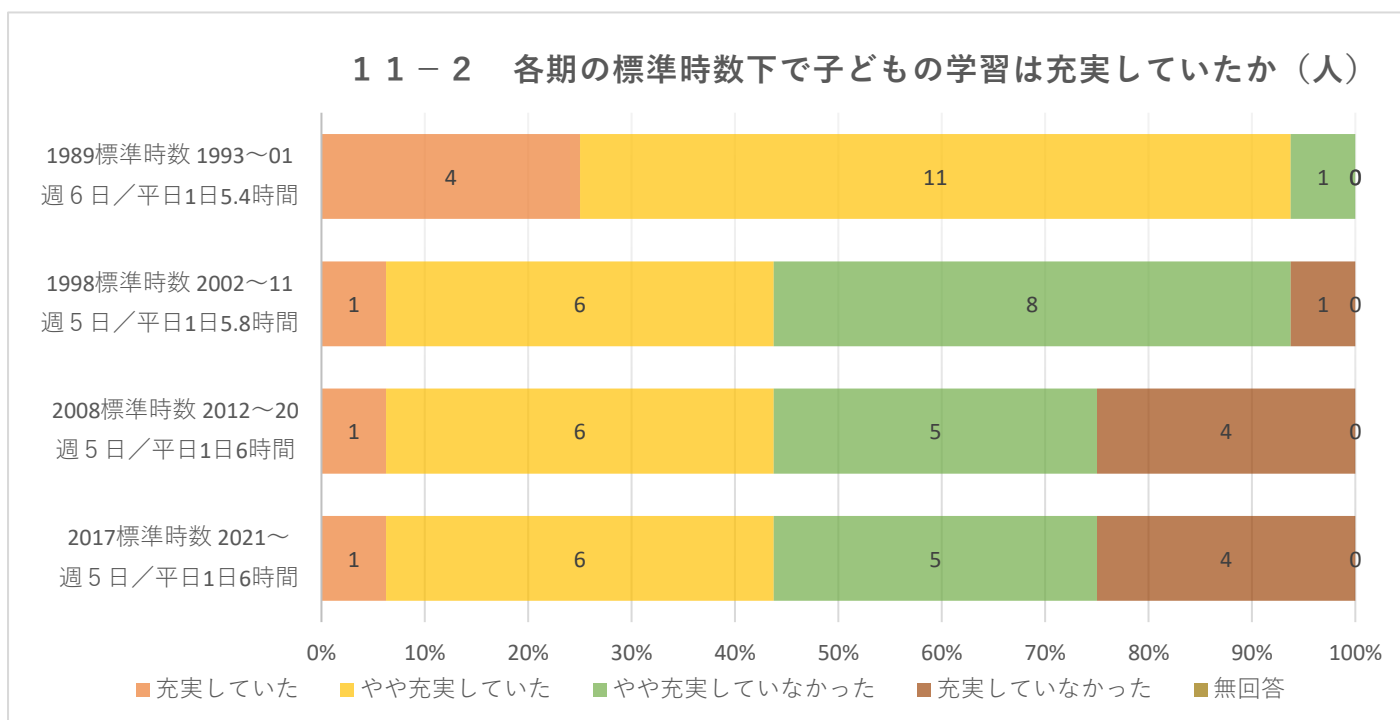


□ 「やや充実していないかった」「充実していないかった」は1989標準時数下が2人(6%)で最小、2008と2017の標準時数下がいずれも22人(67%)で最大

図表11 5・4期経験の美術担当16人の回答

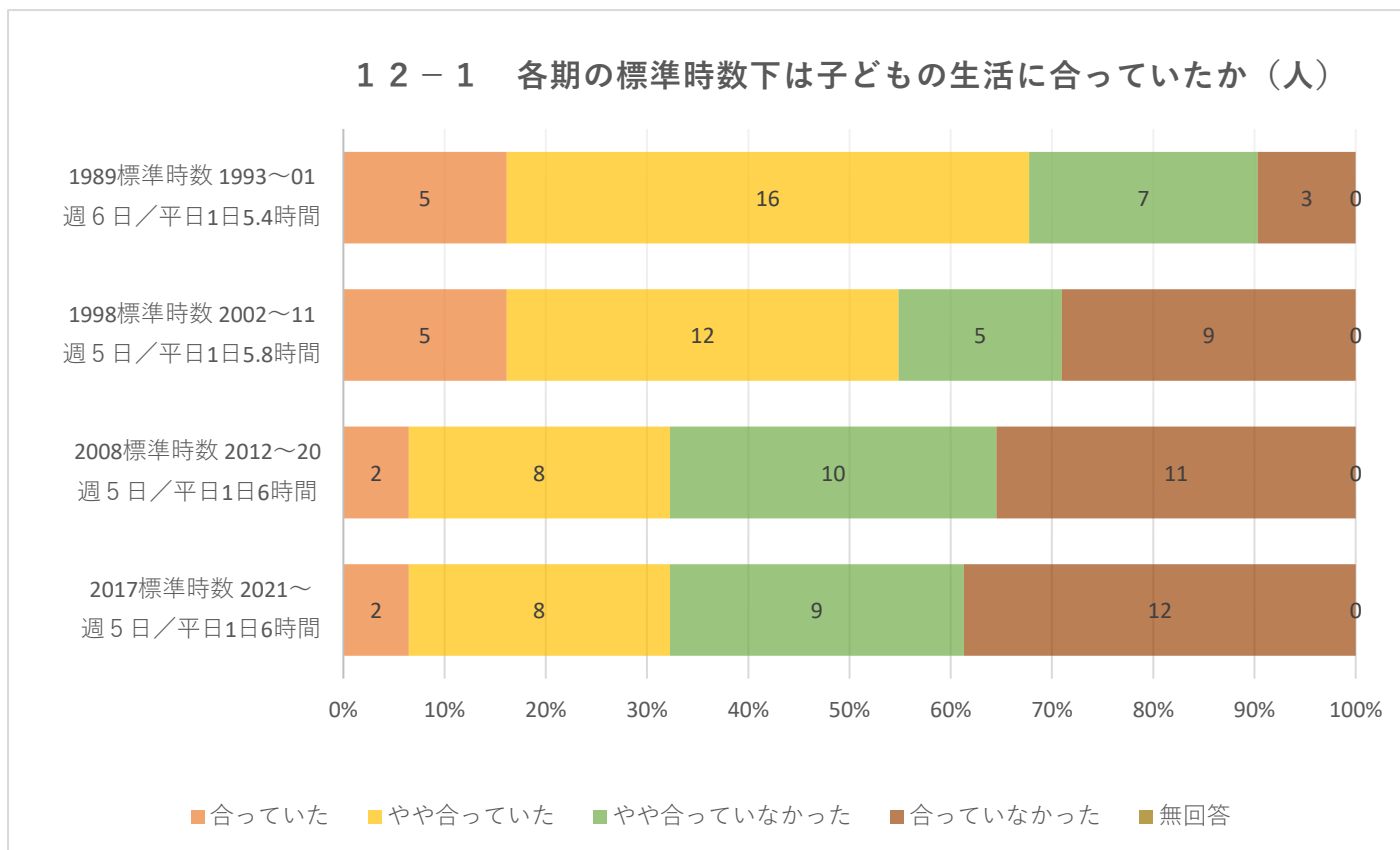


□ 「やや合っていないかった」「合っていないかった」は1989標準時数下が3人(19%)で最小、2017標準時数下が1人(6%)で最大

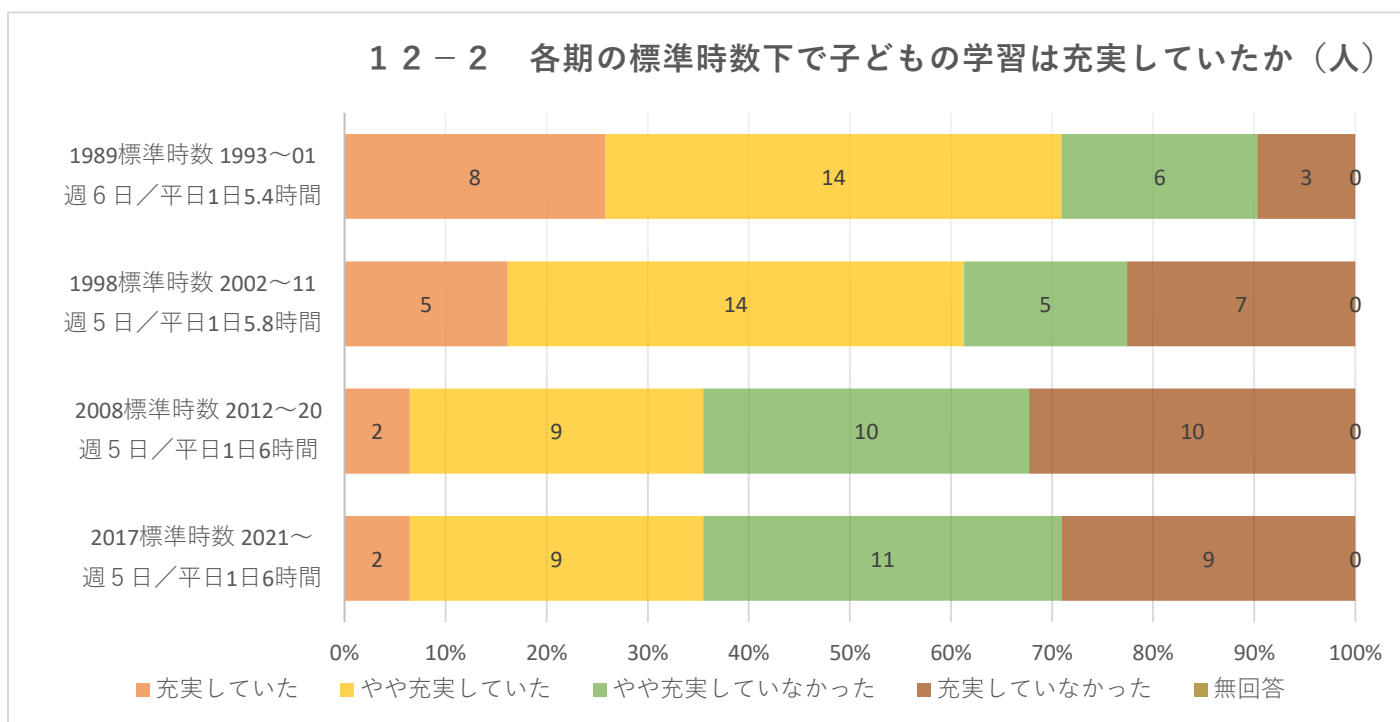


□ 「やや充実していないかった」「充実していないかった」は1989標準時数下が1人(6%)で最小、2008と2017の標準時数下がいずれも9人(56%)で最大

図表12 5・4期経験の保健・体育担当31人の回答

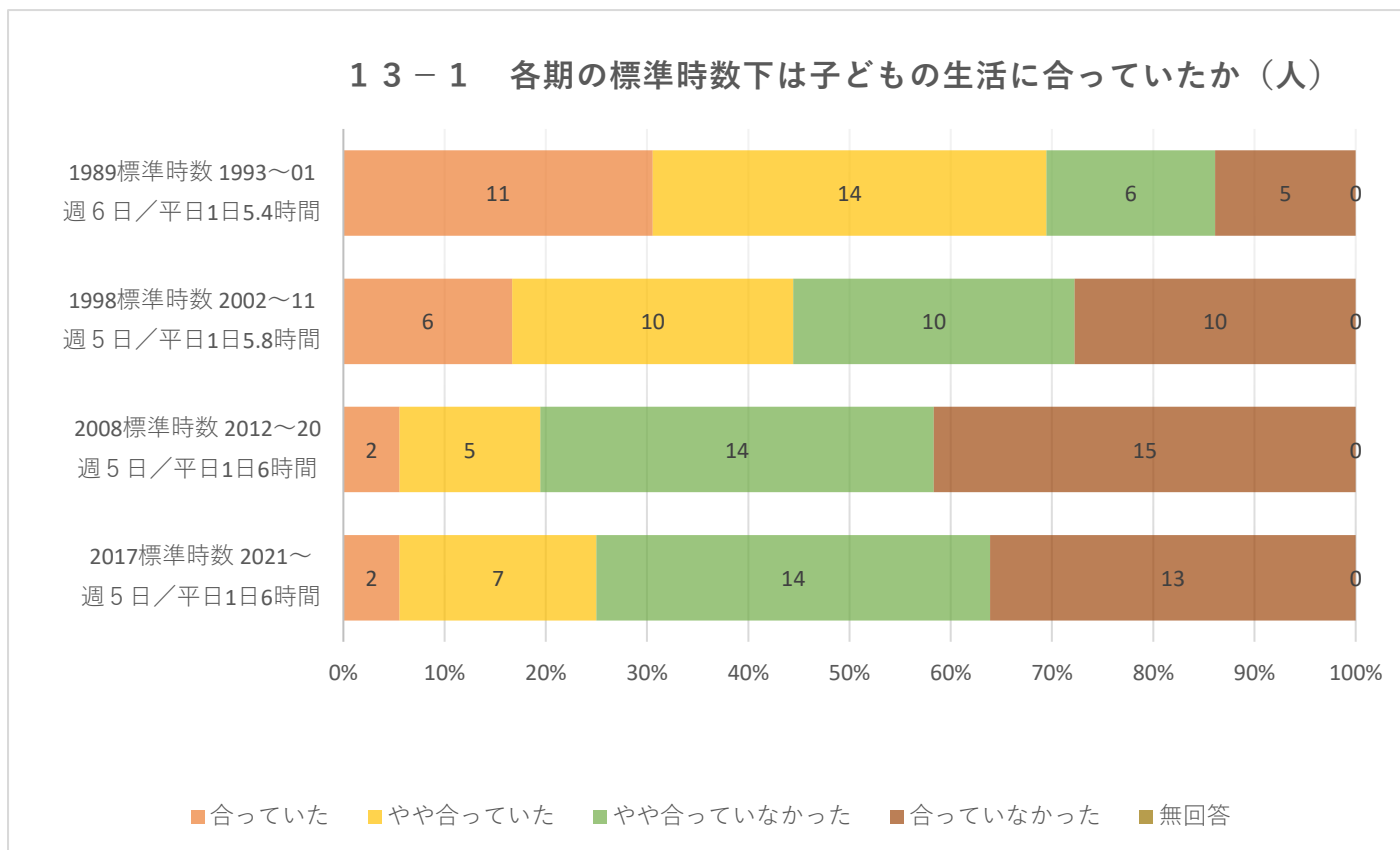


□ 「やや合っていないかった」「合っていないかった」は1989標準時数下が10人(32%)で最小、2008と2017の標準時数下がいずれも21人(68%)で最大

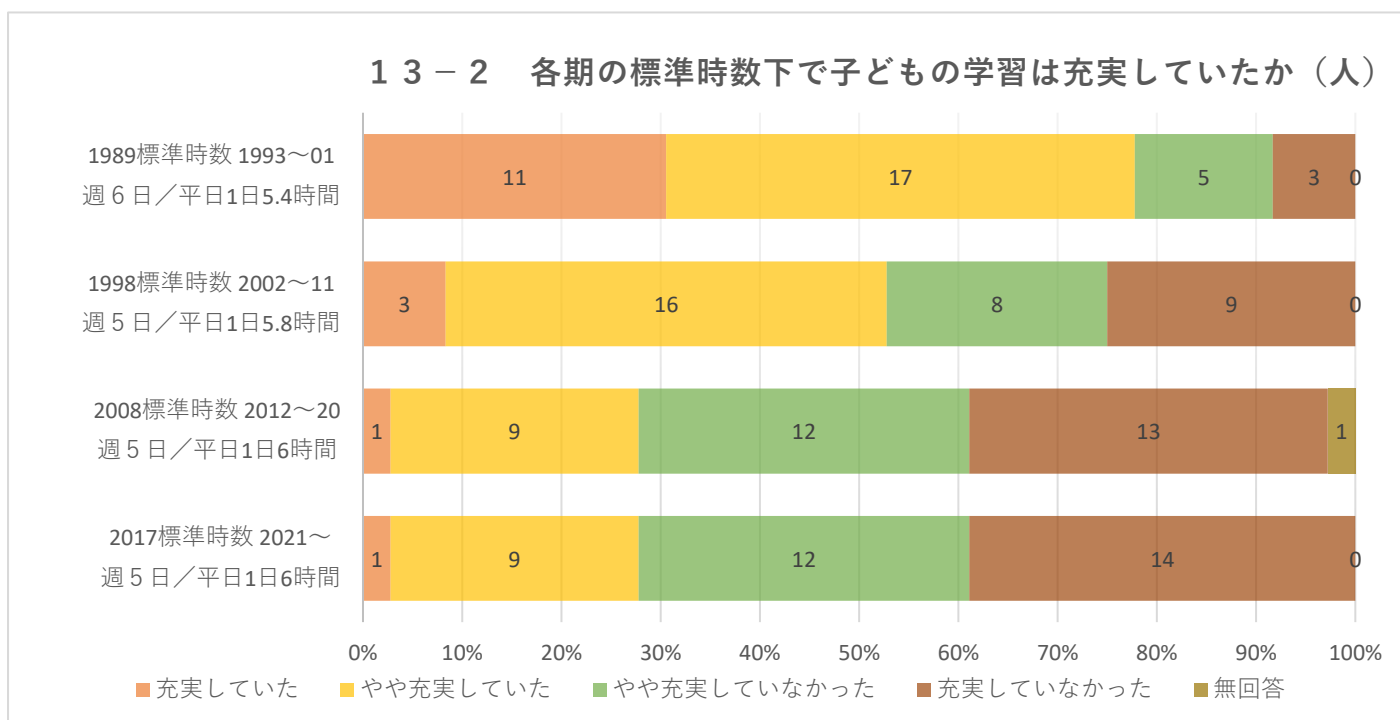


□ 「やや充実していないかった」「充実していないかった」は1989標準時数下が9人(29%)で最小、2008と2017の標準時数下がいずれも20人(65%)で最大

図表13 5・4期経験の技術・家庭担当36人の回答

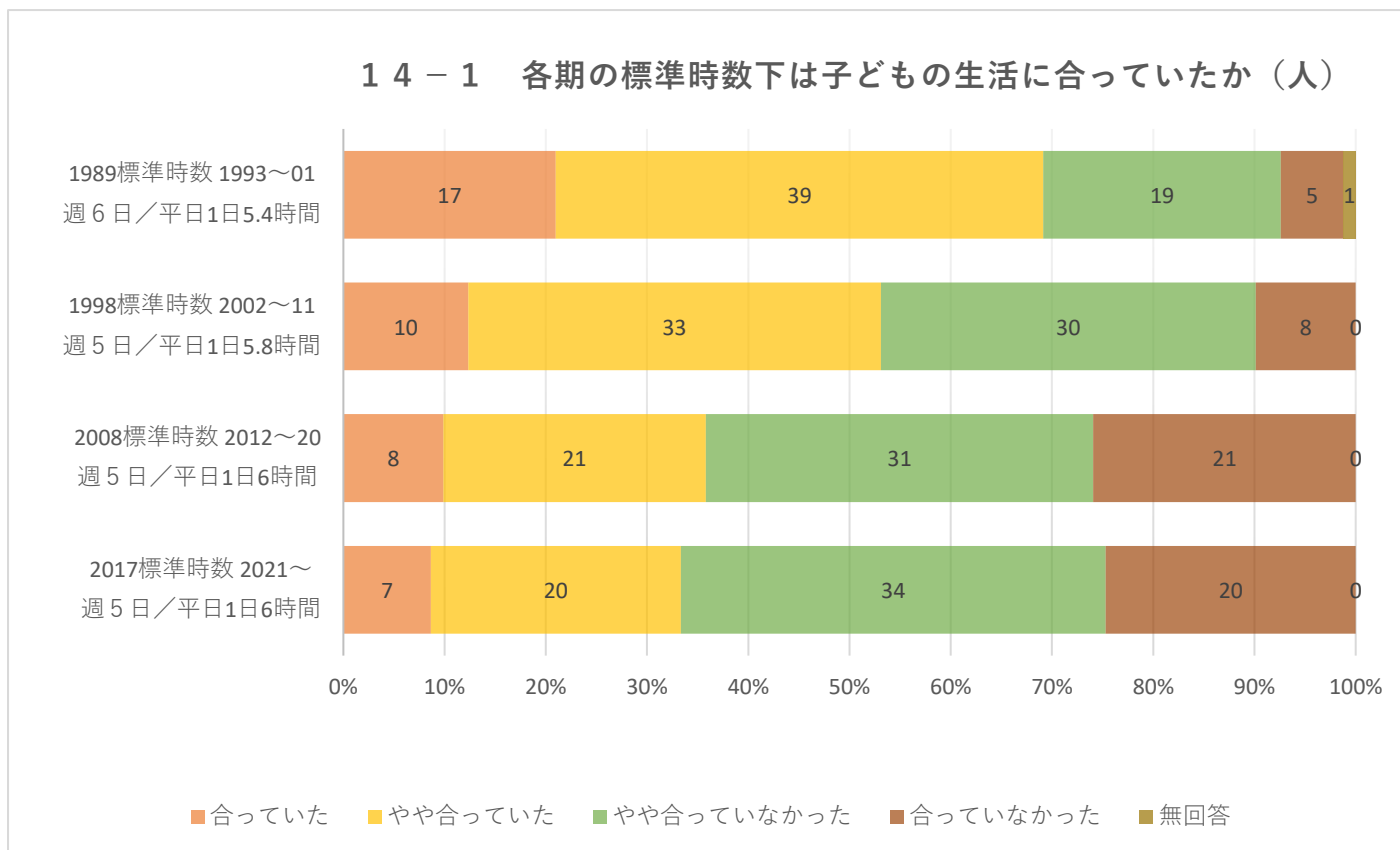


□ 「やや合っていないかった」「合っていないかった」は1989標準時数下が11人(31%)で最小、2008標準時数下が29人(81%)で最大

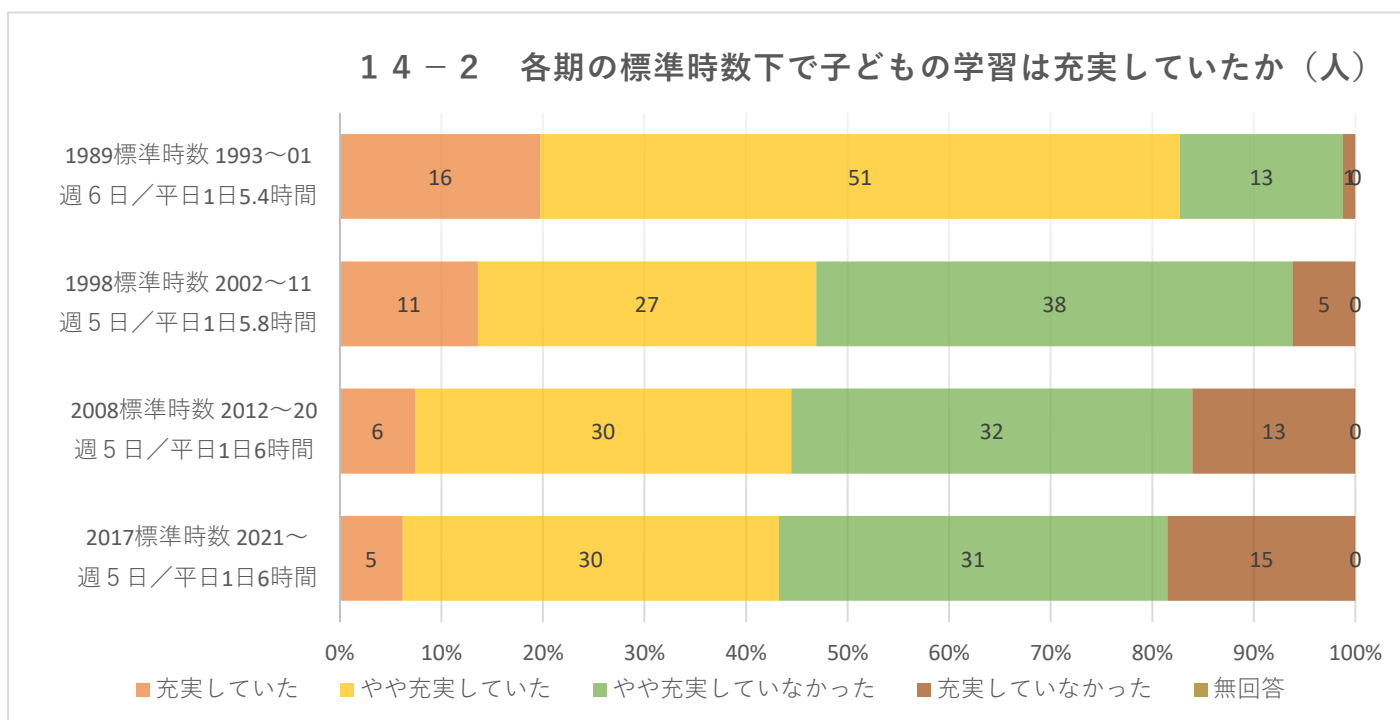


□ 「やや充実していないかった」「充実していないかった」は1989標準時数下が8人(22%)で最小、2017標準時数下が26人(72%)で最大

図表14 5・4期経験の外国語担当81人の回答

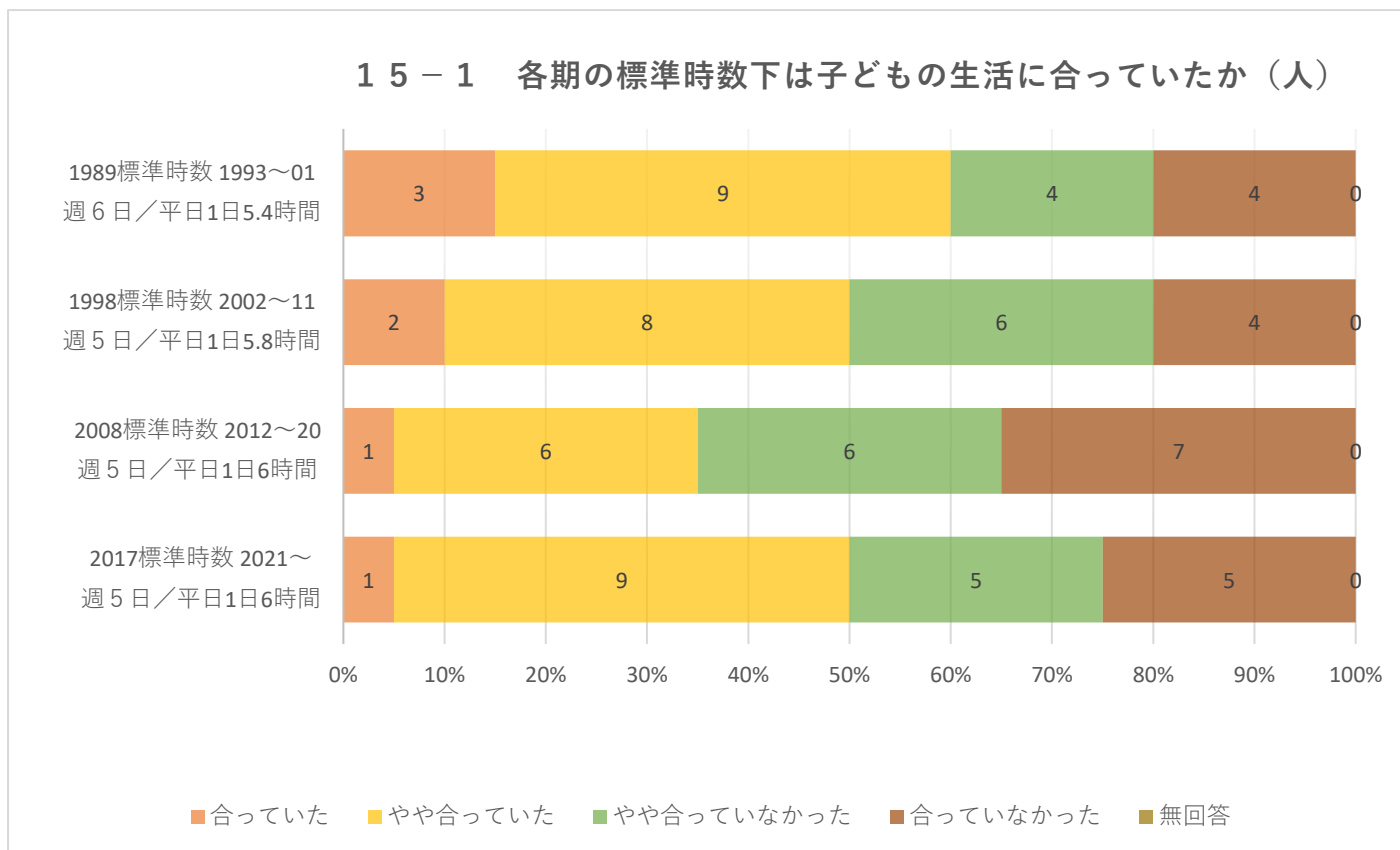


□ 「やや合っていないかった」「合っていないかった」は1989標準時数下が24人(30%)で最小、2017標準時数下が54人(67%)で最大

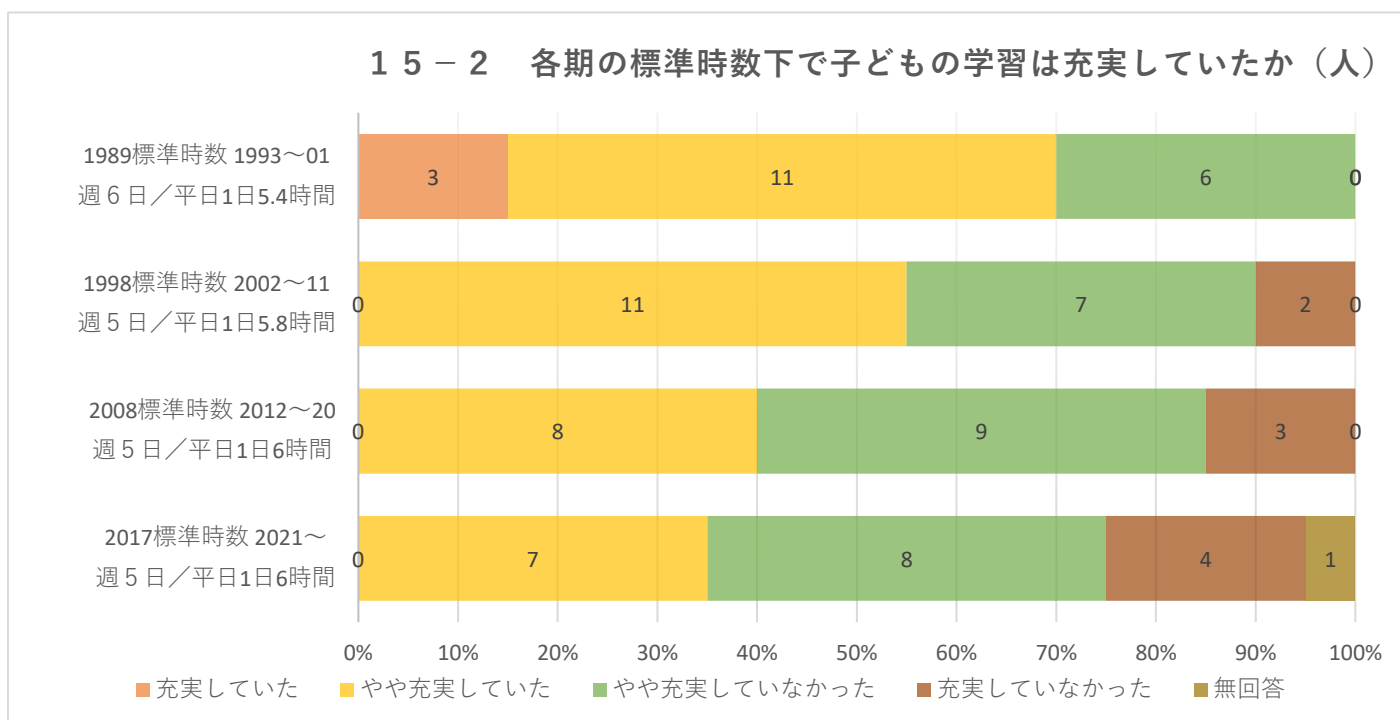


□ 「やや充実していないかった」「充実していないかった」は1989標準時数下が14人(17%)で最小、2017標準時数下が46人(57%)で最大

図表15 5・4期経験のその他担当20人の回答

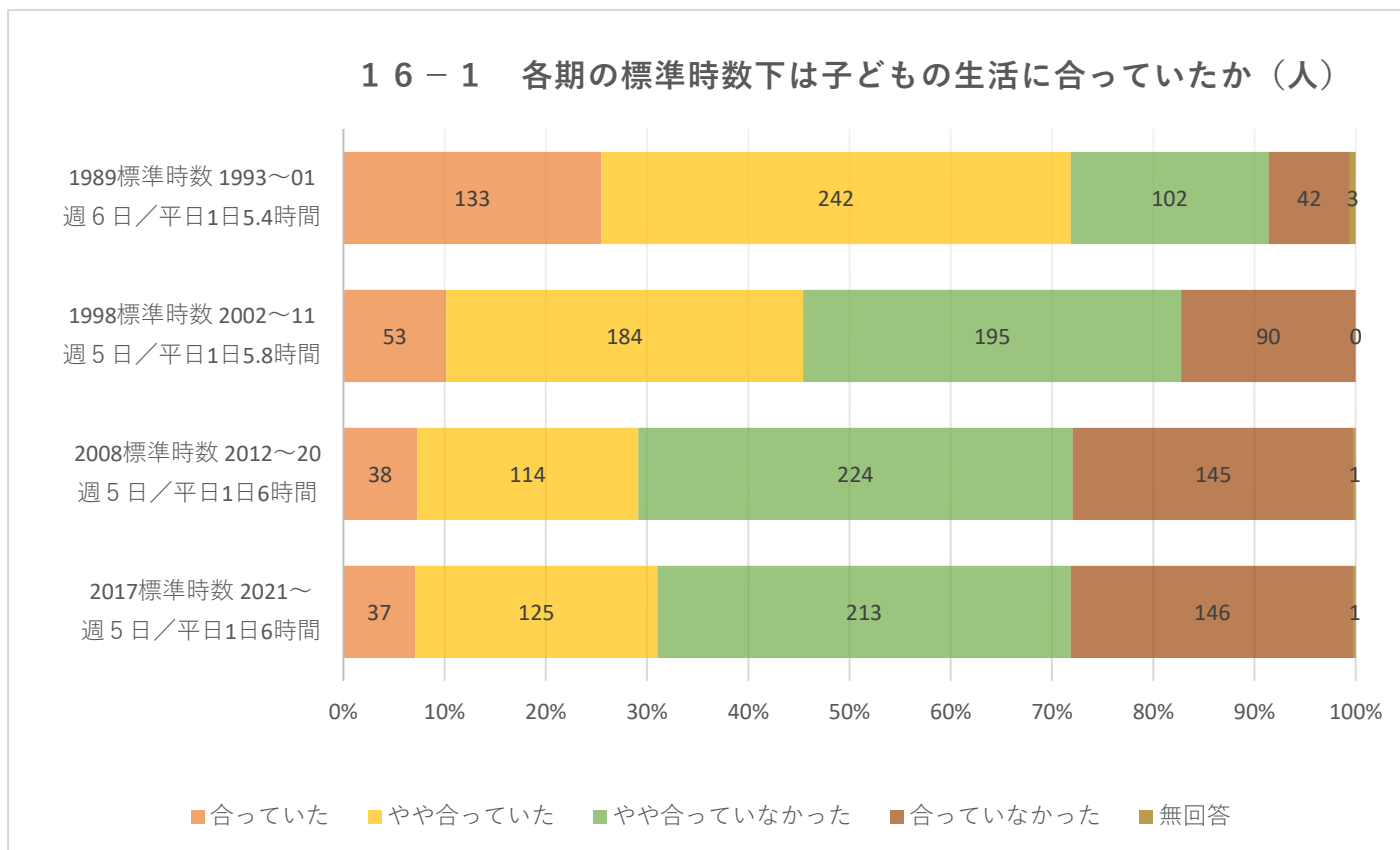


□ 「やや合っていないかった」「合っていないかった」は1989標準時数下が8人(40%)で最小、2008標準時数下が13人(65%)で最大

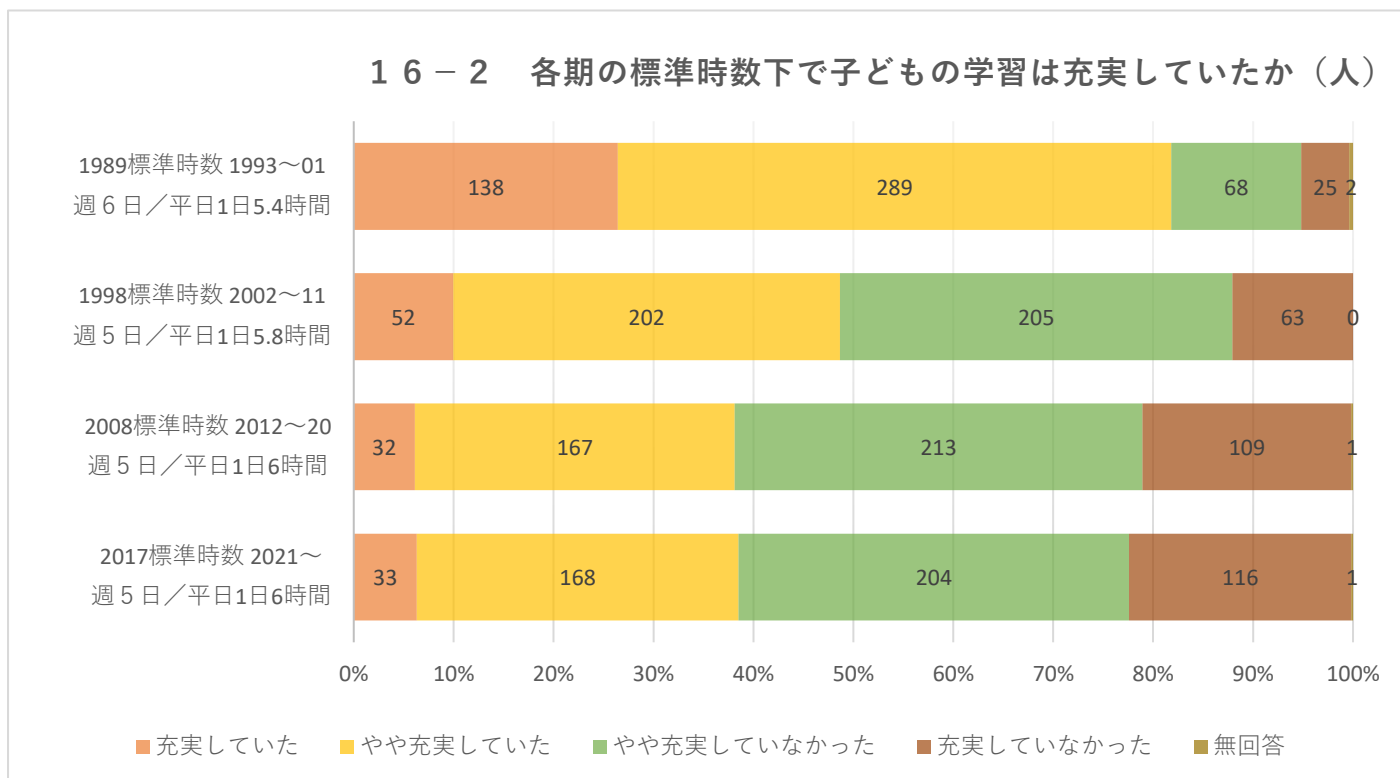


□ 「やや充実していないかった」「充実していないかった」は1989標準時数下が6人(30%)で最小、2008と2017の標準時数下がいずれも12人(60%)で同率最大

図表16 5・4期経験522人の回答



□ 「やや合っていないかった」「合っていないかった」は1989標準時数下が144人(28%)で最小、2008標準時数下が369人(71%)で最大



□ 「やや充実していなかった」「充実していなかった」は1989標準時数下が93人(18%)で最小、2008標準時数下が322人(62%)で最大

■図表6～14から読み取れること。各期の標準時数下の教育課程が「子どもの生活に合っていたか」の問いに対して、いずれの教科・領域を担当した教員も、1989標準時数下にプラス評価がもっとも多く、2008と2017の標準時数下についてはマイナス評価が多かった。「子どもの学習は充実していたか」についてもほぼ同じ傾向だった。

VI. 調査結果2 — 自由記述から

本調査では自由記述欄も設けた。「標準時数のあり方についてお気づきの点がありましたらご記入ください」という問いの内容に対応した有効な回答は490件あった。以下の項目ごとに回答を整理することにより見えてきたことを報告したい。1つの回答の中に複数の項目への言及がある場合は、いずれかの主題にその回答をふりわけている。なお回答者の特定につながる記述は〇〇市をA市に直すこと等をしている。下線は4～7頁で引用した箇所。

項目	件数
1. 標準時数を下回る編成を恐れる傾向	25件
2. 標準時数の量	46件
3. 内容量と時数の関係	53件
4. 標準時数の中に35で割り切れないものがあること	9件
5. 特別活動の標準時数が35しかないこと	9件
6. 時数編成の工夫	34件
7. 要望や提案	73件
8. 不登校との関係	10件
9. 変遷の評価等	106件
10. その他（本報告では割愛）	125件
計	490件

1. 標準時数を下回る編成を恐れる傾向

標準時数を下回る編成を恐れる具体例。5期経験から。「以前は定期テストの前日、2学期初めは午前中授業、始業式や終業式などの日は2～3時間で下校であったが、今はただ授業時間を稼ぐためにほとんど内容のない授業を6時間している」(1-8)。4期経験から。「余剰時数を過剰にとり、しかも最後までそれを消費しないことも増えている、問題だと思います」(1-14)。2期経験から。「授業時数確保のために、夏休み削減や終業式の日も午前中授業を実施している学校や自治体があります」(1-21)。

標準時数を下回る編成を恐れる原因について、管理職や市町村教育委員会に言及した回答。5期経験から。「自然災害や感染症等があつて、休校 になったら、困るなどを管理職が、言うようになった」(1-2)。「昔に比べると、管理職や教育委員会による授業時数のチェックが厳しくなったように感じます」(1-6)。「標準時数を超える時数は不要だと文科省等から通知があるのにもかかわらず各市町村教委は予備時数を30～60時間取るようにと各校に指示している実態があります」(1-1)。

なぜ管理職や市町村教育委員会は下回る編成を恐れるのかを説明した回答もあった。5期経験から。「1990あたりは、標準時数の9割くらいの実時数くらいで運用しても何も問題なかった。それが2010くらいからの標準時数を実時数で必ず確保せよという文科省の方針のせいで、学校の活動が窮屈になった」(1-5)。

2. 標準時数の量

24件が授業時数の過多が子どもに与えるマイナスの影響に言及するものだった。5期経験から。「午前4コマ・午後2コマでは昼食が13時頃になったり部活動の開始時刻が遅くなったりと、よいことはありません」(2-4)。「毎日午後の授業は生徒たちも疲れが溜まっている」(2-5)。3期経験から。「生徒、教員すべての人が余裕がない生活を送るようになった。やり過ぎです」(2-11)。「毎日6時間日課で疲弊している。標準時数は多すぎる。会議でも生徒指導でも、混み合っていて、何かをやらうとすると昼休みになることが増えた」(2-13)。2期経験から。「6時間授業を毎日、生徒・教職員共に苦しい。放課後の時間的余裕を生むためには、授業時数の削減が絶対的に必要だと思う」(2-31)。「子供たちも授業が多すぎててんてこ舞いという感じで詰め込み感がある」(2-32)

授業時数の量はこのままで良いとする回答も2件あった(小学校教員調査の自由記述にはそのような回答は無かった)。2期経験から。「時数を増やすことに関して減らすことに関して反対です」(2-40)。1期経験から。「6時間の標準時数しか経験ありませんが、今まで通りで良いと思います」(2-44)。

授業時数の量はこのままで良いとしつつ、教職員にとっては問題があるとした回答は2件あった。2期経験から。「標準時数が現状でも構わないが、現在の教職員定数で持続可能だとは全く感じられない。このままでは教育現場は崩壊します」(2-38)。1期経験から。「標準時数はこの程度なのだろうとは思いますが、少ない教職員でそれを回すのが教職員の負担感につながっている」(2-42)。

授業時数の量は多くても良いとしつつ、教職員にとっては問題があるとした回答は3件あった。3期経験から。「時数は多くても良いと思うが、担当する教員が不足して、持ち時間数が大きくなっている」(2-16)。2期経験から。「教職員の働き方とみたときには、授業数は多いと思う。しかし、生徒の学力保障とすると、少ないと思う」(2-36)。「時数が増えるのはいいです。教師の持ちコマ数が増えることが問題です。いろんなことを学校に詰め込みすぎて、授業以外の仕事が多いことが一番問題なんです。授業は我々の仕事上一番がんばるところです」(2-39)。

3. 内容量と時数の関係

5期経験から。「今、時数を減らしてもよいということが話題にあがりますが、指導要領の内容を減らさない限り、時数減は現場は大変になる。指導要領の学習内容は入試につながるため。結局、その内容をこなすのに時間(授業)が必要である」(3-7)。「標準時数が減少しているのに指導内容は減じられていない。むしろ増加しているように感じます。年度内に教科書の内容を終えることができない場合は、地教委から強い指導を受けることとなります。また、地域の学習塾から「〇〇中学校の〇〇先生は、年度内に教科書を終わっていない」とバッシングされます。丁寧に指導しようとするほど学習進度が遅れ、それが大きなプレッシャーになります。問題の根本は、学習指導要領の指導内容が学問的に精選されていないことにあり、「これも教えよ」、「あれも教えよ」と詰め込みになっていることにあると思います」(3-8)。

4期経験から。「時数もそうですが学習内容も増加、難易度も高くなっていると感じます。この学習内容、難易度なら、今の時数でも足りないくらいです」(3-14)。「設定された時数に見合った教科書の内容量にしてほしい。数学は、探究心ある授業も必要なのに、教科書の内容を終わらせることに必死です。数学が好きになる生徒を増やせるような授業をもっとできる時間的余裕がほしい」(3-16)。「標準時数だけでなく、学習指導要領の改訂に伴う指導内容の増加が、子どもにも教員にも負担となっている」(3-18)。

3期経験から。「学習指導要領が示す学習内容、求められる授業の流れを考えると生徒の基本学力の要求度合いが高すぎるので今の時数でも足りない気がする」(3-24)。「標準時数と指導内容のバランスが悪く、標準時数内で終わらせるのが大変」(3-29)。

2期経験から。「学習すべき内容が多く、時数内で終わるかハラハラしながら授業をするときがあります」(3-32)。「理科の中1で求められる内容に対して、時数はぎりぎりです」(3-47)。

4. 標準時数の中に35で割り切れないものがあること

5期経験から。「35週で割れない1年生の音楽、美術の45時間、総合的な学習の時間の50時間は、週の時間割が年間を通じて1つのパターンで実施できないため、学校裁量に任せられているとはいえ、とてもやりづらくなっている現状がある」(4-1)。「年間を通じて一つの時間割で行えない状態は、負担を増やしている。時間割を複数回作成しなければならないことは勿論、今週は美術なのか音楽なのか確認したり、等々、日々の小さな手間の積み重ねは、小さくない負担になっている」(4-3)。

5. 特別活動の標準時数が35しかないこと

生徒会活動がやりづらいこととその弊害について。5期経験から。「放課後活動や委員会活動の出来る時間の確保が難しいので、教師との関係や、生徒同士による人間形成が希薄になる」(5-1)。

行事がやりづらいこととその弊害について。3期経験から。「行事に当てる時間も無くなり、生徒同士が協働したりぶつかったりしながら、心豊かに成長する場面はなくなってきた」(5-5)。2期経験から。「時間の関係で色々な行事に向けての取り組みが形だけになっているのは、標準時数の関係だと思う」(5-6)。

6. 時数編成の工夫

工夫による5時間授業

3期経験から。「標準授業時数は、学校に編成権があると広く認識されたことは大きかった。昨年度、若手教員が勉強して声をあげてくれた。3学期に授業時間の見直しを行い、月曜日と木曜日は5時間目になった」(6-17)。2期経験から。「生徒たちは、日々授業、部活、塾、習い事と忙しく過ごしていました。また、教職員も授業時数の多さで、空き時間も少なくはたらいっていました。その中で、何とか工夫をして5時間授業の日を週2日設定し、生徒・教職員ともに肩の力を抜ける時間を作り出していました」(6-31)。

45分授業

5期経験から。「1時間を45分授業にしている学校や朝練をしない学校がある」(6-3)。4期経験から。「45分対応して放課後の時間を少し確保している」(6-8)。3期経験から。「45分授業などで対応していたのは、苦肉の策として効果的だった。子どもたちにも必要な措置だった」(6-12)。「勤務校では会議がある日は45分授業にしたり、掃除をする日は月、水、金のみにしたり、水曜日は5時間授業になっています」(6-16)。

モジュール

2期経験から。「モジュールを取り入れて1日10分×5日で1単位時間を生み出すことや、夏休みを短くして授業時間を増やすなどすることが増えた」(6-32)

特別活動の削減と弊害

4期経験者から。「行事を削り、集会や学活を抱き合わせにして何とかやりくりしていて、結局、子どものためになっていない」(6-9)。

余剰時数の活用

5期経験から。「余剰時数の削減が進んでいることはよいが、まだまだ、現場は余裕がない」(6-2)。

夏休みを減らすことと賛否

5期経験から。「夏休みを減らして一日5時間の日を増やしたところ、子どもにも教職員にもゆとりが生まれました。一日の授業時数は5時間が限度です。6時間目は集中力が続かないため、時間割作成の際にはどの教科も「6時間目は入れないで」と要望が出ます」(6-7)。3期経験から。「時数を減らすために長期休みや休日を減らすという考え方には反対です」(6-20)。

7. 要望や提案

標準時数を減らす要望が多く、増やす要望はなかった。標準時数の減らし方については、一単位時間を45分にす

る要望があった。5期経験から。「中学校の授業を50分ではなく、全て45分にする」(7-1)。4期経験から。「思い切って45分授業にする」(7-25)。「50分を1時間とする授業の組み方が、現代的な探究的な学びには適していないと考えられる。追求の時間が少なく、浅い授業になる。大学のような90分単位とするか、教科の特性に応じ45分と90分の2パターンの1単位時間にするなど工夫が必要と考えられる。」(7-26)。3期経験から。「時数もそうですが、時間も45分にするだけでも時間が確保できると考えます」(7-44)。2期経験から。「月～木曜日まで45分の5時間、金曜は4時間授業」(7-63)。1期経験から。「1年間、45分時程にしたら良いと思います」(7-70)。

どこまで減らすかについて、削減幅がもっとも小さかったのは次の回答。5期経験から。「水曜日は5時間、それ以外は6時間がベストだと思います」(7-14)。つまり1日5.8時間。

これに1日5.6時間の回答と1日5.2時間の回答が続き、1日5時間とする提案が多かった。3期から。「様々な問題を解決するために、平日5.1日5時間授業に統一すればよい。指導法の工夫で学力は落ちない」(7-38)など。

削減幅がもっとも大きかったのは次の回答だった。2期経験から。「午前中に授業(週5日4時間で20時間分の授業)を学校は行うだけ。午後は課外活動や自主的な探求活動を行えるようにしたほうが、生徒の人間的な成長に効果があると感じている。」(7-53)。つまり1日4時間。

8. 不登校との関係

時数の過多が不登校の一因とする回答があった。4期経験から。「部活動もあり、学校が拘束する時間が長いと感じる。水曜日が5時間であるが、欠席者が減ることが多いし、ノ一部活の日も休みが減る。長時間、授業や部活で拘束することが、プレッシャーになると思う」(8-4)。「標準時間が増えている上に〇〇教育や朝読書、部活動などの教育課程外のものが増え、子どもも教師も基礎的なもの以外があることで早朝から長時間を学校で過ごし疲弊している。10代は睡眠が重要であるが、学校のシステムのタイトさが身体を疲弊させ、不登校を招いている」(8-6)。

時数と内容の過多が不登校の一因とする回答もあった。5期経験から。「時数に対して学習内容が多すぎるので、子どもが大変になり不登校が増える原因にもなっていると感じている」(8-2)。3期経験から。「時間も内容も詰め込みすぎだ。とにかく教科書通り「行った」という事実を積み上げれば良いと上の方は考えているように思う。結果、子どもを主体とした授業などまやかしとなり、実際は学校生活に疲れてドロップアウトする子どもがかなり増えている」(8-8)。

学力や学力調査の重視が不登校の一因とする回答もあった。5期経験から。「学力に拘った文科省の考え方は、どの子にも平等に学ぶ機会に負担が増加し、不登校や特別支援学級在籍生徒の増加に繋がっていると思う」(8-1)。4期経験から。「10年ほど前に学力調査の結果の高い県に研修に行きました。当時から不登校生が多いという課題がありました。ぜひ、授業時数の軽減について、考えていただきたいです」(8-5)。

時数と内容の過多と学力調査の重視が相まって不登校をもたらしているとする回答もあった。5期経験から。「学校の工夫はとうに限界を超えているので、教員の人間関係も以前より冷たく多様な人を受け入れる余裕もない」「とにかく業務を減らしてほしいという要望がみんなにあり、教育課程、カリキュラムを減らすこと、点数学力へのプレッシャーを現場にかけることをやめればよい。そうなれば少し学校も明るくなり子どもの不登校も減ると現場感覚で思います」(8-3)。2期経験から。「授業時数の確保のために、夏休みは短縮され、土曜授業が増え、終業式やテストの日まで授業がある。働き方改革の名の下に子どもたちが発散するはずの行事はカットされ授業ばかりの毎日である。唯一カットされないのは本来存在しないはずの全国学テのためのプレテストや問題演習の時間である。勉強や点数、宿題のことばかり先生から言われ、息抜きの行事はなくなっていくのだから不登校の子どもたちが増えるのは当然であろう」(8-10)。

時数の過多よりも別の要因を重視する回答もあった。「不登校にしても、部活動でのトラブルが起因となる場合多いように感じる」(8-7)。

9. 変遷の評価等

変遷の総合的評価

5期経験から。「そもそも、6日制 1015 時間だったものを、隔週5日制実施でそのまま変更せず、完全5日制になったときに2土曜日分しか削減しなかったころから、教育課程の「ゆとり」がなくなった。そのころの教育は、一般に「ゆとり教育」と言われるが、我々教職員にとってのゆとりは一切なかった」(9-15)。

4 期経験から。「学校とは、子どもにとっては生活の場であり、様々な出来事を通して多面的に成長する場であると考え。しかし、現在は学力ありきとなっていて、とりわけ点数を取る力ばかりがクローズアップされている現状を見ると、塾と大差ないと感じている」(9-52)。「今は空き時間がなく、あっても補充や個別対応、放課後は勤務時間終了近くに始まる部活動、その後の時間外の生徒指導や保護者対応。時間外が前提の働き方に頼ってきた。一番犠牲にしているのは、自分の裁量になる授業準備。20 年前より学校に時間と心のゆとりを感じない。もっと同僚と話ができたから、協働できた。今の年齢バランスを考えると、学校は変わらなければ持続できないという実感。社会変化が学校に大きな影響を与えている。教材研究を勤務時間内に確保できるような教育課程と日課にしたい」(9-58)。「ゆとりの反動で、無い時間に何でもかんでも詰め込みすぎで教育課程にゆとりがない、常に授業時数の確保に追われている、放課後は部活動をしなければならない、などなど、いつもゆとりがない日々である。土曜が授業日だった頃に戻りたくはないが、今よりゆったりとした時間の流れだったように思う。総合がはじまり、道徳が教科になってさらにゆとりなさに拍車がかかった」(9-59)。

3 期経験から。「人手不足で授業や教える学年が増え、多忙感が増している。空き時間は、個別対応を求める生徒の対応で、実質教材研究に使える時間、自分の教科のことをする時間は、勤務時間外しかない。せめて週に 2 日くらい 5 時間授業の日があれば、私たちも子どもたちもゆとりを持って生活できると思う」(9-66)。「細かく言われることはなかったし、予備時数が話題になることもなかった」(9-71)。

教科時数の変遷の評価

5 期経験。国語担当から。「音楽や美術など思春期に心の豊かさを養う教科の時数が減ってしまったのは残念です」(9-3)。技術・家庭担当から。「明らかにカリキュラム・オーバーロードと言えますが、一方で、技術科の時数は減らされるなど、教科間のバランスが悪くなっている」(9-6)。理科担当から。「以前は、実技教科が、充実していて、子どもたちの心が豊かに感じた」(9-9)。その他担当から。「家庭科は週当たりの時間数が多く減り、5 教科偏重の流れと関係していたかもしれないと思う」(9-17)。国語担当から。「国語時数が少なく、語彙力を養うことが難しくなっていると思われまます」(9-18)。外国語担当から。「音楽美術などを軽視した結果、生徒が身につけるべき能力や学力が下がったと感じる」(9-21)。音楽担当から。「他教科のみなさんと観点ズレてるとは思いますが、音楽が減らされているが式典ではレベル維持が求められる。音楽こそ社会自立を促す教科だと思います」(9-25)。

4 期経験。外国語担当から。「実技教科の時数が減らされているのは非常に問題だと感じる。各教科担当がもつ時数にばらつきが出てきており、小規模校において定数上専門教員をおけない場合は週単位の時数が少ない教科担当者が複数の教科を担当する事態となっている」。「実技教科は生活に欠かせない教科であるにもかかわらずがしるにされているように感じるとともに、調理や図画など 2 時間続きで余裕をとりくめていた作業もできなくなっている」(9-37)。外国語担当から。「音楽や美術といった情操を育てる授業が減ったのは良くない」(9-43)。音楽担当から。「音楽の授業がへり、授業編成が学力向上が中心になってきており、求める生徒の姿が学力のみで評価されてきているように感じる」(9-51)。数学担当から。「時数合わせに、音楽や美術の先生を優先的に担任にあてる様子が見られた」(9-57)。

3期経験。外国語担当から。「英語は週 3 回から 4 回に増え、かつ、オールイングリッシュでやるなどの劇的な変化があった。その変化についていくのが大変な生徒もいる」(9-74)。

2 期経験。技術・家庭担当から。「3 年生の技術家庭が少なすぎる」(9-80)。美術担当から。「美術教員としては、もっと授業をしたい。中1で45、2、3で35は、やはり少なすぎると個人的には考える」(9-86)。英語担当から。

「英語を担当しているが、英語だけ 3 年間週 4 であり続けるのはどうなのかと思う。小学校からしているんだし、減らしても良いのでは」(9-88)。音楽担当から。「芸術教科の削減が著しい。心が豊かでなくなっていくほどに芸術教科は削減されがちだと考える」(9-90)。

部活への言及

4期経験。「16 時頃から部活動となるので、大人も子どもも時間に追われていると思います。18 時頃にはみんな帰宅して、自分の時間を持つことも大切だと思うのですが」(9-47)。「平日に詰め込んでも、土曜が休みなので、ゆとりを作ったつもりかもしれないが、その分、土日の部活が忙しくなった。大会も増えた。生徒も教師も休めないまま月曜を迎えている。」(9-50)。「一日に5時間だと、部活動も勤務時間内に終わらせることができたが、現状は毎日6時間授業なので、部活動の時間確保のために大会前は部活動の時間を延長している(勤務時間以外のサービス残業)。日常的に時間外労働を数時間ずつしており、`ブラック、だと感じる」(9-53)。

VI. 自由記述一覧

1. 標準時数を下回る時数編成を恐れる動き 25件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
1	○	○	○	○	○	標準時数を超える時数は不要だと文科省等から通知があるにもかかわらず各市町村教委は予備時数を30～60時間取るようにと各校に指示している実態があります。そしてそれが教育課程に反映されるため実質標準時数を超えて授業せねばなりません。
2	○	○	○	○	○	自然災害や感染症等があって、休校 になったら、困るなどを管理職が、言うようになった。その時は、その時と思うのですが。
3	○	○	○	○	○	ある時期、5時間だったことはなかったと思います。
4	○	○	○	○	○	授業時数を確保することが目的となっており、その根拠が無いように感じる。時数より意欲や環境整備が大切だと思う。
5	○	○	○	○	○	標準時数そのものの変遷より、その運用方法の方が影響が大きい。1990あたりは、標準時数の9割くらいの実時数くらいで運用しても何も問題なかった。それが2010くらいからの標準時数を実時数で必ず確保せよという文科省の方針のせいで、学校の活動が窮屈になった。確保のために行事はどんどん減り、放課後の活動の時間も取れなくなった。学校生活にゆとりがなくなり、結果として教員の多忙化が進んだ。その解消のために、更に行事が削減されるという悪循環である。標準時数を確実に確保するなら、980でも多いと感じる。学級閉鎖に備えて標準+20くらいで計画しなくてはならない(コロナでだいぶゆるくなったが)。
6	○	○	○	○	○	昔に比べると、管理職や教育委員会による授業時数のチェックが厳しくなったように感じます。
7	○	○	○	○	○	学校5日制に伴い、土曜日午前中の授業が平日に回ってきた分忙しくなり、6時間授業の日も増えて、教職員、生徒共々、負担が増したと思います。A県の場合は授業時数ががんじがらめの状況が長らく続いている。以前は週案の作成もなく、指導要領の各教科時数の管理も緩く、出張や年休などの時、時間割担当も授業時数に縛られることなくおおらかに時間割が組んでいた時代もあった。今は、全ての教科で授業時数100パーセントが求められている。台風などの休校になった場合も、授業時数を達成するために穴埋め授業をするのが必然となっている。当時の学校の雰囲気はおおらかで、のびのびとして、生徒と談笑し楽しく学校生活をしていたと思います。昔が懐かしいです。総合的な学習の時間や、職場体験学習が入ってきて、より忙しくなり余裕もなくなった。
8	○	○	○	○	○	数年前から標準時数を満たしているかどうかのチェックが厳しくなったと感じる。以前は定期テストの前日、2学期初めは午前中授業、始業式や終業式などの日は2～3時間で下校であったが、今はただ授業時間を稼ぐためにほとんど内容のない授業を6時間している。特に3年生はそもそも卒業式が終業式前にあり、修学旅行があり、進路個人懇談があり、入試があるにも関わらず、1・2年生と同じ時間数が求められている。子どもや教職員を追い詰めている感じがする。せめて年間900時間程度にして、しっかりと教材研究をする時間をとり、内容の濃い授業をする必要がある。少子化が進む中、子どもが幸せでないと、日本に未来はないと思う。教科授業より大切な人権教育、話し合いの時間をとり、民主主義を感じるができる学校にしたい。
9	○	○	○	○	○	以前から標準時間以上授業をしていたように思う。

10	○	○	○	○	○	何かにつけて、標準時数をうわまらないと、といわれる。中間考査を1日でやって(しかも週末)採点する時間がない。授業の準備をする時間もない。会議をする時間もない。時間外に働かないと、仕事が、終わらない。指導要領の量を減らして、標準時数を減らすか、標準時数をなくして欲しい。
11		○	○	○	○	標準時数をクリアすることは必須なのですが、それを必ず達成するために予備時数を必要以上に取っている現状がある。標準時数をクリアしていても予備時数が削除・削減されることはなく教職員の負担だけが増したように感じる。
12		○	○	○	○	行事や臨時休校などがあっても、何としてでも時数のクリアが必須になり、時間割に足りない教科が増えて大変な思いをした。
13		○	○	○	○	時間割の縛りがキツくなった。
14		○	○	○	○	余剰時数を過剰にとり、しかも最後までそれを消費しないことも増えていて、問題だと思えます。
15		○	○	○	○	時間数の整理はアンケートに示されているとおりですが、昔より時間数のカウントが厳密になってきています。以前は学校の時間数というのは、総授業時数が規定をクリアしていて、週の基本の時間割が組まれていれば、行事のための特別な時間割が組まれたために一部の教科の時数が若干満たない場合や、学校として調査報告をする代表クラス以外の時数が教科によって若干足りないような場合も許容されていました。しかし、今はかなり厳密に時数をあげるように現場がプレッシャーを受けています。教員不足で非常勤講師が増え、その教員の勤務時間帯にあわせて時間割を組まないといけない制約も増えているので、祝日や行事で非常勤講師の勤務日の授業が抜けるたびに時間割が変わるので、もはや毎日時間割が変わってしまい、毎日が特別時間割と化しているなど心理的な負荷も高まっています。授業時間数は、多くても週28コマ以下で済ませるようにすべきだと思います。それでも現在の時数カウントの厳密さを考慮すれば多いくらいです。
16			○	○	○	標準時数のカウントが厳しくなるにつれ、本来子どもの学びの様子に注目すべきなのに、数字をクリアすることが至上命題になったように思われる。特に2020年度の新型コロナウイルス感染拡大に伴う、学校の臨時休校があったときは、8月に6時間授業を頻繁におこなうなどの対応をしたときには、本当に大切なことは何か、分からなくなった。その時の生徒はもちろん、教師も疲れ切っていたように思う。
17			○	○	○	授業時間を確保しようとしていることが印象的でした。
18			○	○	○	標準時数に達しなくてもいいはずなのに、教務の先生が何とかやりくりして、毎年、標準時数をこえて教えている。そのせいで、教務の先生も私たち授業者も子どもたちも、疲弊している。
19			○	○	○	まずは、教員自身が標準時数のあり方や法的根拠を知らないで仕事をしている。そこが問題。やる方がいいことだという間違っただたり前が横行している。
20				○	○	時数は足りているにも関わらず、定期考査後に無理やり授業を行うなど現場の教員が疲弊していることを全くわかっていない現状が多々ある。
21				○	○	授業時数確保のために、夏休み削減や終業式の日も午前中授業を実施している学校や自治体があります。しかし、年度末の報告では標準時数を超えていることがほとんどです。実際の時数を見て、標準時数のあり方を考えてもらえたらと感じています。
22				○	○	標準時数を超えて、教育課程が設定されている。臨時休校があっても、標準時数をクリアしなければならないのは、現場は大変。
23				○	○	年度当初標準の授業数が出るが、特支など1時間に3学年分の授業の場合(複式で授業)、時間割によってズレることもあるため、総数が増える。そもそも学年が違うのだから、授業準備が3倍かかる。そもそも常に多めに実施するため、当初の計画時数より、常に増える。
24				○	○	時数が足りないため、定期テストの後に授業をしたり、長期休みを短くしたりということがあった。授業時数の精選や削減ができると、今後教員は働きやすくなり、授業の準備に時間を費やせるのではないかと思います。

25					○ 中学校においては、卒業の関係で、3年生の授業時数を100%達成するために、中1、中2についても大幅にコマ数を超過している現状がある。3年間トータルなど、柔軟なカリキュラムマネジメントはできないのだろうか。
----	--	--	--	--	--

2. 標準時数の量 46件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
1	○	○	○	○	○	標準時数を増やすことが生徒の学習内容を充実させることと一致していない。
2	○	○	○	○	○	授業時数が増えすぎて、子どもたちも余裕がなくなって創意工夫のない学習塾と変わらない形骸的な授業が当たり前だと思えるようになってきている。学習指導要領が目指すものとは、結果的に真逆となる実態ではないか。
3	○	○	○	○	○	時間数を増やしたらいいというものかどうか疑問に思いながら仕事しています。
4	○	○	○	○	○	学習内容を精選し、標準時数を減らしてほしいです。午前4コマ・午後2コマでは昼食が13時頃になったり部活動の開始時刻が遅くなったりと、よいことはありません。
5		○	○	○	○	毎日午後の授業は生徒たちも疲れが溜まっている。
6		○	○	○	○	現在は多すぎる。特に中3は卒業式が早く、厳しすぎる。
7		○	○	○	○	毎日がきつい！余裕がない。生徒も教師も！部活の発散もない！
8		○	○	○	○	学習指導要領の教科の内容が増え、標準時数も増えることで、生徒も教員もゆとりがなくなったように感じている。勤務時間ギリギリまで生徒が学校にいることで、授業の準備や教職員での会議ができず、時間外の仕事になっている。
9		○	○	○	○	余裕が大事。窮屈すぎます。
10			○	○	○	根本的に、年間1015時数は多いのではないか。教師の空き時間がない。
11			○	○	○	生徒、教員すべての人が余裕がない生活を送るようになった。やり過ぎです。
12			○	○	○	ゆとりがない。
13			○	○	○	毎日6時間日課で疲弊している。標準時数は多すぎる。会議でも生徒指導でも、混み合っていて、何かをやらうとすると昼休みになることが増えた。
14			○	○	○	生徒も教師もゆとりなく日々の生活を送っているように思う。
15			○	○	○	時数が直接的に教員ならびに子どもたちの負担の増加に繋がっています。増えたものを工夫でどうにかするために、また負担が増える。悪循環でしかないです。
16			○	○	○	時数は多くても良いと思うが、担当する教員が不足して、持ち時間数が大きくなっている。標準時数が達成できるように、教員数の確保をお願いしたい。
17			○	○	○	16時前まで生徒がいて、1時間もしないうちに定時退勤というのは現実的に不可能かと思う。
18			○	○	○	標準時数の多さが学校全体からさまざまな余裕を奪っているのが現状だと思っています。
19			○	○	○	できるだけ少ない時間数で効率よく授業をすることが望ましいと考えます。
20			○	○	○	子どもたちの自由な意見を尊重できる場面が少なくなった。
21			○	○	○	年間を通して実施しなければならぬ授業数が多いように感じています。このことは生徒も教員も感じているように思います。時間数も大切ですが、疲労感のある6時間よりも、中身の濃い4時間、5時間の方が学びにつながると思います。
22			○	○	○	5時間の日があればいいなあっておもいます
23			○	○	○	日本は、生徒を長時間学校に引き留めすぎていて、生徒がやりたいことに時間を使えない。諸外国と比べても、日本は学校にいろいろなことを詰め込み過ぎだと感じている。大人の働き方改革とともに、生徒の学校での活動時間の見直しを行ってはどうかと思う。

24			○	○	○	一日の学校生活が長くなり生徒も教員も息をつく暇がなくなってきているように感じる。授業時間の中に会議を入れるなどをし、会議が開きやすくなってはいるが、授業数の多い教科は多忙を極めるようになってしまっている。
25			○	○	○	運用の方法について、文科省から指針がでていますが、各学校は標準授業時数に到達するために必死です。20年から明らかに、行事の数が減り、生徒は学校では常に教科などの授業を行っています。7時間目を実施する日もあります。45分授業を実施する話もありますが、45分授業では、その時間で身につけさせたい内容に不十分なところが出てきます。1015時間という標準授業時数は、放課後にしなければならないことも含めて考えると、今の生徒の実態と教師の働き方と合っていません。
26				○	○	生徒も習い事などで放課後の時間を忙しくしている者も多い。現在は「しんどい」が先に立って通常授業に身が入らない生徒も増えている。時間にゆとりを持たせ、生徒自ら学んでみようと思えるゆとりが必要だと感じる。
27				○	○	量が増えると質が下がるのは当然かと思います。
28				○	○	多すぎる。
29				○	○	もう少し少なくてもいいです。
30				○	○	教員も子どもたちも疲れきっている。
31				○	○	6時間授業を毎日、生徒・教職員共に苦しい。放課後の時間的余裕を生むためには、授業時数の削減が絶対的に必要だと思う。
32				○	○	子供たちも授業が多すぎててんてこ舞いという感じで詰め込み感がある。
33				○	○	ただただ多いと感じる。詰め込みすぎと感じる。
34				○	○	子どもの望む姿が多様化していく中で、授業だけでなく、放課後の習い事や活動をより充実させていくことが必要だと感じる。今の標準時数は教員、生徒共に負担の方が大きいような気がする。指導内容を精選しつつ標準時数を減らす方向が望ましいと感じます。
35				○	○	小学校低学年からはほぼ毎日6限授業があるのは、子どもの負担でしかない。午後の集中力は皆無に等しくただ時間をやり過ごす内容のない授業になっているのが現実である。小学校も中学校も放課後に教師が教材研究に時間を使える工夫が必要である。
36				○	○	教職員の働き方とみとときには、授業数は多いと思う。しかし、生徒の学力保障とすると、少ないと思う。
37				○	○	夏休みを短縮するなら、その分週時数を見直して、子どもにとっても教職員にとっても余裕のある標準時数にしましょう。家庭によっては塾へ行くし、必要な子どもには補充学習の時間を設けられる。
38				○	○	標準時数が現状でも構わないが、現在の教職員定数で持続可能だとは全く感じられない。このままでは教育現場は崩壊します。
39				○	○	時数が増えるのはいいです。教師の持ちコマ数が増えることが問題です。いろんなことを学校に詰め込みすぎて、授業以外の仕事が多いことが一番問題なんです。授業は我々の仕事上一番がんばるところです
40				○	○	時数を増やすことに関しても減らすことに関しても反対です。ですが、主体的な学びを実践していくには、社会の時数が少ないです。
41				○	○	心の余裕が子どもにも大人にも必要。時間ではなく人も、教育も質が大切だと感じます。
42					○	標準時数はこの程度なのだろうとは思いますが、少ない教職員でそれを回すのが教職員の負担感につながっている。
43					○	時数が多いことで、子どもが集中できる時間を超えて授業を行っていると感じることがある。
44					○	6時間の標準時数しか経験ありませんが、今まで通りで良いと思います。
45	○	○	○	○		1日5時間が限度。
46	○	○			○	少なくすべき。

3. 内容量と時数の関係 53件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
1	○	○	○	○	○	多すぎ。学習内容多すぎ。
2	○	○	○	○	○	授業時数が多くて生徒も先生も負担になっている。授業内容を精選してほしい。小中高の内容をダブることがないようにして、特に中学校の授業内容を減らして欲しいと思う。
3	○	○	○	○	○	様々な問題が増加している中、標準時間数を維持して行うのは厳しい。
4	○	○	○	○	○	学校の現状から、年間の授業時間数を計算して、その時間内で余裕をもって取り組める学習内容にするべきだと思う。
5	○	○	○	○	○	教育課程の見直し、指導内容の検討をしないと標準時数の見直しにならないと思う。
6	○	○	○	○	○	全ての子どもたちに充実した学習権を保障するためには学習指導要領を削減すべきだと思う。
7	○	○	○	○	○	標準時数が決められたら学校現場は、その時数で時間割を設定します。今、時数を減らしてもよいということが話題にあがりますが、指導要領の内容を減らさない限り、時数減は現場は大変になる。指導要領の学習内容は入試につながるため。結局、その内容をこなすのに時間(授業)が必要である。
8	○	○	○	○	○	標準時数が減少しているのに指導内容は減じられていない。むしろ増加しているように感じます。年度内に教科書の内容を終えることができない場合は、地教委から強い指導を受けることとなります。また、地域の学習塾から「〇〇中学校の〇〇先生は、年度内に教科書を終えていない」とバッシングされます。丁寧に指導しようとするほど学習進度が遅れ、それが大きなプレッシャーになります。問題の根本は、学習指導要領の指導内容が学問的に精選されていないことにあり、「これも教えよ」、「あれも教えよ」と詰め込みになっていることにあると思います。
9	○	○	○	○	○	授業内容を厳選してほしい。中学校だけでは無理なので、小中高での検討が必要だと思う。
10	○	○	○	○	○	教科書の内容が減らないと子どもに考えさせ、失敗を取り戻す時間が取れない。
11	○	○	○	○	○	必要感で構成した内容が、子どもたちのキャパシティに合わせて構成されていない。
12	○	○	○	○	○	標準時数さえもクリアできない学級がでるほど時数に偏りがあった。少なくとも楽なようでも、授業自体は苦しくなる印象がある。
13	○	○	○	○	○	教科書の学習内容が多すぎる。
14		○	○	○	○	時数もそうですが学習内容も増加、難易度も高くなっていると感じます。この学習内容、難易度なら、今の時数でも足りないくらいです。
15		○	○	○	○	国語に関して言えば、中3で学習の必要性に気づいても、この時数だと家庭での学習ケアのできない生徒は、追いつけないシステムになっている。
16		○	○	○	○	設定された時数に見合った教科書の内容量にしてほしい。数学は、探究心ある授業も必要なのに、教科書の内容を終わらせることに必死です。数学が好きになる生徒を増やせるような授業をもっとできる時間的余裕がほしい。
17		○	○	○	○	現在、時数と学習内容の量が合っておらず、授業に余裕がない。選択などの自由になる時間がほしい。
18		○	○	○	○	標準時数だけでなく、学習指導要領の改訂に伴う指導内容の増加が、子どもにも教員にも負担となっている。子どもや保護者と向き合う時間が奪われている。
19			○	○	○	明らかに多いです。ICTの導入ややるが増えているため余裕を持って授業に取り組みません。教科書を終わらせるのに手一杯です。

20			○	○	○	学習指導要領を見直し、内容を減らして、標準時数を減らす。
21			○	○	○	時間数が多すぎる上に内容も多いので、日々の学習に余裕が全くない。午前中に各教科の授業、午後は探求的な学習が自由にできる時間ににするくらいの余裕が欲しい。
22			○	○	○	時数にあった教育内容にしてほしい。習得させる内容が多すぎる
23			○	○	○	ぎちぎちすぎる。標準で決められまくっていると、創意工夫が教師も生徒もしようがない。そんなもんだと、麻痺する。
24			○	○	○	増えている時間設定の時にこの職に就いたのでそこが基準になってしまっている。あの激務を若手だから耐えろといわれていたので生徒も今の形が普通なのだろうと思う。学習指導要領が示す学習内容、求められる授業の流れを考えると生徒の基本学力の要求度合いが高すぎるので今の時数でも足りない気がする。
25			○	○	○	内容を厳選する必要があります。
26			○	○	○	時数も大切だが教える内容も精査が必要
27			○	○	○	学習内容を減らし、時数を削減すべきだと思います。現状、教材研究する時間がなかなか持てません。
28			○	○	○	時間が増えたというより、時間がそのままなのに、やらなければいけないことが異常に増えている気がする。
29			○	○	○	標準時数と指導内容のバランスが悪く、標準時数内で終わらせるのが大変。指導に軽重をつけながら指導することになっているが、教員の裁量に委ねるのではなく、もう少し指導内容を吟味してもらったほうが良い。また、1年間の標準時数内で、授業時間数を設定しているところも、辛い。以前のように余裕を持った授業時間数の方が、休みやすい（本人や家族の体調のことなどで）。今の、ギリギリの時間数設定では、休んだときの内容を限られた時間数で取り返すのが大変です。
30			○	○	○	時間が足りない。
31			○	○	○	学習指導要領の内容を精選してほしい。文科省からおりるものが多く、足し算ばかりです。
32				○	○	学習すべき内容が多く、時数内で終わるかハラハラしながら授業をするときがあります。かと言ってこれ以上時数を増やすべきだとは思いません。子どもたちの意欲や関心に悪影響を与えと思うからです。なんでもかんでもやれば良いという考え方はもう違うと思っています。
33				○	○	学習内容が増加傾向なのは、たしかに生徒・教員の負担増につながっていると感じる
34				○	○	標準時数よりも、教える内容が増えすぎたことによる負担が多くなっていると思います。
35				○	○	子どもの学力をつけるのならば、授業内容も時間もゆとりがないと身につかない。教員も個別対応をしたいがゆとりがない。
36				○	○	履修内容が増えたが、以前と同じカリキュラムの枠組みで取り組んでいるので子どもも教員も疲弊し、意味のある活動にすることができないところがあるように思う。余裕がないと伸びるものも伸びない。
37				○	○	授業内容が時間数に見合っていればいいのだが、時間に対して内容が生徒の負担になっているのであれば問題。どのレベルの生徒を平均に考えているのかなど明確にする必要がある。
38				○	○	そもそも標準時数と指導内容のバランスが取れておらず、指導内容のある程度の習得をめざして学習をすすめると標準時数でもとてもおさまりません。結果としてこなすだけの授業が増えていると感じます。標準時数の見直しはもちろんです、それに見合う学習内容そのものの見直しが必要だと思います。
39				○	○	授業数、指導内容が多い
40				○	○	標準時数も多いが、それに対して履修しなければならない内容はもっと多く、現場の教員の準備は多忙を極め、生徒の学習や生活に対する余裕もかなりなくなっていると実感している。

41				○	○	旧来の一斉授業形式の場合時数が足りないなどありましたが、生徒の主体的な授業形式の場合授業時数や教育内容が多すぎるため、生徒の活動に自由度をもたせることができなくなっている。
42				○	○	とにかくやるが多すぎる。何も減らさずに増やし続けた結果。このままでは、崩壊する。
43				○	○	単に時数の増加だけでなく、扱う内容の幅が広がり、また複雑化している。コンプライアンスの関係で、なんとなくやっていたことも文書化や報告が必要となり、教科指導以外のことに時間がかかるようになった。
44				○	○	教科書の内容を終わらせるのに手一杯なため、時数が足りないと思う一方で、時数がおおいたため生徒と関わる時間は足りないと感じている。現場はやるが多すぎるため、根本的なテコ入れが必要だと感じている。
45				○	○	標準時数の増加以上に学習内容が増えていると思う。この質問に体感のみで答えると標準時数の問題なのか、学習内容が標準時数以上に増加したことが問題なのかが見にくいと思う。
46				○	○	学習内容が多すぎる。時間だけ減らしても意味がない。時間を減らしてほしいがまずは1年間で学習する内容を厳選してほしい。
47				○	○	標準時数は教えるべき内容によって決まるものではないでしょうか。理科の中で求められる内容に対して、時数はぎりぎりです。
48				○	○	標準時数を減らすために、教える内容も減らしていかないと、詰め込みになりすぎて子どもも教師も大変だと思います。
49				○		社会科の標準時数は、一度減って戻っていない（理科は理数系を重視するからか以前に戻っている）。内容が減らないため、教科書を終わらせるのが大変。
50				○		時数をどうするかよりも、教科の内容量をどうするかを議論すべきだと思う。
51				○		現行の標準時数でしか働いたことがありませんが、それでもなお年間の学習内容がギリギリです。さらに年間時数を増やすという話も噂で聞きますが、働き方改革と真逆の方向に進んでいると思います。学習内容を見直し、減らしてもよいのではないかと考えています。
52				○		教育課程を変えない限り、標準時数は減らせない、減らされると困る。
53				○		子どもと教員の負担を考慮する学習指導要領の改訂が必要。学習内容を精査しないと標準授業時数を減らすだけでは負担がさらに増えることにもなりかねない。

4. 標準時数の中に35で割り切れないものがあること 9件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
1	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・35週で割れない1年生の音楽、美術の45時間、総合的な学習の時間の50時間は、週の時間割が年間を通じて1つのパターンで実施できないため、学校裁量に任せられているとはいえ、とてもやりづらくなっている現状がある。 ・市町村が定める「休業日」の上限との兼ね合いで、夏の熱中症リスクの高い時期や冬の降雪期（日照時間が短い）に平日5時間設定にする等、長期休業期間や週の時間割りを柔軟に対応できない。 ・週当たり平均5時間は、時数を削減しすぎると思うので、中学校も45分授業を基本とすることで、放課後等のゆとりが生まれる感じがします。
2	○	○	○	○	○	昔のように決まった時間割ができれば、時間割調整係が要らなくなる。35の倍数でないとい面倒である
3	○	○	○	○	○	年間を通じて一つの時間割で行えない状態は、負担を増やしている。時間割を複数回作成しなければならないことは勿論、今週は美術なのか音楽なのか確認したり、等々、日々の小さな手間の積み重ねは、小さくない負担になっている。
4	○	○	○	○	○	技家や美術などの教科がやりづらい。毎日が慌ただしい。
5			○	○	○	音楽は1年が週1.5時間なので、対話的で深い学び、協働的な学びをするには、時間が足りない。行事(合唱コンクールや卒業式など)のための教育課程外の合唱指導を授業中に行わなければ学校行事が運営できず、それが余計に授業時数を圧迫している。
6			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・標準時数が増えたことでかなり多忙化もすすんだ。 ・1年生の音楽や美術の時数が複雑。コマを組むのも大変だと思う。35時間と合わない。 ・標準時数を減らすことが働き方改革につながるのに減らない。勤務時間が長すぎる。 ・国からのビルド&ビルドで現場は何も減っていない。 ・自分が採用された頃の昔と違い、今は職場の年齢層が20代の若手職員増、中堅ベテラン層不足でかなり現場は大変である。若手は頑張っているが余裕がない。 ・特に若手の先生は、空き時間がないと慌ただしくなり、結果授業のスキルも上がらない。頑張るほど放課後の退勤時間は遅くなっている。
7				○	○	1年生の音楽美術において、45コマという数字が信じられない。
8				○	○	美術・音楽が毎週ではないので時間割がややこしい。作成も大変そう。
9	○	○	○	○		美術・音楽の授業は週で不規則になり、やりにくかった。クラス別の進度にも影響があった。

5. 特別活動の標準時数が35しかないこと 9件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
1	○	○	○	○	○	放課後活動や委員会活動の出来る時間の確保が難しいので、教師との関係や、生徒同士による人間形成が希薄になる。
2		○	○	○	○	小さな行事はどんどん増えているが、総合学習としては扱いにくい。学校独自の行事などに当てられる学校裁量の時間があるとよいと思う。教科についても実技を伴う教科はどんどん減り、体験的な学習が軽視されているように思う。教科の時数も弾力的に決められるとよいのではないかと思う。
3		○	○	○	○	全体的に減らす。教科の授業数を削減して、特別活動の時数を増加する。
4			○	○	○	詰め込んだ学習をすることで多様性に対応できなくなっています。標準時数を減らすことで、多様な意見や場面への対応がやりやすくなると思います。また、行事に利用できる時間も確保できるため、学校が組織として活動することが出来ると思います。
5			○	○	○	標準時間が多くなり、教員も生徒も余裕がなくなった。行事に当てる時間も無くなり、生徒同士が協働したりぶつかったりしながら、心豊かに成長する場面はなくなってきた。
6				○	○	時間の関係で色々な行事に向けての取り組みが形だけになっているのは、標準時数の関係だと思う
7				○	○	毎週、委員会活動の時間を設けないなど必要に応じて設定をしていました。
8				○	○	モジュールを許さない風潮がある。面倒ではあるものの、導入できればあらゆる問題が解決すると思う。また、標準時数は越えなければならないことになっている。標準時数に行事は含まれておらず、行事が年間70時間以上になることが普通である。
9					○	教科の学習も大切だと思うけど、詰め込みすぎて生徒も教員も疲弊している。中学校は教科担任制のため、クラスの子もたちと関わる時間がとても少ない。もっとクラスレクをするなどの余裕が欲しい。朝の時間もバタバタで子どもたちに事務連絡をするだけになってしまう。クラスみんなでゆっくり過ごす時間があると仲間作りや担任とゆっくり話す時間、生徒同士の心の余裕も生まれると思う。

6. 時数編成の工夫 34件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
1	○	○	○	○	○	50分を45分に短縮して、教育相談を行った。
2	○	○	○	○	○	余剰時数の削減が進んでいることはよいが、まだまだ、現場は余裕がない。
3	○	○	○	○	○	1時間を45分授業にしている学校や朝練をしない学校がある。授業何時間あってもいい。授業準備に割く時間が欲しい。
4	○	○	○	○	○	冷房が入ったので、夏休みをなくして、毎日5時間にすれば、部活をしても5時には帰れる。
5	○	○	○	○	○	中体連の大きな大会前の10日間、5時間授業にしている。この期間、15時以降に職員室でこなせる仕事(教材研究・校務分掌関係)が増えて助かっている。
6	○	○	○	○	○	学校行事の精選をせざるを得ない状況になった
7	○	○	○	○	○	同じ問題意識をもっていました。夏休みを減らして一日5時間の日を増やしたところ、子どもにも教職員にもゆとりが生まれました。一日の授業時数は5時間が限度です。6時間目は集中力が続かないため、時間割作成の際にはどの教科も「6時間目は入れないで」と要望が出ます。
8		○	○	○	○	45分対応して放課後の時間を少し確保している。
9		○	○	○	○	時間割の作り方が非常に厄介。いつも時数に追われている。行事を削り、集会や学活を抱き合わせにして何とかやりくりしていて、結局、子どものためになっていない。
10		○	○	○	○	今年度前期、本校は水曜日のみ6時間、あとの4日は5時間。後期は5日とも6時間。放課後の部活を5時までにするためです。
11		○	○	○	○	年々、過密ダイヤになり、子どもも教職員も疲弊している。そんな中でも、子どもたちの自治的諸活動の時間を確保するために、5時間授業の日を2回取れる週を生み出すよう、次年度の計画作成に時間と組合員の努力を費やした。
12			○	○	○	45分授業などで対応していたのは、苦肉の策として効果的だった。子どもたちにも必要な措置だった。
13			○	○	○	このままの時数でいかなければいけないなら、長期休業日を半分ぐらい減らして、毎日の授業時間を5時間にするなど平日にゆとりを持って生活したい(個人的な意見ですが)。
14			○	○	○	土曜授業も希望制で取り入れるの有。
15			○	○	○	転勤した時、行事などをどうカウントするかによって必要時数が変わることを実感した。
16			○	○	○	勤務校では会議がある日は45分授業にしたり、掃除をする日は月、水、金のみにしたり、水曜日は5時間授業になっています。教員として働くようになってからがこうだったため、変化というものはあまり感じないのですが、家族をもったりしてからは授業準備の時間捻出の難しさを感じています。
17			○	○	○	標準授業時数は、学校に編成権があると広く認識されたことは大きかった。昨年度、若手教員が勉強して声をあげてくれた。3学期に授業時間の見直しを行い、月曜日と木曜日は5時間目になった。
18			○	○	○	現在は、下校時刻は早まり、勤務時間内は多忙を極めてます。工夫が必要です。例えば、数学の加配があり、全クラスITを実施しているのであれば、2C3Tを実施するなどして、持ち時間数を減らせば、教員のに余裕が持てると思います。
19			○	○	○	学校での工夫だけでは、限界がある。標準時数の見直しや部活動の地域移行を国が積極的に関わって、早期実現して欲しい。
20			○	○	○	時数を減らすために長期休みや休日を減らすという考え方には反対です。
21			○	○	○	休み時間を5分にする。

22			○	○	○	週の中での曜日ごとの個性というかキャラクターというか、それを学校の中で明確にする工夫がほしい。
23			○	○	○	成績処理の時期に、意図的に5限の日を増やした
24			○	○	○	学習や行事などやることは多いため、時間に追われてるように感じる。時間に余裕があると心にも余裕がでてくると思う。45分授業になれば、時間的な余裕が生まれるのではと考えている。
25			○	○	○	モジュール。1教科のコマを複数で対応（数学の4コマを2人で3と1コマに分けた）。
26				○	○	1015時間をできるだけ超えないようにという取り組みをただで若手の余裕が生まれた。しかし、年配の方こそ、念の為ということで時数を確保したがる傾向にある。50分授業を前提としているが、45分授業として設定した場合、90%分を消化したこととし、残り10%の時間をどこかで確保しなければならないルールがある。これは自治体によるが、このルールの有無で相当負担の増減があるため、45分授業でも100%消化したことになってほしいと願う。教え込む前提となっているカリキュラムだなと感じる。内容を終えることが最優先で、定着や繰り返しの演習の時間は確保できない。時間割を作る側として、年の中で複数の時間割を扱うのは大変。3年間通して単位が確保でき、かつ年内は単一の時間割で済むような取り扱いになってほしい。
27				○	○	モジュールを有効利用して、生徒も教員も余裕を持ってライフワークバランスを考えられる生活にしていきたい。
28				○	○	「今は芸能教科は学年を割って持つてはいけない」「昔は5教科も免許外が担当しても可能だったが今は不可」などのルールがあり、皆で分担して時数負担に偏りがないようにすることができないのも一因だと思います。
29				○	○	2016年度～の勤務なので、変遷についてはよくわかりませんが、業務改善は進んでいるように思います。
30				○	○	学校によっては、上手に年間計画をねり、午前で帰る日を作っている。
31				○	○	生徒たちは、日々授業、部活、塾、習い事と忙しく過ごしていました。また、教職員も授業時数の多さで、空き時間も少なくはたらいっていました。その中で、何とか工夫をして5時間授業の日を週2日設定し、生徒・教職員ともに肩の力を抜ける時間を作り出していました。
32				○	○	モジュールを取り入れて1日10分×5日で1単位時間を生み出すことや、夏休みを短くして授業時間を増やすなどすることが増えた。
33				○	○	各校の柔軟さが必要。
34				○	○	平日の授業を4コマ減らして、土曜日(週2程度)に授業を行う。または、夏休みの期間を少し減らす。

7. 要望や提案 73件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
1	○	○	○	○	○	中学校の授業を50分ではなく、全て45分にする。学活、道徳、総合の時間の合計時間数を減らし、学校裁量でバランスよく授業を行う。
2	○	○	○	○	○	時数は少なくとも980時間以下にすべき
3	○	○	○	○	○	教科時数を増やして、充実させたい。
4	○	○	○	○	○	土曜日復活希望。
5	○	○	○	○	○	人を増やさないのなら時数減らすしかないのに。だから教職からみんな離れていく。理想ばかり追うな。
6	○	○	○	○	○	標準時数や1時間あたりの分数（50分）の見直しは、働き方改革に直結する内容なので、今より削減の方向でぜひ改善してほしい。
7	○	○	○	○	○	週5日。毎日5時間ぐらいの授業が望ましいと感じる。
8	○	○	○	○	○	学校現場ではどうしようもない件です。各教科の授業時間を減らして、一日5時間にする。学習指導要領を改訂しなければなりません。[略]
9	○	○	○	○	○	大幅な削減が必要。
10	○	○	○	○	○	大切な学びは何かをもう一度考えることがある。
11	○	○	○	○	○	迂闊に新しい取り組みを増やさないでほしい。教科の力をつけることにもっと力を使いたい。
12	○	○	○	○	○	標準時数を減らし、各教科の指導内容も削減すべきだと思います。
13	○	○	○	○	○	ゆとり教育に戻す。
14	○	○	○	○	○	毎日6時間は教員も生徒もきついです。水曜日は5時間、それ以外は6時間がベストだと思います。
15		○	○	○	○	学習指導要領の内容を精選し、カリキュラム内容を減らし、9教科の時数そのものを減らす。そして総合的な学習の時間を増やし、生徒が主体的に学習課題に取り組む時数を増やすことが必要と考える アンケートの回答になっていなかったらすみません。
16		○	○	○	○	学校の実態を生かした形で時数を決めたらいい
17		○	○	○	○	週5日制になってから平日のゆとりがなくなったように感じています。午前中授業が1日5時間までであれば、ゆとりが生まれるのではないかと考えます。
18		○	○	○	○	減らせるなら減らして、子どもたちの自主的な活動を増やしたほうがいい。先生方の交流も増えると思う。
19		○	○	○	○	中教審がカリキュラムを削減しないとダメです。
20		○	○	○	○	抜本的に減らすことが必要だと思う。
21		○	○	○	○	1015時間授業したら学力が上がるということではない。多様な子どもの学びに向けて、ある程度のゆとりや時間のしぼりをなくすなどの工夫がある。
22		○	○	○	○	できれば、5時間授業の日が何日かあって余裕がある生活だったらと思います。
23		○	○	○	○	1日に6時間の授業をすることで、全くこころの余裕がなくなっていると感じる。時間割の変更で受け持ち授業が6分の5になるという日もある。授業の空き時間も少なく、放課後は部活動に忙殺され、休憩も取れない現状である。教材研究の時間が勤務時間内に確保されることもなく、時間外勤務が減らせない温床となっている。全体の標準時数を減らし、学習内容も精選し、ゆとりある勤務体制になるようになることを願う。過去には、ゆとり教育で猛批判を浴びてまた時数増加内容増加につながった経緯があるが、何とかならないものか。
24		○	○	○	○	午前授業、夏休みは短めでもよい。
25		○	○	○	○	思い切って45分授業にする。

26		○	○	○	○	50分を1時間とする授業の組み方が、現代的な探究的な学びには適していないと考えられる。追求の時間が少なく、浅い授業になる。大学のような90分単位とするか、教科の特性に応じ45分と90分の2パターンの1単位時間にするなど工夫が必要と考えられる。分散学習の理念はわかるが、細切れにしすぎてはその効果は得られないと考えられる。
27		○	○	○	○	教育課程を減らして、もう少しゆとりがあるとよい。子どもたちとゆっくり話せる時間がほしい。
28			○	○	○	課題探究、個別最適な学習がうたわれる時代、時数を目一杯詰めるのではなく、柔軟に設定し、生徒の主体性を伸ばすカリキュラムを設定できる幅があれば良いと感じる。空き時間があるということは、しっかり教材研究ができ、さらには事務仕事を行い定時に帰ることができる。教員が不足し、授業が目一杯詰まっていると、疲弊し充実した授業等が提供できない。また、生徒も授業がいっぱいあると余裕がなくなり、集中が持続しない。さらにはプラスアルファの学習に進もうという気力が失われる。
29			○	○	○	毎日5時間くらいがちょうどいいです。
30			○	○	○	週に2回5時間授業の実施。
31			○	○	○	時数を削減してほしい
32			○	○	○	子どもたちに余裕がなく、子ども同士の人間関係がギスギスしている。学校に行きたくない子どもも増えているという実感がある。教員の仕事内容がどんどん難しくなり、量も多過ぎるのははっきりしているので、詰め込み過ぎる今の状況は変えるべき。数字で測れない学力を伸ばすためにも1日平均時数は5.2位が適正だと思う。
33			○	○	○	悩ましいところではあるが授業時数に差があるのは仕方ない。どんな教科を担当しても指導にあたる準備、事後指導のための空き時間は絶対に必要だと思います。また、今の標準時数を維持するには教職員の確保が必須です。時数削減を視野に入れるなら指導内容の精選、削減は必須です。様々な学力差、特徴のある集団を育てるにはマンパワーが必須。また、時数削減により子どもたちが早く下校できるのはありがたいが、子どもたちを受け入れるのは家庭だけではいけないと思います。早帰りの子どもたちを受け入れる場所を自治体がつくり社会で子どもたちを育てる環境が必要だと思います。
34			○	○	○	減らしてほしい。
35			○	○	○	標準時数を超える場合もあるから、上限時数を示した方がよいと思います。
36			○	○	○	標準時数が少なくなることで、一部の教員は「空いた時間に何をすればよいかわからない」ということが起こると思っています。今の時数でゆとりがないことで、考えることをしてこなかった(できなかった)弊害かと思っています。子どもたちを中心に据えた日本の教育のあり方を常に考えられる、質の高い教員を生むためにも、標準時数の大幅減は必須だと考えます。
37			○	○	○	なんでもかんでも増やすのはやめるべき。
38			○	○	○	様々な問題を解決するために、平日5日、1日5時間授業に統一すればよい。指導法の工夫で学力は落ちない。
39			○	○	○	数学科で言えば、時数は増えたが統計分野の時数が増えただけ。統計分野は数学という学問とはほど遠く、時数を増やしてまで教える必要性を感じない。是正してほしい。
40			○	○	○	もっと余裕のある時数にすることで子どもたちも大人も学習の楽しさや学校生活のよさを感じることができると感じる。
41			○	○	○	現状、行事などが追加されると、毎日6時間授業を実施せざるを得ない現状があり、勤務時間中に授業準備や教材研究をする時間が全然確保できない。1日の授業を、毎日5時間にできるくらいの標準時数にしないと、勤務時間内に仕事を収めることは不可能である。授業準備、教材研究が勤務時間外にしかできず、各教員の個人の努力に丸投げされている現状を変えなければ、今後さらに教職員のなり手がなくなっていくと考えられる。
42			○	○	○	学力低下の回復が、時数増で解消できるとは思えないです。質の高い教授が必要だと思います。

43			○	○	○	コロナ禍に感染対策として、午前授業のみ(時数4)の期間があったが、そのときは生徒も教員も時間的な余裕を感じた。個人的には長期休業が減ってもいいので、日々の授業時数に余裕がほしい。もしくは、土曜授業の再導入。
44			○	○	○	時数もそうですが、時間も45分にすることで時間も確保できると考えます。とにかく生徒下校後から退勤時間までに時間の余裕がほしい。個別の指導、不登校対応、授業準備もできるため、時間が欲しいのが現状だと考えます。
45			○	○	○	長期休業をみじかくするなどして、週休3日を導入できると良いと思う。もしくは、週の授業数を25時間程度にすると良いと思う。
46			○	○	○	教科時数を戻してほしい
47			○	○	○	時代が要請している主体的な学びを実現するためには、子どもにも教職員にも、主体的に授業準備をする時間が必要だと思う。教育予算を拡充し、現行の賃金を維持しながら、業務量を半分にするくらいの決断をしなければ、子どもたちの未来はないと思う。問題を先送りにするのは、もうやめるべきだと思う。
48			○	○	○	学歴への意識に対して、社会全体で軽減するようなグランドデザイン、または、技術習得の選択を広げる
49			○	○	○	各年度ではなく、3年間を通して3000時間などとするべきである！
50				○	○	学力について学校に責任を偏らせる考え方を改め、標準時数を減らして家庭での時間を増やし、学習にしろ運動にしろ文化活動にしろ、本人の興味を育て自主活動の時間に充てた方がよい。子供たちは、図書館、美術館、博物館などに夏休みにしか行けない。動物園や水族館、スポーツ公園はレジャー施設と化しており、教養を育む機関として果たしていない。
51				○	○	短縮授業。
52				○	○	近年、部活動の地域クラブ移行の話が表面化しているが、部活動のことばかりに照準を定めるのではなく、授業時数にも目を向けた方が良く考える。例えば、その教科について「本当にその時間数が必要かどうか」を検討する必要があると思う。6時間目まで本当に必要か、もちろん毎日ではなくもう少し時間数を削っても良いのではないかと感じるのが正直なところである。
53				○	○	午前中に授業(週5日4時間で20時間分の授業)を学校は行うだけ。午後は課外活動や自主的な探求活動を行えるようにしたほうが、生徒の人間的な成長に効果があると感じている。未だに学力至上主義の様相が拭えない教育現場で、取り組みの本質を改善していくため、また、教員の働き方改革のためにも時数は大幅に減らすべき。
54				○	○	もっと時数を少なく。
55				○	○	最大でも1日5時間が限界だと思う。
56				○	○	週5日5時間、定期テスト無し、くらいが丁度よいです
57				○	○	ゆとりあるカリキュラム、勤務形態によってもっと余裕を持って過ごしたい。
58				○	○	1日5時間にして、放課後の時間のゆとりが必要だと思います。必要な学習の精査をした方がよいです。そして、6時間目の時間に週数回部活動の時間を設定し、勤務時間内に全てが終わる工夫が必要だと思います。
59				○	○	標準時数を減らしてほしい。
60				○	○	将来役に立つものを精査して、やるべき余った時間は、勉強ではなく、生徒同士、また大人も交えた交流を、そして、学校ではなく校外の活動をいれて、社会で生きる力を育むべき。
61				○	○	6時間(16時頃まで)授業があると定時に業務を終えることは不可能。給食になり、生徒が帰る時間が遅くなっている。必然的に自由に使える時間がない。また生徒も6時間目になると疲れており集中力に欠ける。毎日が5時間になって欲しい。
62				○	○	全体的に時数を減らすことが必要。学習指導要領の内容も減らさなければいけない。忙しすぎて生徒の対応も満足にできず、仕事を辞めたいと思いつつ続けている人も多くいると感じます。
63				○	○	月～木曜日まで45分の5時間、金曜は4時間授業。

64				○	○	授業時間が多少長くても、毎日5時間、6時間の日は週に一、二回くらいがいいのでは？
65				○	○	ゆとりのある時数の持ち方を実践していただきたいです。
66				○	○	積極的に半日授業を取り入れてほしい。
67					○	標準時数を減らすべきである。
68					○	授業など子どもたちの成長に直接関係する部分は確保して、講演会などの時間をなるべく減らすなどしていくと、定められた標準時数での教育がより精選されたものになっていくと考えます。
69					○	今子供達にとって必要なことは何か、はっきりと示し、今ままでにやってきた慣習の目的、効果がないものはさっさとやめるべき。
70					○	1年間、45分時程にしたら良いと思います。
71		○	○	○		学習指導要領の内容を減らし、授業時数を減らすべきである。
72			○	○		詰め込みをやめて、ゆとりある標準時数の中で、自分のやりたいことをやる、伸ばせる時間をつくり出してほしい。
73				○		本質の見直しをお願いします。

8. 不登校との関係 10件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
1	○	○	○	○	○	時数が少ないことは、我々にとっては授業準備の確保ができていた。学力に拘った文科省の考え方は、どの子にも平等に学ぶ機会に負担が増加し、不登校や特別支援学級在籍生徒の増加に繋がっていると思う。
2	○	○	○	○	○	学習指導要領の学習内容と標準時数が合っていないと感じている。時数に対して学習内容が多すぎるので、子どもが大変になり不登校が増える原因にもなっていると感じている。
3	○	○	○	○	○	学校の工夫はとうに限界を超えているので、教員の人間関係も以前より冷たく多様な人を受け入れる余裕もない 官公も民も学校に努力を求めないでほしい。とにかく業務を減らしてほしいという要望がみんなにあり、教育課程、カリキュラムを減らすこと、点数学力へのプレッシャーを現場にかけるとをやめればいい。そうなれば少し学校も明るくなり子どもの不登校も減ると現場感覚で思います。
4		○	○	○	○	部活動もあり、学校が拘束する時間が長いと感じる。水曜日が5時間であるが、欠席者が減ることが多いし、ノー部活の日も休みが減る。長時間、授業や部活で拘束することが、プレッシャーになると思う。
5		○	○	○	○	10年ほど前に学力調査の結果の高い県に研修に行きました。当時から不登校生が多いという課題がありました。ぜひ、授業時数の軽減について、考えていただきたいです
6		○	○	○	○	標準時間が増えている上に〇〇教育や朝読書、部活動などの教育課程外のものが増え、子どもも教師も基礎的なもの以外があることで早朝から長時間を学校で過ごし疲弊している。10代は睡眠が重要であるが、学校のシステムのタイトさが身体を疲弊させ、不登校を招いている。School start later を導入すべきだと思っている。
7			○	○	○	授業時数の増加よりも、校務分掌に関わる書類作成や出張等、上から降りてくる調査類の増加、部活動の練習時間や休日練習等の拘束時間の方が、負担である。不登校にしても、部活動でのトラブルが起因となる場合多いように感じる。今の指導要領の内容では、授業数がないと足りない。時数をどうこうするよりも、もっと考えるべきところや論点は別にあるように感じる。
8			○	○	○	時間も内容も詰め込みすぎだ。とにかく教科書通り「行った」という事実を積み上げれば良いと上の方は考えているように思う。結果、子どもを主体とした授業などまやかしとなり、実際は学校生活に疲れてドロップアウトする子どもがかなり増えている。
9				○	○	大人でも6時間も新しいことを学ぶのは疲れます。さらに、それが毎日となれば環境に適應できず、不登校を選んだり、ストレスを発散するために周囲に危害を加えることも理解できなくもないかと思います。大事なことはたくさんあることはわかりますが、加えていくばかりの学校教育はもう限界かとおもいます。また、受験制度が点数で行われている限り、教育をよく理解していない保護者は数字ばかりを追い求め、主体的な学習や探究の授業の大切さは理解されず、学校がやっていることの逆風にしかならないと思います。

10				○ ○	<p>授業時数が増加するが、働き方改革と言われ早く退勤するように促される。作成する書類の量は減ることなく、デジタル化の進展に伴い紙面とデータの二重帳簿の作成のため、業務が煩雑になっている。だから、家に仕事を持ち帰って仕事をするしかないのだが、セキュリティ対策として、データの取り扱いは制限され家でできる仕事の自由度が低い。それでも家で働かなければならないため、家族との時間も持てないし、プライベートと仕事とが混在している日々である。しかし、家でどんなに働いても残業にはならないし、報道等では勤務時間が削減され働き方改革が成功しているようなものを見る。勤務時間は決して短くなっていない。見えなくなり、より悪質な超過勤務の嵐である。そんな余裕のない毎日のなかで、当然突発的な生徒指導事案が発生したりする。一体どこでいつ事務的な仕事に取り組めばよいのか教えてほしい。そして、授業時数の確保のために、夏休みは短縮され、土曜授業が増え、終業式やテストの日まで授業がある。働き方改革の名の下に子どもたちが発散するはずの行事はカットされ授業ばかりの毎日である。唯一カットされないのは本来存在しないはずの全国学テのためのプレテストや問題演習の時間である。勉強や点数、宿題のことばかり先生から言われ、息抜きの行事はなくなっていくのだから不登校の子どもたちが増えるのは当然であろう。</p>
----	--	--	--	-----	---

9. 変遷の評価等 106件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
1	○	○	○	○	○	行事の中から学ぶべき内容が多く、授業数にして学ぶことの意義が逆に見いだせない。
2	○	○	○	○	○	子どもたちが疲弊しているようです。
3	○	○	○	○	○	音楽や美術など思春期に心の豊かさを養う教科の時数が減ってしまったのは残念です。
4	○	○	○	○	○	時数があるから授業しなければいけない。学びとは違うと思う。しかしいまは時間をこなすための授業になっている。
5	○	○	○	○	○	慣れもあるが、現状で工夫していけばいいと思う。
6	○	○	○	○	○	明らかにカリキュラム・オーバーロードと言えますが、一方で、技術科の時数は減らされるなど、教科間のバランスが悪くなっている。
7	○	○	○	○	○	教員定数削減とこの標準時数の影響で教職員の持ち時間が増えた事が今の教職員の休職問題や教員不足の根幹。ひいては登校拒否問題にも繋がるだろうと考えます。まずは教員の定数倍増が必須です。文科省が次から次へと教員の魅力を打ち壊す施作（給特法や定数削減等）を止めるべきでしょう。
8	○	○	○	○	○	教職員同士の付き合いの機会が少なくなった。
9	○	○	○	○	○	以前は、実技教科が、充実していて、子どもたちの心が豊かに感じた。
10	○	○	○	○	○	3年生は、卒業式が早くあるのに、年間授業数が同じなのはおかしい
11	○	○	○	○	○	学力優先的な考えで標準時間が決められている！
12	○	○	○	○	○	標準時数の増加に見合った、義務標準法や給特法の改正が必要なのにそこを怠っていることが問題の長期化、拡大を招いている。
13	○	○	○	○	○	みんな考えなくなった
14	○	○	○	○	○	6校時に一日の反省が出来た頃は良かったと思い出しました。
15	○	○	○	○	○	そもそも、6日制1015時間だったものを、隔週5日制実施でそのまま変更せず、完全5日制になったときに2土曜日分しか削減しなかったところから、教育課程の「ゆとり」がなくなった。そのころの教育は、一般に「ゆとり教育」と言われるが、我々教職員にとってのゆとりは一切なかった。その後、「選択授業」「総合的な学習の時間」の導入により、それまで行ってきた学校行事をどう組み替えるかに腐心した。〔略〕
16	○	○	○	○	○	小規模校ほど余裕がありません。
17	○	○	○	○	○	家庭科は週当たりの時間数が多く減り、5教科偏重の流れと関係していたかもしれないと思う。
18	○	○	○	○	○	国語時数が少なく、語彙力を養うことが難しくなっていると思われま
19	○	○	○	○	○	「ゆとり教育が、学力低下を招いた」とマスコミがセンセーショナルに報じた。何の客観的な事実も示さずに！要は、京大や慶大の学生が分数が出来ないと言う某教授たちの自著の宣伝に便乗しただけなのだが。何のことはない、入試から数学を除外しただけなのに！だから、分数が出来ないのではなく、単純に忘れただけのことだ。そのとぼっちりが、ずっと尾を引いているのだ。本来のゆとり教育の趣旨を、文科省自体が履き違え、勝手に放棄したところに問題の根源があるのだ。

20	○	○	○	○	○	放課後に気分的にゆったりと生徒と関わっていたなあと思う。
21	○	○	○	○	○	音楽美術などを軽視した結果、生徒が身につけるべき能力や学力が下がったと感じる
22	○	○	○	○	○	社会科でいうと、現在1年生から週3、3、4の時間数で行っているが、歴史の終盤を3年生で学習するようになった。以前は2年生で歴史を終わらせる流れだったが、3カ月であっても、2年生で戦争の学習をするのと、3年生ですのでは、生徒の受け止めが全く違う。この発達段階での3カ月は大きい。歴史を3年生に残すのは、これからも是非続けるべきである。
23	○	○	○	○	○	総合的な学習の時間が義務化されたことが標準時数が増えた要因になったと思う。
24	○	○	○	○	○	週休2日にしながら、その休日を部活動に取られたことが、時数の増減より教員を苦しめたと思う。
25	○	○	○	○	○	他教科のみなさんと観点ズレてるとは思いますが、音楽が減らされているが式典ではレベル維持が求められる。音楽こそ社会自立を促す教科と思います。音楽以外を考えれば年々勤務時間内の校内生活が多忙と感じ、生徒とのたわいない音楽談義が近年できていないなあ、このアンケート見て思いました。
26	○	○	○	○	○	技術科や美術、音楽などの教科の時数減少が、教育に悪影響をもたらした。
27	○	○	○	○	○	昔はほんとうに余裕、ゆとりがあった。今は忙しすぎる。身体がやられると心もやられそうになる。子どもたちと楽しく、仲間と楽しく過ごしたい。
28	○	○	○	○	○	今制度を根本的に見直さないと日本の教育は崩壊するのではないか
29	○	○	○	○	○	とにかく業務が多い。一人当たりの授業担当数を20以上になるようにと言われるが、放課後、部活動で教材研究や事務処理ができない中学校現場では、はじめから超過勤務をしないと処理できない業務量がある。そこに時間がなければ、十分な生徒指導も教材研究もできず苦しい。
30	○	○	○	○	○	標準であって実際はもっと多く授業するのが実態。総合の準備や不要な書類作成によりさらに時間が足りなくなっている。給食指導もあり昼休憩はないのも同然。持ち時間も増えて空き時間が多くて日に1~2時間。1時間もあいてないこともある。生徒指導で埋まることも多々ある。これでは何もできない。子どものノートをじっくりみる時間もない。1日に2~3時間の空きがあれば少し楽になる。授業が今の持ち時間の半分になると学校で教材準備もできるかも。
31	○	○	○	○	○	土曜日に授業をしていた頃は、1週間にゆとりがあった。子どもの数は減り、学級数は減ったのに、1クラス当たりの子どもの数は減らないし、校務分掌や部活の数はほとんど減らないので、多忙感が増すばかりだ。
32		○	○	○	○	土日が休みになったことは、ゆとりにつながっていると思います。
33		○	○	○	○	土曜日休みの分、平日の負担が増えた気がします。
34		○	○	○	○	日本はフィンランドの倍ほど授業してPisaで勝てない。
35		○	○	○	○	教科外の授業が増えたことで、今まで以上の仕事が増えた
36		○	○	○	○	窮屈。
37		○	○	○	○	実技教科の時数が減らされているのは非常に問題だと感じる。各教科担当がもつ時数にばらつきが出てきており、小規模校において定数上専門教員をおけない場合は週単位の時数が少ない教科担当者が複数の教科を担当する事態となっている（臨時免許状をとる手間・経費は個人持ちとなっているのも問題である）。実技教科は生活に欠かせない教科であるにもかかわらずないがしろにされているように感じるとともに、調理や図画など2時間続きで余裕をとりくめていた作業もできなくなっている。

38		○	○	○	○	標準時数を遵守しないといけない、縛りが強く、生徒の自発的な学びに時間をとりにくい。
39		○	○	○	○	週0.5～1時間の教科では生徒に考えさせる時間をとると授業の中身が進まない。
40		○	○	○	○	標準ということばの便利さ、不便さを感じます。
41		○	○	○	○	①小規模校において9教科保障がされていない。実技教科担当が時間数が少ないため免許外申請をして教えている。音楽+技術・家庭+特別支援+美術等。授業準備、テスト作成等負担が大きい事がなん十年も続いている
42		○	○	○	○	遅くまで働く教員が増えた。
43		○	○	○	○	音楽や美術といった情操を育てる授業が減ったのは良くない。
44		○	○	○	○	総合が多い。技能教科(技術家庭、音楽、美術)が少ない。
45		○	○	○	○	隙間という隙間にあらゆる活動が入れ込まれるようになり、授業準備などが勤務時間外に行われること前提の時間の動きになったと思います。
46		○	○	○	○	子どもたちも教師も余裕がないです。
47		○	○	○	○	16時頃から部活動となるので、大人も子どもも時間に追われていると思います。18時頃には皆んな帰宅して、自分の時間を持つことも大切だと思うのですが。
48		○	○	○	○	行事のための話し合いや打ち合わせが足りなくなった。
49		○	○	○	○	1日の時数が変わった際にはやりづらさを感じたが、徐々に教育内容が淘汰され、その都度の時代に合う形にはなったと感じている。それよりも、便利なものが増え、それとともに求められるものが増え、それについて行くのが大変だと感じている(生徒にとって便利なものも、時として睡眠時間を削るものになっており、そちらの方が心配である)。
50		○	○	○	○	平日に詰め込んでも、土曜が休みなので、ゆとりを作ったつもりかもしれないが、その分、土日の部活が忙しくなった。大会も増えた。生徒も教師も休めないまま月曜を迎えている。
51		○	○	○	○	音楽の授業がへり、授業編成が学力向上が中心になってきており、求める生徒の姿が学力のみで評価されてきているように感じる。
52		○	○	○	○	学校とは、子どもにとっては生活の場であり、様々な出来事を通して多面的に成長する場であると考え。しかし、現在は学力ありきとなっていて、とりわけ点数を取る力ばかりがクローズアップされている現状を見ると、塾と大差ないと感じている。
53		○	○	○	○	一日に5時間だと、部活動も勤務時間内に終わらせることができたが、現状は毎日6時間授業なので、部活動の時間確保のために大会前は部活動の時間を延長している(勤務時間以外のサービス残業)。日常的に時間外労働を数時間ずつしており、`ブラック、だと感じる。
54		○	○	○	○	職員定数が現状のままなら1015時間の標準授業時数を削減する方向が望ましい。また、行事のカウントも含めた調査をしないと現場の様子は見えてこないと思います。
55		○	○	○	○	選択授業などがなくなり、毎日5教科6時間が続き、生徒も教師も苦しくなった。
56		○	○	○	○	生徒も先生も忙しくなりました。
57		○	○	○	○	時数合わせに、音楽や美術の先生を優先的に担任にあてる様子が見られた。

58			○	○	○	○	今は空き時間がなく、あっても補充や個別対応、放課後は勤務時間終了近くに始まる部活動、その後の時間外の生徒指導や保護者対応。時間外が前提の働き方に頼ってきた。一番犠牲にしているのは、自分の裁量になる授業準備。20年前より学校に時間と心のゆとりを感じない。もっと同僚と話ができたから、協働できた。今の年齢バランスを考えると、学校は変わらなければ持続できないという実感。社会変化が学校に大きな影響を与えている。教材研究を勤務時間内に確保できるような教育課程と日課にしたい。
59			○	○	○	○	ゆとりの反動で、無い時間に何でもかんでも詰め込みすぎで教育課程にゆとりがない、常に授業時数の確保に追われている、放課後は部活動をしなければならない、などなど、いつもゆとりがない日々である。土曜が授業日だった頃に戻りたくはないが、今よりゆったりとした時間の流れだったように思う。総合がはじまり、道徳が教科になってさらにゆとりなさに拍車がかかった。
60				○	○	○	教員の業務が増えていることに加えて、時数も増えている。周囲にも退職を考えている教員が増えたように思う。
61				○	○	○	週5にしないと打ち合わせ、準備含めて時間がなくて、残業が増えている。
62				○	○	○	教科書が大きく、厚くなったことに伴って標準時数も増加しているように思われる。
63				○	○	○	ゆとり教育のゆとりという意味ではないが、教員にも子どもにも、ゆとりが必要であると感じる。
64				○	○	○	教員、生徒ともにゆとりがなくなった。昔はもっと生徒と話す時間があつたが、明らかにそのような時間が減った。
65				○	○	○	子どもが体験的な活動をする時間を増やしたいと思います。しかし、現状では日々の授業を行うので精一杯の部分があります。
66				○	○	○	人手不足で授業や教える学年が増え、多忙感が増している。空き時間は、個別対応を求める生徒の対応で、実質教材研究に使える時間、自分の教科のことをする時間は、勤務時間外しかない。せめて週に2日くらい5時間授業の日があれば、私たちも子どもたちもゆとりを持って生活できると思う。
67				○	○	○	毎日5時間じゃないと、定時退勤や時間外勤務80時間未満なんて出来るはずがない。
68				○	○	○	選択教科があり、子どもの学びが広がっていた。
69				○	○	○	コロナ禍において、標準時数が実施できなくても仕方がないと言っておきながら、そのあとは元に戻り、何もアナウンスがないことが疑問である。
70				○	○	○	業務が今よりもっと効率が悪かったはずなのに、気持ちの余裕があったように感じる。
71				○	○	○	細かく言われることはなかったし、予備時数が話題になることもなかった
72				○	○	○	勤務時間内に仕事が終わることが不可能ですし、私たちの勤務時間と生徒の登校時間が早くなるのもおかしな話で、勤務時間より後に生徒登校になると、放課後がまた遅くなり、放課後の会議が勤務時間内に終わるのも不可能になってしまいます。

73				○	○	○	午前で授業が終わるくらいの時数でないと、教材研究、分掌業務、部活動指導が勤務時間内に終わらない。ブラックな職場のため、学ばない教師が増える。教師のなり手が減り、質が下がる。生徒の余暇の時間が足りない。入試制度を変えないと、教えなければならない内容は変わらず、授業時数を減らすことができない。10年後、100年後の社会の有り様を考え、教育改革を進めてほしい。学校では、学校でできる小さな働き方改革を進めている（ICT活用等）。5教科以外の技能教科は（現在の入試制度が変わらないうちは）選択制でよい。
74				○	○	○	英語は週3回から4回に増え、かつ、オールイングリッシュでやるなどの劇的な変化があった。その変化についていくのが大変な生徒もいる。
75					○	○	指導要領の変化によって時数が増えるのはやむなしと思うが、それなら人員を増やしてほしい。カリキュラムにゆとりがないように思う。
76					○	○	標準時数に関わる影響は特に感じた事はない。影響があるとすれば他に原因があるのではと感じている。ただし、今の現場の状況でこれ以上時数の増加は無理だと感じている。
77					○	○	標準時数が増えているのに教員数は減っている。
78					○	○	国が決めた時数などに縛られ、目の前の生徒が見えなくなったり、日々の業務が雑になり、生徒にも教職員にとっても魅力ある学校になっていないと思う。
79					○	○	最近の中学生は家に帰っても習い事などが多く、一昔前より時間が少ないように感じる。
80					○	○	3年生の技術家庭が少なすぎる。
81					○	○	ゆとり世代程度の時数が良いと思う
82					○	○	現在は何をするにも時間の余裕がなく、膨大な業務量に追われている。このままでは病休になる。
83					○	○	時数が多すぎる教科と、少なすぎる教科の差が大きい。
84					○	○	総合的な学習の時間や学活など、充実した内容でなく時数を満たすためにただやっているだけの学校が多い。指導すべき教科の内容も多く、休憩がとれず残業も多いため慢性的な疲労がある。
85					○	○	現在の勤務校では、5時間日課が週に1日しかない。さらに、その5時間日課の日に会議や研修が入っているため、教材研究や事務処理などに費やす時間がない。
86					○	○	働き方改革を進めるうえで、標準時数を減らすことは大きいと思う（1人当たりのもち時数を減らす）。そのためには、教員を増やすか、仕事を本当の意味で精選しなければいけない。また、美術教員としては、もっと授業をしたい。中1で45、2、3で35は、やはり少なすぎると個人的には考える。
87					○	○	3学期の終了が早い3年生については、時数の確保が特に難しい。時数に対し、こなさなければならない教育課程は多い気がする。
88					○	○	英語を担当しているが、英語だけ3年間週4であり続けるのはどうなのかと思う。小学校からしているんだし、減らしても良いのでは。英語科で担任もすると、6限中5限埋まることが週3以上起こる。とてもしんどい。
89					○	○	丁寧に、また生徒に自主的な活動をさせると、時数が必要になる。一方で日中に授業する時間ばかりで空きがないと、授業準備にかかる時間が放課後ふえると感じた。
90					○	○	芸術教科の削減が著しい。心が豊かでなくなっていくほどに芸術教科は削減されがちだと考える。

91				○	○	時代に合わせながら、変化していきってもらいたいと思います。今の教育も充実していると思いますが、よい変化ができるようにしてもらいたいと思います。
92				○	○	道徳を学年の教員で分担したり、作成した教材を共有したり、時間外労働時間の削減に現場なりに取り組んだ。1日あたりの時間数の増加は、専門性が高い授業を行う中高の教員にとって負担増である。
93				○	○	中学校でも45分授業にして、午前中5時間授業の教育課程を組んでいる学校があることを聞いて、おもしろいなと思いました。
94				○	○	辛さ、苦しさが増えてきている。
95				○	○	学校自体に余裕がなくなっている。時数が多少増えたからといって、教育の質が上がっているという感じはしない。むしろ、やっつけ仕事の授業準備が増えて1時間授業当たりの中身や質は下がっている気がする。しかし、丁寧に授業準備をしていたらその日のうちに帰れない…時数がだけでなく、色々なアンケートや調査、書類等がどんどん増えていることも余裕がなくなっている原因な気がする。
96				○	○	技能系の授業時数が減ったため、作品ができあがらず、結局残して制作させている。生徒もリラックスできる時間が減っている。
97					○	時数に対して教員の数が少なすぎる。授業だけやってるわけではないので、そこがかなりオーバーワークになってしまう。
98					○	教科、学校、自治体によって担当する時数が違いすぎる。本務者よりも非正規職員の方が担当時数が多いこともあり、おかしいと思う。標準時数が増加すると、担当時数も増加するわけだから、少ない方が良い。
99					○	実態と見合っていないと感じるところがある。
100					○	授業数は減らないのに教員の仕事は増えていく現状は、これから職業選択をする若い世代にとって魅力的な職業とはいえず、教員の質・量がともに低下することにつながるのではと危惧します。
101					○	今の学校では職員会議の際は5時間授業一斉下校なので少し動きやすさを感じる。
102	○		○	○	○	時数の増加が、各国と比較して、学力の向上につながっているか、検証してほしい。
103		○	○	○		勤務時間内にゆっくり授業準備ができない。授業準備以外の時間も取れない。例えば各種会議（学年会、分掌担当者会等）を勤務時間内に企画しようとしても、授業や出張の関係でできないことが多い。結局、勤務時間外にせざるを得ない。また、最近、研修でWeb視聴が増えたが、勤務時間内に視聴する時間が確保されず、結局勤務時間外に行っている実態がある。
104		○	○	○		中3が卒業式が早い分、中3の時数に中2と中1の時数を合わせる傾向が出やすくなる。カリマネというと体裁はいいが、結局時数消化のやりくりを学校に丸投げすることになり、そのマネジメントの負荷がかかるためコストが増えているがそれを無視している。
105	○	○			○	受験教科に偏りすぎて、勉強に楽しさが無い感じがする。
106			○		○	6時間が多く、数少ない5時間の日は研修が入り、勤務時間内に授業準備が出来ない現状があるかと思います。

東京学芸大学 大森直樹研究室主催 公立中学等教員対象

中学の標準時数の変遷についてのアンケート 回答ご協力依頼

公立中学等教員のみなさま

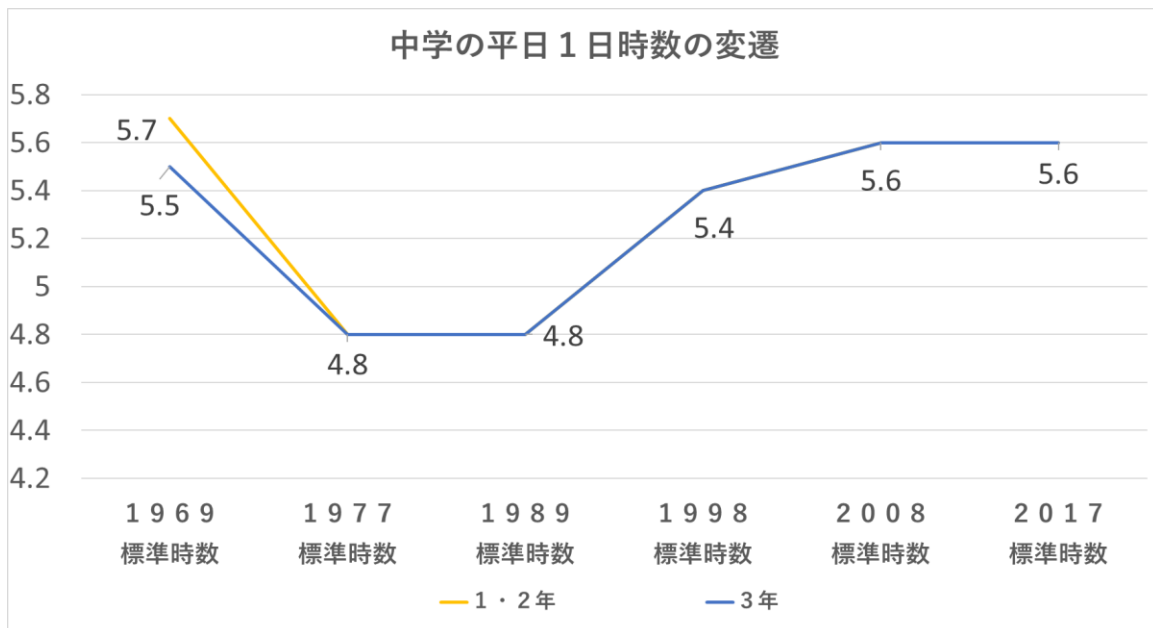
東京学芸大学の大森直樹です。公立中学校・中等教育学校（前期）・義務教育学校（後期）のみなさまのお力を得て標準時数の変遷についての研究をすすめてく、このご依頼を差し上げております。

中学等の教育課程、とくにその授業時数は、国が定めた標準時数（教育課程基準の1つ）にもとづき各校が定めています。平日1日あたりの標準時数は、下記の図のように変遷してきました。各期の標準時数下の教育課程について、公立中学等教員の方々に、経験にもとづく感想をいただき、今後の教育課程基準のあり方の改善に活かすことが本アンケートの目的です。回答は匿名で集計され、所要時間は2～6分です。よろしくお願いたします。

アンケートフォームはこちらから↓


<https://forms.gle/93kzuTjxy9H3b64U7>

- ・スマートフォン・タブレット等から回答可能です。
- ・回答は匿名で集計され、所用時間は2～6分です
- ・回答締め切り：2024年**9月30日**
※締め切りを延長しました



- ・平日1日の標準時数は、週6日の1969・1977・1989期は「週標準時数－4（土曜の時数）÷5日」で算出し、週5日の1998・2008・2017期は「週標準時数÷5日」で算出した
- ・週標準時数は「年標準時数÷35週」で算出した
- ・その年標準時数は特別活動の標準時数を差し引いた値を用いた（各期で特別活動のカウントが異なるため）
- ・1989標準時数の特別活動は35～70時間の幅があるが70時間を差し引いた
- ・1977標準時数より1・2年と3年は平日1日時数が同じ

このアンケートおよび調査は、一般財団法人教育文化総合研究所が協力しています。

お問合せ TEL 03-3230-0564 / メールフォーム <https://www.k-soken.gr.jp/pages/3/>

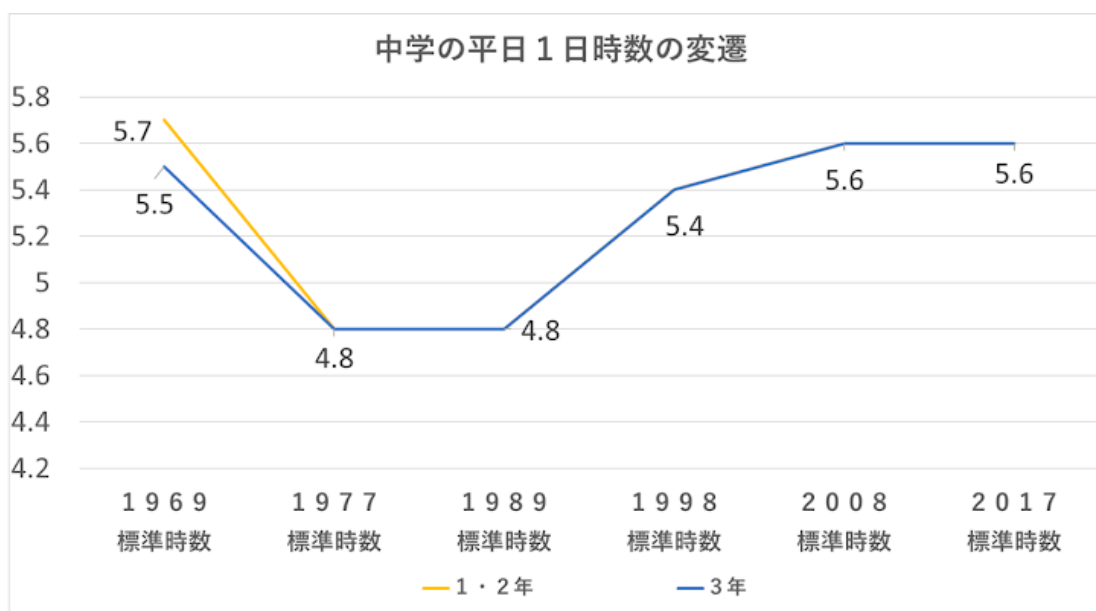
中学の標準時数の変遷についてのアンケート

こちらは、東京学芸大学・大森直樹研究室が主催するアンケートです。

中学等の教育課程、とくにその授業時数は、国が定めた標準時数(教育課程基準の1つ)にもとづき各校が定めています。平日1日あたりの標準時数は、下記の図表0のように変遷してきました。各期の標準時数下の教育課程について、公立中学校・中等教育学校(前期)・義務教育学校(後期)の教員の方々に、経験にもとづく感想をいただき、今後の教育課程基準のあり方の改善に活かすことが本アンケートの目的です。回答は匿名で集計され、所要時間は2～6分です。よろしくお願いいたします。

* 必須の質問です

【図表0】中学の平日1日時数の変遷



- ・ 平日1日の標準時数は、週6日の1969・1977・1989期は「週標準時数-4(土曜の時数)÷5日」で算出し、週5日の1998・2008・2017期は「週標準時数÷5日」で算出した
- ・ 週標準時数は「年標準時数÷35週」で算出した
- ・ その年標準時数は特別活動の標準時数を差し引いた値を用いた(各期で特別活動のカウントが異なるため)
- ・ 1989標準時数の特別活動は35～70時間の幅があるが70時間を差し引いた
- ・ 1977標準時数より1・2年と3年は平日1日時数が同じ

問 0-1

現在お勤めの公立中学校・中等教育学校(前期)・義務教育学校(後期) の、所在都道府県を以下から選んでください。1つだけマークしてください。*

<input type="radio"/> 北海道	<input type="radio"/> 新潟県	<input type="radio"/> 鳥取県
<input type="radio"/> 青森県	<input type="radio"/> 富山県	<input type="radio"/> 島根県
<input type="radio"/> 岩手県	<input type="radio"/> 石川県	<input type="radio"/> 岡山県
<input type="radio"/> 宮城県	<input type="radio"/> 福井県	<input type="radio"/> 広島県
<input type="radio"/> 秋田県	<input type="radio"/> 山梨県	<input type="radio"/> 山口県
<input type="radio"/> 山形県	<input type="radio"/> 長野県	<input type="radio"/> 徳島県
<input type="radio"/> 福島県	<input type="radio"/> 岐阜県	<input type="radio"/> 香川県
<input type="radio"/> 群馬県	<input type="radio"/> 静岡県	<input type="radio"/> 愛媛県
<input type="radio"/> 栃木県	<input type="radio"/> 愛知県	<input type="radio"/> 高知県
<input type="radio"/> 茨城県	<input type="radio"/> 三重県	<input type="radio"/> 福岡県
<input type="radio"/> 埼玉県	<input type="radio"/> 滋賀県	<input type="radio"/> 佐賀県
<input type="radio"/> 千葉県	<input type="radio"/> 京都府	<input type="radio"/> 長崎県
<input type="radio"/> 東京都	<input type="radio"/> 大阪府	<input type="radio"/> 熊本県
<input type="radio"/> 神奈川県	<input type="radio"/> 兵庫県	<input type="radio"/> 大分県
	<input type="radio"/> 奈良県	<input type="radio"/> 宮崎県
	<input type="radio"/> 和歌山県	<input type="radio"/> 鹿児島県
		<input type="radio"/> 沖縄県

問 0-2

おもに担当してきた教科等を以下から選んでください。

1つだけマークしてください。*

<input type="radio"/> 国語	<input type="radio"/> 社会	<input type="radio"/> 数学	<input type="radio"/> 理科	<input type="radio"/> 音楽	<input type="radio"/> 美術	<input type="radio"/> 保健・体育	<input type="radio"/> 技術・家庭
<input type="radio"/> 外国語	<input type="radio"/> その他						

問 1

1977 年の標準時数の期間に(1981~1992 年度)、中学教員として勤務しましたか？
1つだけマークしてください。*

はい いいえ(→問2にスキップします)

1977 年の標準時数(以下、1977 標準時数)について、図表1をご覧ください。

【図表1】1977 標準時数(1981~1992 年度)について
特徴

- ・6日制、平日はほぼ5時間目まで
- ・標準時数 1050 を 35 で割ると週 30 コマ
- ・全教科領域が 35 の倍数
- ・選択が 1・2 年 105 時間、3 年 140 時間

時間割例(中1)

	月	火	水	木	金	土
1	国	国	国	国	国	道
2	社	社	社	社	音	学活
3	数	数	数	音	美	生徒
4	理	理	理	美	保体	外
5	外	技家	保体	保体	技家	
6		外				

問1-1

1977 年の標準時数(6日制、週 30 コマ)期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？
1つだけマークしてください。

合っていた やや合っていた やや合っていなかった 合っていなかった

問1-2

1977 標準時数期間の教育課程では、子どもの学習は充実していましたか？ 1つだけマークしてください。

充実していた やや充実していた やや充実していなかった 充実していなかった

問 2

1989年の標準時数(1993～2001年度実施)の期間、中学校教員として勤務しましたか？
1つだけマークしてください。*

はい いいえ(→問3にスキップします)

1989年の標準時数(以下、1989標準時数)について、図表2をご覧ください。

【図表2】1989標準時数(1993～2001年度実施)について
特徴

- ・6日制、平日はほぼ5時間目まで
- ・標準時数 1050 を 35 で割ると週 30 コマ
- ・全教科領域が 35 の倍数
- ・選択が1年 105～140 時間、2年 105～210 時間、3年 105～280 時間

時間割例(中1)

	月	火	水	木	金	土
1	国	国	国	国	国	道
2	社	社	社	社	音	学活
3	数	数	数	音	美	生徒
4	理	理	理	美	保体	外
5	外	技家	保体	保体	技家	
6		外				

問 2-1

1989年の標準時数(6日制、週 30 コマ)期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？
1つだけマークしてください。

合っていた やや合っていた やや合っていなかった 合っていなかった

問 2-2

1989標準時数期間の教育課程では、子どもの学習は充実していましたか？ 1つだけマークしてください。

充実していた やや充実していた やや充実していなかった 充実していなかった

問 3

1998年の標準時数(2002～2011年度実施)の期間、中学等教員として勤務しましたか？
1つだけマークしてください。*

はい いいえ(→問 4 にスキップします)

1998年の標準時数(以下、1998標準時数)について、図表3をご覧ください。

【図表3】1998標準時数(2002～2011年度実施)について
特徴

- ・5日制、毎日がほぼ6時間目まで
- ・標準時数 980 を 35 で割ると週 28 コマ、その中の特別活動は週1コマのみに
- ・総合は1年 70～100 時間、2年 70～105 時間、3年 70～130 時間
- ・35 の倍数ではなくなった教科がある(1年の音楽・美術が 45、体育が 90)
- ・選択は1年 0～30 時間、2年 50～85 時間、3年 105～165 時間

時間割例(中1)

	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	外
2	社	社	社	外	道
3	数	数	数	音	生徒
4	理	理	理	美	保体
5	外	総	保体	保体	技家
6	技家	総	音美	学活	

問 3-1

1998年の標準時数(5日制、実質は週 29 コマ)期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？ 1つだけマークしてください。

合っていた やや合っていた やや合っていなかった 合っていなかった

問 3-2

1998標準時数期間の教育課程では、子どもの学習は充実していましたか？ 1つだけマークしてください。

充実していた やや充実していた やや充実していなかった 充実していなかった

問 4

2008 年の標準時数(2012～2020 年度実施)の期間、中学等教員として勤務しましたか？
1つだけマークしてください。*

はい いいえ(→問5にスキップします)

2008 年の標準時数 (以下、2008 標準時数)について、図表 4 をご覧の上、ご回答ください。

【図表4】2008 標準時数 (2012～2020 年度実施)について
特徴

- ・5日制、毎日が6時間目まで
- ・標準時数 1015 を 35 で割ると週 29 コマ、その中の特別活動は週1コマのみ
- ・総合は1年 50 時間、2・3年 70 時間
- ・35 の倍数ではない教科がある(1年の音楽・美術が 45)

時間割例(中1)

	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	外
2	社	社	社	外	道
3	数	数	数	音	生徒
4	理	理	理	美	保体
5	外	総	保体	保体	技家
6	技家	総	数	学活	外

問 4-1

2008 標準時数(5日制、実質は週 30 コマ)期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？ 1つだけマークしてください。

合っていた やや合っていた やや合っていなかった 合っていなかった

問 4-2

2008 標準時数期間の教育課程では、子どもの学習は充実していましたか？ 1つだけマークしてください。

充実していた やや充実していた やや充実していなかった 充実していなかった

問 5

2017年の標準時数(2021年度～実施)の期間、中学等教員として勤務しましたか
1つだけマークしてください。*

はい いいえ 問6にスキップします

2017年の標準時数(以下、2017標準時数)について、図表5をご覧ください。

【図表5】2017標準時数(2021年度～実施)について
特徴

- ・5日制、毎日が6時間目まで
- ・標準時数 1015 を 35 で割ると週 29 コマ、その中の特別活動は週1コマのみ
- ・35 の倍数ではない教科がある(1年の音楽・美術が 45)

時間割例(中1)

	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	外
2	社	社	社	外	道
3	数	数	数	音	生徒
4	理	理	理	美	保体
5	外	総	保体	保体	技家
6	技家	総	数	学活	外

問 5-1

2017標準時数(5日制、実質は週30コマ)期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？ 1つだけマークしてください。

合っていた やや合っていた やや合っていなかった 合っていなかった

問 5-2

2017標準時数期間の教育課程では、子どもの学習は充実していましたか？ 1つだけマークしてください。

充実していた やや充実していた やや充実していなかった 充実していなかった

問 6

平日1日の標準時数が、1977年と1989年では4.8時間でしたが、1998年に5.4時間になり、2008年と2017年では5.6時間になっています。このことに関して以下の質問にご回答ください。

問 6-1

平日1日の標準時数の増加が、不登校の生徒の増加と関係していると思いますか。1つだけマークしてください。

- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

問 6-2

平日1日の標準時数の増加が、教職員の病休者の増加と関係していると思いますか。1つだけマークしてください。

- 関係していないと思う
- どちらかというに関係していないと思う
- どちらかというに関係していると思う
- 関係していると思う
- わからない

問 6-3

以下のうち、平日1日の標準時数の増加が影響していると思われる事柄があればチェックしてください(いくつでも可)。影響していないと思われる事柄、わからない場合はマークしないで結構です。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 放課後の補習が時間的にやりにくくなった
- 放課後に生徒と話すことが少なくなった
- 教職員の間で生徒について話すことが少なくなった
- 放課後に職員会議を持つことが時間的に難しくなった
- 授業準備をする時間が少なくなった
- 教職員が一斉に授業研究をすることが難しくなった
- 放課後に教職員が一斉に休憩をとることが難しくなった
- 多忙とを感じるようになった
- 早期退職する教職員が増えた

問6-3に関して、その他に、平日1日の標準時数の増加が影響していると思われることがある場合ご記入ください。

問 7

標準時数のあり方についてお気づきの点がありましたらご記入ください。感想やご意見、当時の学校での工夫、印象的な出来事など、なんでも結構です。

質問はこれで終了です、下の「送信」ボタンをクリックして送信してください。ご協力ありがとうございました。

Google

著者

■大森直樹

東京学芸大学現職教員支援センター機構教授

1965年7月31日東京生 教育史

<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~omoriken/>

調査協力者

■一般財団法人教育文化総合研究所

2016年4月1日設立 前身は1991年設立の国民教育文化総合研究所

<https://www.k-soken.gr.jp/>

中学の標準時数の変遷に関する調査

—結果と提言—

2024年 11月 30日 発行

著者 大森直樹

発行所 東京学芸大学大森直樹研究室

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

Tel :042-329-7350

Fax :042-329-7350